Vol.78通巻900号　平成9年3月1日発行　毎月1回1日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可　ISSN 0912-8182



特集

東海支部会員作品
金沢・能登ー風土・文化とまちなみ・建築ー

建築と社会 3

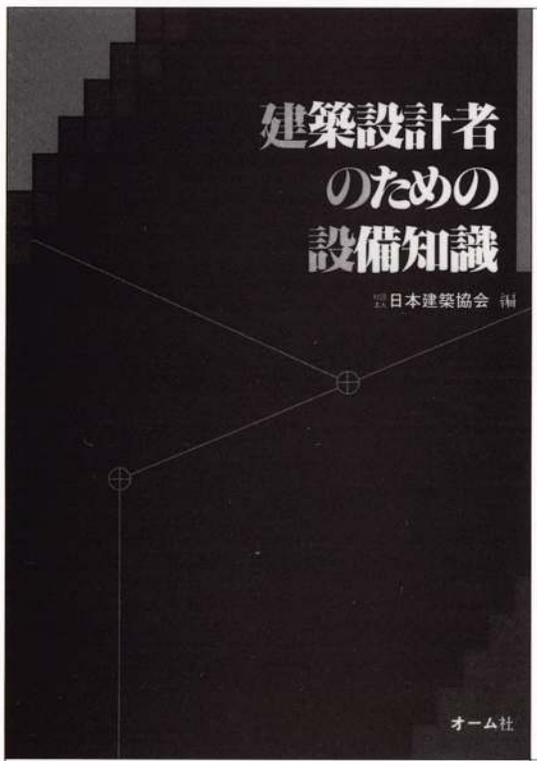
日本建築協会
1997

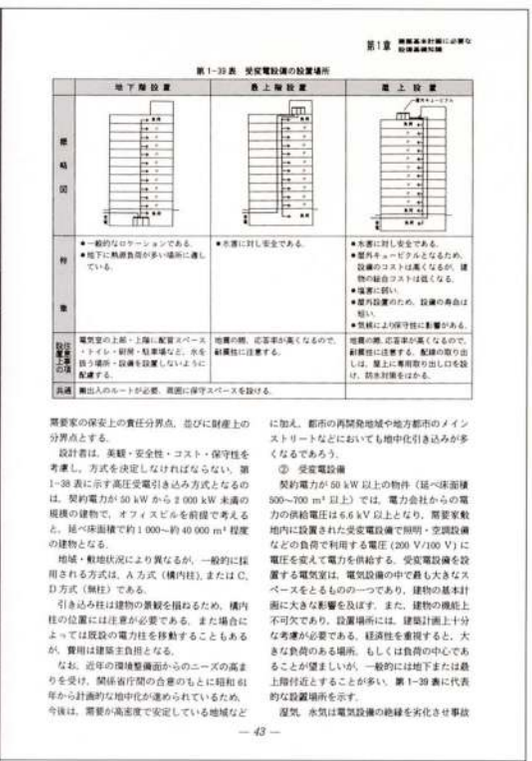
㈳日本建築協会編／オーム社発行

建築設計者のための設備知識

——増刷しました！——

B5判　220頁　上製本　定価5000円(本体4854円)　'95・6月30日 第2刷刊行





第1章

第1-39表　受変電設備の設置場所

	地下階設置	最上階設置	最上設置
概略図			
特徴	●一般的なロケーションである。 ●地下に熱源負荷が多い場所に適している。	●水害に対し安全である。	●水害に対し安全である。 ●屋外キュービクルとなるため、設備のコストは高くなるが、建物の総合コストは低くなる。 ●塩害に弱い。 ●屋外設置のため、設備の寿命は短い。 ●気候により保守性に影響がある。
設計上の注意点	電気室の上部・上階に配置スペース・トイレ・厨房・駐車場など、水を扱う場所・設備を設置しないように配慮する。	地震の際、応答率が高くなるので、耐震性に注意する。	地震の際、応答率が高くなるので、耐震性に注意する。配線の取り出しは、屋上に専用取り出し口を設け、防水対策をはかる。
共通	搬出入のルートが必要。周囲に保守スペースを設ける。		

需要家の保安上の責任分界点、並びに財産上の分界点とする。

設計者は、美観・安全性・コスト・保守性を考慮し、方式を決定しなければならない。第1-38表に示す高圧受電引込み方式となるのは、契約電力が50 kWから2 000 kW未満の規模の建物で、オフィスビルを前提で考えると、延べ床面積で約1 000～約40 000 m² 程度の建物となる。

地域・敷地状況により異なるが、一般的に採用される方式は、A方式（構内柱）、またはC、D方式（無柱）である。

引き込み柱は建物の景観を損ねるため、構内柱の位置には注意が必要である。また場合によっては既設の電力柱を移動することもあるが、費用は建築主負担となる。

なお、近年の環境整備面からのニーズの高まりを受け、関係省庁間の合意のもとに昭和61年から計画的な地中化が進められているため、今後は、需要が高密度で安定している地域などに加え、都市の再開発地域や地方都市のメインストリートなどにおいても地中化引き込みが多くなるであろう。

② 受変電設備

契約電力が50 kW以上の物件（延べ床面積500～700 m² 以上）では、電力会社からの電力の供給電圧は6.6 kV以上となり、需要家敷地内に設置された受変電設備で照明・空調設備などの負荷で利用する電圧（200 V/100 V）に電圧を変えて電力を供給する。受変電設備を設置する電気室は、電気設備の中で最も大きなスペースをとるものの一つであり、建物の基本計画に大きな影響を及ぼす。また、建物の機能上不可欠であり、設置場所には、建築計画上十分な考慮が必要である。経済性を重視すると、大きな負荷のある場所、もしくは負荷の中心であることが望ましいが、一般的には地下または最上階付近とすることが多い。第1-39表に代表的な設置場所を示す。

湿気、水気は電気設備の絶縁を劣化させ事故



第6章

第6-3表　空調システム例（3）

方式	概略系統	特徴	エネルギー	電気またはガス	熱源設備	屋上設置機器	兼用可	評価				
E 空調機＋ファンコイル方式（中央熱源）		インテリア負荷は空調機、ペリメーター負荷はファンコイルで負担する。空調機の送風量はペリメーター分だけ少なくすることができるので、納まりはよい。温度制御は、ゾーニングができているためよい。南面の冬季の日射負荷対応には、ファンコイルの配管を冷水・温水の4管とする必要がある。	熱源機械室	不要				保守	騒音	温度制御	スペース
			空調機械室	1フロア 1 600×800×1方台		屋上設置機器	方式ごと同様	◎	◎	◎	○
			PS	ファンコイル100×100 機械室兼用				運転	コスト	プラントの契約	外気冷房
			DS	不要				○	○	◎	可
F 空調機＋パッケージ方式（個別熱源（中央熱源併用））		インテリア負荷は空調機、ペリメーター負荷はウォールスルー型パッケージで負担する。ダクトサイズは、E方式同様小さい。ゾーニングができているため、温度制御性はよい。南面の冬季日射負荷には、個別対応が可能。時間外には中央熱源を運転しなくても、パッケージで冷暖房が可能（窓面より6 m程度）。	エネルギー	電気＋電気またはガス	熱源設備	屋上設置機器	兼用可	評価				
			熱源機械室	不要				保守	騒音	温度制御	スペース
			空調機械室	1フロア 1 600×800×1方台				◎	◎	◎	○
			PS	機械室兼用				運転	コスト	プラントの契約	外気冷房
			DS	不要				◎	○	◎	可

■目次

序　論　建築設計のための設備

第1章　建築基本計画に必要な設備基礎知識
給排水衛生設備／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／ごみ処理設備

第2章　事務所ビルの設備基礎知識
給排水衛生設備（＋ごみ処理）／空気調和設備／電気設備／昇降機設備

第3章　商業ビルの設備基礎知識
給排水衛生設備（＋ごみ処理）／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／貸方基準

第4章　集合住宅の設備基礎知識
給排水衛生設備（＋ごみ処理）／電気設備／昇降機設備／電気エネルギー設備／ガスエネルギー設備

第5章　意匠設計者による設備の打ち合わせ
現地調査／官庁打ち合わせ事項／建築主打ち合わせ事項／法規チェックリスト

第6章　事務所ビルの設計例
給排水衛生設備／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／モデルビル設備概要

第7章　商業ビルの設計例
給排水衛生設備／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／ごみ処理設備／モデルビル設備概要

第8章　建築と設備の接点
外壁，屋根／ドアガラリー／機械室／屋上，屋外／天井／DS，PS／EPS／フロアダクト／設備更新／騒音・振動の防止／住宅用メーターボックス／各種機器の納まり／配管スペース

本著書は、㈳日本建築協会機関誌「建築と社会」に3回にわたり特集した内容をベースに、環境問題にゆれる現在の社会状況を織り込み、最新の技術情報を盛り込むべく新たに書き起こしたもので、執筆には、東畑建築事務所、日建設計、安井建築設計事務所、大阪ガス、関西電力の設備設計者が当たり、編集委員会で推敲を重ねました。

第一線で活躍する設備設計者が、実務において、建築と設備のかかわりあう場で直面した問題を掘り起こしその解決を選択肢て示した本書は、意匠設計者のみならず、初歩の設備設計者にも好個の資料になるものと思います。

本書のお求めは、全国の書店で!!

㈳日本建築協会（〒530大阪市北区梅田1-1-3-2100TEL06-348-0635、FAX06-348-0634）では、割引価格（＋送料実費）で販売しますので、本会までご注文下さい。

社団法人 日本建築協会 創立80周年

社団法人 日本建築協会

創立80周年記念式典と祝賀会ご案内

本会は本年３月に創立80周年を迎えます。この意義ある年を記念して記念式典・表彰式、講演会等を開催いたしますのでご案内申し上げます。

記

記念式典・表彰式、講演会、祝賀会　　平成9年3月28日（金）

於 太閤園　大阪市都島区網島町9-10　TEL06-356-1111

①式典・表彰式（2：30～3：50）

開会の辞　記念事業実行委員長
物故者への黙祷
式　　辞　日本建築協会会長
祝　　辞　建設省住宅局長
　　大阪府知事
　　大阪市長
　　日本建築学会会長
祝電披露
表 彰 式　（イ）日本建築協会賞表彰
　　（ロ）創立80周年記念表彰
閉会の辞　記念事業実行副委員長

②講演会（4：00～5：00）

演題「建築は文化か文明か」
講師　建築家　清家　清

③祝賀会（5：10～6：40）

ビュッフェ・スタイルの立食パーティー
会費　10,000円

振替用紙（総会通知に同封）でお払込み下さい。
なお、当日会場でも受け付けます。

注：日本建築協会賞
本会創立70周年を契機として、建築界における総合団体としての性格に基づき、建設に関わるあらゆる分野において社会に貢献した団体または個人に対して、その業績を讃えると共に、わが国文化の向上、公共の福祉に寄与することを目的とする。
今回は第４回の協会賞の授与である。



1997年2月1日現在

神戸ファッションプラザ見学会

「神戸ファッションプラザ（KFP）は、六甲アイランドの中心エリアの一角に位置して、「こだわりの生活主義ーファッションの創造」をテーマとした複合施設で、公共施設（美術館・公共駐車場）と民間施設（ホテル・映画館・大規模商業施設及び駐車場）に大別される。
中央に直径50m高さ40mのアトリウムを配置して、官・民施設が結びつく接点とし、美術館のオルビスホールとともにKFPの賑わいの創出の核となるオープンなイベント空間として機能するように計画されている。
またリバーモールに面したオルビスホールは、飛来したUFOを想起させて、スペイン階段をイメージした大階段とラセンに建物周囲をとりまく外部階段、花崗岩・タイル・金属で構成された外観とともに、過去から未来へ無限に回帰上昇する、ファッションの進化を表現している。
公共施設は、日本初のファッションのための美術館であり、2,000㎡の常設展示室、1,000㎡の企画展示室、ファッションを対象としたライブラリー、情報発信・教育のためのリソースセンター、可動床を有する400席の多目的イベントホール「オルビスホール」及び収蔵庫群等で構成されている。
民間施設は、「生活ファッションショーの感性のステージ」をテーマにしたRINK（専門店群、レストラン街）、7館・1,500席を有するマルチプレックス映画館「MOVIX六甲」、300㎡の大宴会場・145室の客室をもつ「神戸ローザンヌホテル」で構成されており、生活を豊かにする“街遊び”を楽しんでいただける施設としています。
（高津章雄・万波誠三／設計JV）



●建築概要
所在地　神戸市東灘区向洋町中2-9-1
主要用途　美術館、物販・飲食店舗、映画館、ホテル、駐車場
建築主　㈱神戸ファッションプラザ（一部竣工後神戸市買取）
設計監理　昭和設計・大成建設一級建築士事務所JV
施工　大成建設
敷地面積　18,333.09㎡
建築面積　13,725.18㎡
延床面積　91,664.27㎡
構造規模　S・一部SRC、B2・19F・P1
工期　1993年8月～1997年3月
オープン　商業施設3月20日（予定）
ホテル4月5日（予定）
美術館4月25日（予定）

日時　1997年4月15日㈫
14:00—17:00
講師　高津章雄／昭和設計企画・設計部開発企画室副室長
万波誠三／大成建設設計部次長
武田修示／大成建設作業所長
定員　50人＊申込多数の場合は抽選
集合　現地
参加費　会員1,000円、一般2,000円
申込　4月8日㈫までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名：神戸ファッションプラザ見学会
②氏名
③個人・団体会員、一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を4月9日㈬に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第3ビル21階 〒530
FAX.348-0634 TEL.348-0633

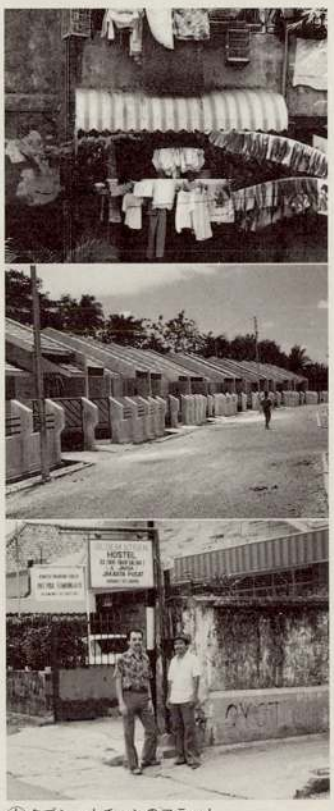
アジア建築文化誌研究会 第10回
インドネシア、ジャワの都市と住まい
都市居住の近代化と住まいの文化

研究会では、1年以上に及ぶフィールド調査をおこなっている研究者を中心に、アジア、住宅、建築に関心を寄せる方がたにご参加いただき、その研究成果を発表、情報交換し、またその情報をひろく発信しアピールすることを目指しています。
アジアの多様な住まい、生活慣習、伝統を学び考えることによって、住まいを多角的にとらえる契機になれば、と研究会を公開しています。
お気軽にご参加ください。

日時　1997年3月22日㈯
18:00—21:00
会場　学芸ホール
＊学芸出版社3F
発表者　田原直樹
定員　30人（申込み先着順）
参加費　500円
＊資料・飲物代
申込　3月19日㈬までに、ハガキ、FAX、E-mailでお申込み下さい。
①催し名：アジア建築文化誌研究会
②氏名
③職場・学校名
④連絡先：住所、電話・FAX番号
をお知らせ願います。
申込先　学芸出版社編集部
（担当：藤谷）
京都市下京区木津屋橋通西洞院東入　〒600
FAX.075-342-2605
TEL.075-342-2600
E-mail:gakugei @ mbox.kyoto-inet.or.jp
主催　アジア建築文化誌研究会
事務局：学芸出版社
後援　㈳日本建築協会

近年、インドネシアでは、都市居住政策の一環として公的セクターによる住宅団地の開発が行われてきました。これまでに供給された住戸数でみる限りきわめて小さな存在に過ぎませんが、かつてわが国が経験したように、将来の都市居住のあり方に何らかの影響を与える可能性がないとはいえません。その意味では、こうした試行的な住宅供給の意義は小さくないと思われますが、その反面で多くの問題を抱えているのも事実です。都市居住の近代化が、良くも悪くも住まいの文化に何をもたらそうとしているのかを、さまざまな観点から検証する必要があります。とりわけ、そこで営まれる人々の暮らしを通してみることの大切さは指摘するまでもないでしょう。新しい形式の住宅を、伝統的な住まいの文化の継承と変容という観点から見ることによってこの問題にアプローチしてみたいと思います。
（田原直樹）

田原直樹（たはら　なおき）
兵庫県立人と自然の博物館（姫路工業大学）主任研究員
『神々と生きる村　王宮の都市』共編著、学芸出版社、1993年



㊤クブン・カチャンのフラット
㊥スラカルタの嫁工間近の公団住宅
㊦ジャカルタの安宿街、ジャクサ通りにて

今月の表紙
神戸ハーバーランドの夜景
撮影　松村芳治
表紙デザイン　安里俊久

建築と社会 3

1997
ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN
1917年創刊　第78集／通巻900号

CONTENTS

特集● **東海支部会員作品**

愛知県西三河総合庁舎／掛川市庁舎／小牧警察署庁舎 ——12
愛知県女性総合センター（ウィルあいち）
名古屋市立大学教養教育棟／名古屋市立大学芸術工学部工房棟
河合塾大阪校S館／日進市スポーツセンター／大松美術館
ナディアパーク／K・MIX本社ビル／愛知労働金庫本店
ツィンメッセ静岡（静岡産業支援センター）
中部電力川越電力館テラ46
ジェトロ名古屋輸入車ショールーム／ザ・シーン城北
竹中工務店八事家族寮・竹友寮
鳥羽シーサイドホテル新館「海の章」
高山グリーンホテル天領閣
ゼネラル石油(株)木曽駒リゾートハウス
ザ・サードプレイスC.C.雲出川コース.クラブハウス
アピタ名古屋南店
イオン鈴鹿ショッピングセンターベルシティ
ネクステージ知立／岐阜神田町アーケード
Tokai Sketct Book ——12

特集● **金沢・能登—風土・文化とまちなみ・建築**

□金沢・能登／風土・文化とまちなみ
• 金沢の伝統文化と産業●藤田真英 ——64
• 金沢市のまちなみ保存施策●堀内　勝 ——68
□金沢・能登／伝統と文化、地域の活性化への試み
• 羽咋市のUFOまちおこし●和田　徹 ——72
• 「まんだら村」整備事業について●丹圃俊記 ——73
• 能登半島—枠旗祭りの郷●村田正明 ——76
□金沢・能登／地域の作品紹介
• 毛綱毅曠と能登 ——78
能登島ガラス美術館
のと門前ファミリーイン ビュー・サンセット
桂文珍芸術工房 TERRA
• 石川県水産総合センター●川嵜　清 ——82
• 金沢周辺での仕事●瀧　光夫 ——84
石川県林業試験場・展示館
石川県農業総合試験場・ビジターセンター
• 金沢・能登を考える●内井昭蔵 ——88
金沢港大野からくり記念館
石川県七尾美術館
□見聞記４題 ——90
□東海４県建築マップ（1971～1985） ——92

作品作風　沖縄県消防学校　4
SMJ三条共同ビル

gallery　下沢通の歯科医院（設計：池上　明）●朝倉一晃　8

建築の眼　震災復興とコレクディブ・タウン／三輪康一.旧朝鮮総督府庁舎撤去事件について／上野卓男　10
フローからストックへ／塘　伸夫.作品展二つ／田中英一.

会告　創立80周記念式典と祝賀会ご案内.神戸ファッションプラザ見学会.アジア建築文化誌研究会　1
(10)インドネシア、ジャワの都市と住まい

REPORT　青年海外協力隊体験記／エティオピア政府都市開発省での17ヵ月●大山昌宏　95

W　建築家おすすめデートスポット—仕組まれた意匠—（川﨑　清）●池田聡実　96

法令コーナー　京都市屋外広告物等に関する条例●上田博司　98

構造の頁　Y型ブレースダンパーを用いた制震設計の実例●田中耕太郎　99

設備の頁　抗菌とトイレ●福原宏一郎　100

GBRCニュース　新規購入機器紹介—材料万能試験機用荷重コントロールシステム　101

基礎講座A　語意のあいまいな言葉は使わない●山田　修　102

基礎講座B　設計図書の理解●河津隆之　103

ブックステーション　短評４題●伊藤郁郎、稲木裕子、高岡伸一　104

書評　—建築空間への接近—日本の建築空間（安原盛彦）●本多友常　105

Information　高齢者ケア施設設計競技.浪速消防署公開設計競技.建築道具館オープン.東孝光教授退官記念フォーラム.関西建築学生企画[da]イベント. ATC関西学生卒業作品展.「'97韓国建築資材商談会」『ル・コルビュジエ：黄金尺—創造者の道具』.「絵画の中の床模様」展　106

投稿　明治建築研究会版［平成８年・大阪の近代建築10大ニュース］●明治建築研究会　107

月間の動き　平成８年12月分　109

■特集予告
４月号／創立80周年記念号
「80人の眼—建築と私と社会—」
５月号／木造建築物の伝統技術とその将来
６月号／住む空間の復興
住宅-都市整備公団関西支社15周年

編集委員会（平成８年度）
■副会長　田ノ畑好幸　金多　潔　※西岡　道雄　葉貴　公明　野口　太郎
■編集理事　梅井　貴廣　荒巻　恭士　松浦　肇　井上　豊　水谷　昇　小島　雄　村上幸三郎　横平　光伸
★施工材料分科会　立野　一郎　※植田　実　真塚　達夫　小椎八重猛　松村　慶三　志水　史典　溝神宏至朗　十倉　毅　山田　修　野口　和宏　◎與謝野　久　吉田　茂二　来澤　秀暢
■編集顧問　東　孝光
■編集委員　★法令分科会　★計画系分科　入江田吉仁　☆計画系　江山　雅已　伊縫　憲幸　樫田　攻　梅村　宏尚　※城戸　史郎　小浦　久子　中村　正昭　鈴木　克彦　浜野　幸雄　田中　直人　■作品作風小委員会　松川　敏正　赤木　隆　横関　真紀　秋山　茂　※吉村　英祐　朝倉　一晃　☆建築計画系　小笠原絵理　荒井　博　川上比奈子　磯村千恵子　倉渕奈千子　上杉　秀隆　杉原　繁　江副　敏史　○富田　昌義　荻窪　伸彦　中村　文紀　菅野　忠司　藤城　義丈　笹村　欽也　前川　治彦　佐藤不二男　前田　幸宏　※塚本　史郎　増田　敬彦　刃金　国雄　増田　俊哉　山本　匡　宮地雄一郎　☆インテリア・住宅系　■企画企画小委員会　石川　佳子　伊藤　郁郎　岡本　昭子　秋山　克彦　加藤　力　○稲木　裕子　角方　利幸　大谷由紀子　北浦かほる　糟谷　浩史　小梶　占隆　毛谷村英治　小島　保人　小板橋鉄雄　中村　孝之　佐野　洋　※畑　康之　高岡　伸一　渡邊　秀俊　高田　光雄　★構造分科会　高橋　麗子　太田　寛　塚口　明洋　岸本　一蔵　東宮年一郎　西郷　慈師　増渕　昌利　鈴木　勝博　山寄　章子　※長瀬　正　■広告企画小委員会　平野　富之　池渕　俊男　北條　稔郎　小幡　義明　松本　孝弘　加納伸太郎　宮本　光則　勝　一弘　★設備分科会　○河原　正雄　岡野　均　長野　洋一　梶井　宏修　菱田信八郎　河津　隆之　山下　修司
○委員長　○副委員長　※幹事

印刷　平成９年２月25日
発行　平成９年３月１日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　06-348-0635
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本電植株式会社
定価　1200円〔本体価格1165円〕



本館



宿泊研修館

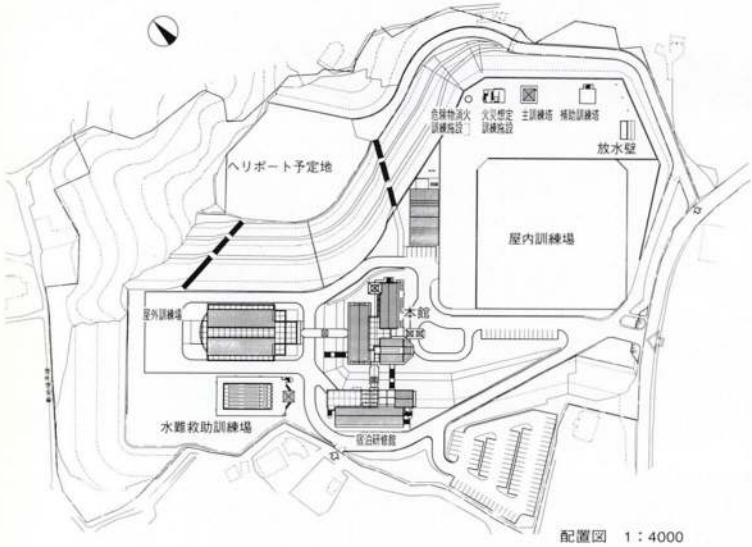
作品風

設計監理■
沖縄県土木建築部施設建築室・国建

施工■
建築１工区／旭建設・旭東建設特定建設工事共同企業体
建築２工区／三善建設

沖縄県消防学校

消防学校は、消防職員及び消防団員の教育訓練を行う施設として設置されるもので、沖縄県では昭和47年に開校している。昨今の社会環境の変化により、災害等の形態は複雑多様化し、時代に対応した消防防災体制の強化が求められているところであるが、旧校舎の敷地は手狭なため施設の機能強化が難しく、消防防災教育を充分に果たしえない状況であった。本施設は、施設の整備拡充及び消防防災体制の拠点形成を図ることを目的とし、移転建設されたものである。本島中部にある中城村の丘陵地に位置している本敷地は、東方に太平洋、西方に東シナ海を望むことができ、本島を南北に縦断する沖縄自動車道の北中城インターに近く、本島全域への交通の利便性は良い。周辺には集落地域や農地が点在し、標高は100m～150mである。敷地の造成計画及び施設の配置計画においては、周辺環境への調和が求められ、植栽が可能な緩い斜面による造成とし、在来種を基本に植栽を施した。また、施設は用途別に分棟配置とし、屋根は赤瓦を配した小屋根の構成として、単体での施設規模をおさえるようにし、周辺集落の景観に溶け込むよう意図した。赤瓦屋根に鎮座するシーサーは、沖縄の風土に伝わる魔除けであり、新しい消防学校のシンボルマークでもある。　（山里　修・大城　剛／国建）



配置図　1：4000

所 在 地 ――沖縄県中頭郡中城村字北上原910番地
敷地面積 ――66,421.37㎡
建築面積 ――　4,537.12㎡
延床面積 ――　7,435.89㎡
構造規模 ――RC、SRC、B1F、8F
工　　期 ――1995年10月～1996年10月
最 寄 駅 ――沖縄自動車道北中城インターより南へ3.5km
撮　　影 ――サンフォート企画・Sフォート

外構工事：信吉組
電　　気：金城電気工事・大協電気工事・重信電気工事共同企業体
空　　調：桐和空調設備・琉球設備工業共同企業体
衛　　生：国場組・南建化工共同企業体
浄 化 槽：クリエイト


航空写真


主訓練塔5階より望む


屋内訓練場


訓練塔

北西側外観



三条通側外観

作品
作風

設計監理■
竹中工務店

施工■
竹中工務店

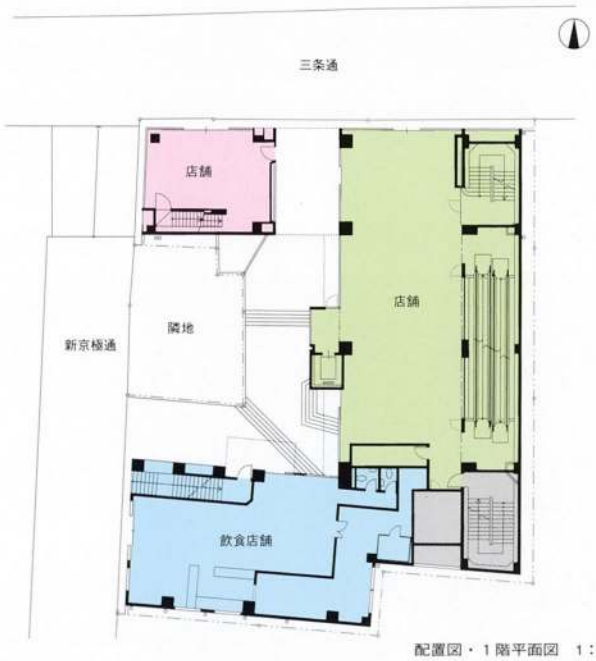
SMJ三条共同ビル

敷地は京都市の中心部、三条通と新京極通がT字型に交差する角に位置している。２つの通りは、いずれもアーケードをもつ商店街である。ここで建築主三者が共同建替を行い、区分所有のビルを新築することになった。

当初から、共同化のメリットを生かして土地の有効利用を図るだけでなく、商店街の活性化につながる、一般市民に開かれた公共的空間を設けることを１つのねらいとした。不整形なコの字型の敷地の中、建築主三者の要求を満足した上で、公共的空間をいかに商店街とリンクさせるかがポイントであったが、最終的に、京都の都市的伝統を現代に継承する、通り抜けできる路地・中庭として実現した。

外観は、京都の都市景観を象徴する、東山と瓦屋根が重畳する町なみのイメージを再構成している。もはやどこの地方都市とも見分けのつかぬ周辺の雑多なビル群の中で、またさまざまな法規の枠の中で、京都の建築としてどういうあり方が可能かと考えて、たどりついた１つの解答である。

なお、この計画は京都市優良再開発建築物整備促進事業制度の適用第１号となった。地域の活性化と都市環境の向上に寄与することを願っている。　（西村　章／竹中工務店）



配置図・１階平面図　1：500

所 在 地 ―― 京都市中京区三条通寺町東入石橋町９番地他
敷地面積 ――　801.59㎡
建築面積 ――　596.44㎡
延床面積 ――3,443.25㎡
構造規模 ――RC、B1、6F、P1
工　　期 ――1995年３月～1996年８月
最 寄 駅 ――京阪電鉄三条駅、阪急電鉄河原町駅
撮　　影 ――庄野　啓


西側外観


中庭（ピロティの奥が三条通）

gallery

下沢通の歯科医院
ボックスと曲面のスキンの構成

設計
池上　明





何故、ほとんどの建築は直線でのみ構成されるボックスなのだろうか？単に今までの製図機器が直線をひくためのツールであったからだろうか。街を歩いて、いつもそう感じる。建築の形態はもっと自由なジオメトリーであってもよいのではないだろうか。建築の形態の自由さも街並みを楽しくし、活性化させる１つのエレメントと成りうるのではないだろうか。

この建物は診療所という性格もあり、道路側にパーキングスペースを効果的に配置することが条件付けられた。従って診察部分を敷地の奥に配置せざるを得なくなり、建物へのアプローチのわかりやすさが求められた。
平面は、診察部の機能性を考慮し、整形の経済的な柱割りで構成され、階段やバルコニーが整形に対し凹凸した形となっている。立面においては、階段の円形屋根、２階バルコニー上部の反り屋根は、それを支える鉄骨とともに整形なボックスに対するファサードのデザインエレメントとして扱い、建物にランドマーク性、親しみやすさを与えた。又、ファサードは、ベーシックカラーとアクセントカラーの組み合わせで、整形のボックスと曲面のスキンの構成を明確にしている。アプローチのフレームもこれらのエレメントと一体化した方向性を持ち、人々を容易に診療所に誘導して行く。
又、敷地は、神戸市兵庫区の戦後区画整理が施行されていた被災地であるが、街並みに対してわかりやすい地域の診療所を再構成することをねらいとした。

池上（いけがみ）　明（あきら）
1953　大阪市生まれ
1977　大阪大学工学部環境工学科卒業
　　アーバンガウス研究所
　　レンゾ ピアノ ビルディング
　　ワークショップ ジャパン
1994　関空PTBの竣工に伴い、
　　エーアイ アーキテクト スタジオ設立

撮　影―平井　良行
企画編集―朝倉　一晃（作品作風小委員会）


村岡歯科医院



震災復興とコレクティブ・タウン

三輪　康一

今、被災地でコレクティブハウジングが注目されている。これは居住者が食事やだんらんなど生活の一部を共有し、相互に助け合いながら住む協同居住型集合住宅であり、現在、兵庫県や神戸市の公営住宅として、共同の居間やキッチン、ユーティリティ空間をもつ計画が進行中である。もともと、北欧などではさまざまな年齢層と世帯に対応した居住スタイルとして定着しており、家事の分担などは自主的なルールにもとづいて運営されているという。被災地では孤立しがちな単身高齢者を対象に導入されようとしているが、高齢者が新しい生活スタイルに適応していけるかが大きな問題であり、今後は入居者の募集方法、生活の仕方や協同生活のルールづくりなどソフトな課題が重視されてくる。いずれにしても被災地でこの新しい試みが是非とも成功してほしいものである。ところで、このコレクティブハウジングの推進者の１人である石東直子さんは、被災を受けた下町は、一人暮らしの高齢者が住宅のすぐ近くの食堂や喫茶店や銭湯や医院などを利用して生活の一部をまちに依存し、助け合いながら暮らす、いわば「コレクティブ・タウン」であったと指摘している。復興のまちづくりにとってこの視点は重要である。高齢者のみならず、すべての人にとって生活複合体としてのまちの再生が求められている。　神戸大学工学部建設学科助教授

旧朝鮮総督府庁舎撤去事件について

上野　卓男

３年振りにソウルを訪ねる機会を得、関心をもって望んだことの一つが標題の件であった。事件は、一昨年金泳三大統領の突然の撤去表明に始まり、日本側を驚かせたが、昨年になって急に現実のものとして報じられ、国際問題もからみ両国間の緊張を高めていた。しかし日本側の反応は思いの他静観的で気にかかる事件であった。当庁舎は、1926年、野村一郎氏の設計で建設されたルネッサンス様式の名建築と言われたもので、戦後は国立中央博物館として活用されてきていた。しかし、かつて私共の見ていた庁舎が李王朝の正宮、景福宮内にあって偉容を誇ると言うより光化門と勤政殿の軸線上にあって異様な存在であったと思った人は何人いたであろうか。

今訪ねて見ると庁舎は丁度撤去されたところで、障害を取り払われた景福宮は、再び北漢山連山によって温かく抱かれたかつての漢城の景観と共に蘇っていた。あの日本の沈黙は一体何だったのか、自国を見渡せば程度の差こそあれ存在すること、それ故に日本側は挙げて大統領が投じた事件即ち「文化とは何か」との問に暗黙の賛辞を贈っていたと言うことなのであろうか。かくして大統領の思いは平穏のうちに成し遂げられたが、それにしてもこの70年に及ぶ文化空白の時の重さを教示して余りある事件だったと言えないだろうか。　大阪府建築部営繕室長

フローからストックへ

塘　　伸夫

今日の日本の建築で問題とされる一つに建築のフローという体質がある。RC造でも30年程度の短寿命で稼動し、経済性優先のもと社会変化に対応しきれなくなっては壊されてきた。こうしたフローの中で消費される大量の資源、解体に伴う多くの廃材等が、今日のクローズアップされている地球環境問題に悪影響を及ぼしているのは言うまでもない。これからはストックとしての建築に目を向ける必要がある。

西欧を訪れると数多くの中世の街並が残され、何百年も前の建築が、今なお生活空間として利用され、古いものの持つ意味の大切さを知り、それを守りぬこうとする住民の強い意志が感じとれる。何百年もの風雪に耐えたという事実が空間に重みを与え、生活する者に精神的安らぎを与えているのであろう。こうした環境下、創られる新しい建築も、当然未来へのストックとして考えられ、文化性の高い建築が生まれる。

西欧の堅牢さをもつ石の文化に対し、一度崩壊すれば消え失せる短命な木の文化との違いと言えば、それまでだが……。現代の建築の多くが比較的寿命の長いRC造であることを考えれば、いたずらに利便性のみを追求することを避けるという意識の変革が必要な時が来ている。

東畑建築事務所設計部長

作品展二つ

田中　英一

爽やかな日曜日、単身赴任の気軽さに身を任せ滋賀県立近代美術館に出かけた。目的はブライアン・ウイリアムズの風景画を見ることであった。彼の名はまだそれほど知られていないが、もう二十数年間も日本に住んで消えて行く農村風景ばかりを描いている。画風はスーパーリアリズム、超写実で光と影の描き方には驚嘆する。しかし、その日僕が感動したのは併設展の「写真が語る戦後の日本」であった。この写真展は山口県立美術館のコレクションによるもので有名写真家20人の戦後の記録である。特に終戦から占領下の貧しい生活とそれに立ち向かう人達の記録は感動的で、林忠彦、金井清一、福島菊次郎、常盤とよ子などの社会派リアリズムと言われている人の作品の前にいると過去が突然甦り、時間の経つのも忘れてしまう。特に福島菊次郎の「ピカドン」、母を無くし、原爆病の父を抱えながら妹達の面倒を見て行く姉、容子の24点に及ぶ青春の記録は涙を誘って止まない。また、林忠彦の「カストリ時代」に見る少年達の逞しさ。あのころ日本人はみんなよく頑張り、今日の日本を作ってくれたのだと思うと写真に写された一人一人に感謝したくなる。また、写真はピントピッタリでないほうがドラマチックで臨場感に溢れているし、どんな言葉よりも多くを語っている。

大成建設大阪支店設計部長

東海支部会員作品

愛知県西三河総合庁舎
掛川市庁舎
小牧警察署庁舎
愛知県女性総合センター（ウィルあいち）
名古屋市立大学教養教育棟
名古屋市立大学芸術工学部工房棟
河合塾大阪校S館
日進市スポーツセンター
大松美術館
ナディアパーク
K・MIX本社ビル
愛知労働金庫本店
ツインメッセ静岡（静岡産業支援センター）
中部電力川越電力館テラ46
ジェトロ名古屋輸入車ショールーム
ザ・シーン城北
竹中工務店八事家族寮・竹友寮
鳥羽シーサイドホテル新館「海の章」
高山グリーンホテル天領閣
ゼネラル石油㈱木曽駒リゾートハウス
ザ・サードプレースC.C.雲出川コース，クラブハウス
アピタ名古屋南店
イオン鈴鹿ショッピングセンターベルシティ
ネクステージ知立
岐阜神田町アーケード
Tokai Sketch Book

本特集企画・日本建築協会東海支部特別編集委員会
委員長　森口雅文
特集記事担当副委員長　林　金之
作品作風担当副委員長　植田　明
デザイン広告担当副委員長　小宮三辰
特集記事担当委員　松本壮一郎
作品作風担当委員　谷　淳之介
委員　磯村正雄　稲垣貞男　今津芳清　尾崎武寛　後藤利秋　鈴木慶智　仙田　篤　寺本英一　中村嘉男　中村哲士
野崎　勉　福田泰造　細田泰彦　武藤謙人　森田富士男　盛田輝勇　吉田尚道　芳山明人（50音順）



乙川側からの北西面外観

愛知県西三河総合庁舎

設計　愛知県建築部営繕課　安井建築設計事務所
監理　安井建築設計事務所
施工　建　築　松村・小原・酒部建設工事共同企業体
　　電　気　東光・永田建設工事共同企業体
　　空　調　日本設備・共栄工事建設工事共同企業体
　　管　　大冷・日設建設工事共同企業体
　　昇降機　日本エレベーター製造
　　受変電　明電舎
　　電　話　中央電気工事



南面外観

所 在 地　愛知県岡崎市明大寺本町１丁目４番地
敷地面積　6,085.68㎡
建築面積　2,956.51㎡
延床面積　15,146.22㎡（庁舎棟）
　　7,653.96㎡（駐車場棟）
構造規模　SRC、B1F、10F、P1F（庁舎棟）
　　SRC、B1F、6F（駐車場棟）
工　　期　1992年12月～1996年２月
最 寄 駅　名鉄名古屋本線東岡崎駅
撮　　影　SS名古屋

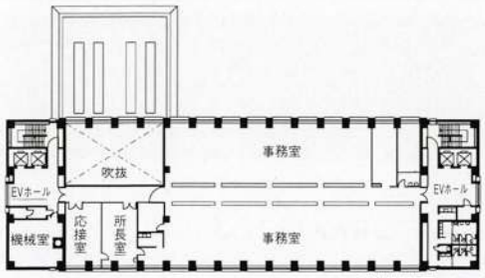
計画地は、市民の憩いの場である乙川と岡崎公園に隣接しており、都市景観に調和した庁舎とすることが基本条件であった。スカイラインへの影響を考慮し、地場産業の瓦を使用した屋上の目隠しを設け、ペントハウス等の突起をなくし頂部をすっきりさせるとともに、外装は磁器タイル・花崗石の打ち込みPC版の仕上げとし、落ち着いた品位のあるデザインとした。

設計に当たり特に地場産の建築材料の使用を優先し、三州瓦を使った屋上の目隠し、玄関前の鬼瓦のモニュメント、御影石の花壇石積み等に使用している。

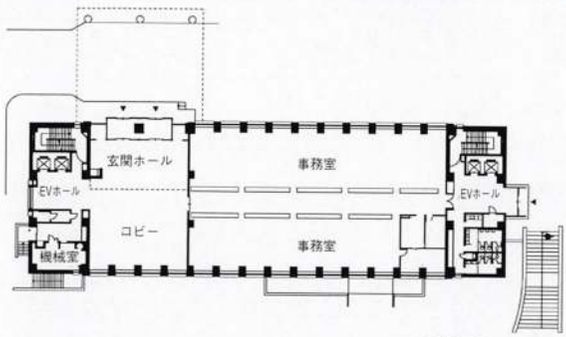
「地域に開かれた庁舎」のコンセプトのもと、1階ロビーにラウンジ（憩いの場）の設置、敷地内を自由に通り抜けができるような施設配置、旧参道のイメージの歩道整備、乙川沿いの周辺の緑との調和を図るための敷地周囲の緑化、モニュメントの設置等の配慮をしている。庁舎建築としての機能の高度化及びインテリジェント化対策として、OAフロア・システム天井の採用、20ｍスパンの採用による無柱空間の事務室スペースを確保し、将来の行政の変化にも柔軟に対応できるようにした。駐車場は立体化し、収容効率の良い連続傾斜式駐車場とし、来庁者の利便を図っている。

省エネルギー対策のひとつとして、庁舎屋上部分の雨水を便所洗浄水として再利用しているほか、透水性コンクリート舗装を使用して敷地外への雨水の流出をできるだけ抑さえるなどの配慮も行っている。

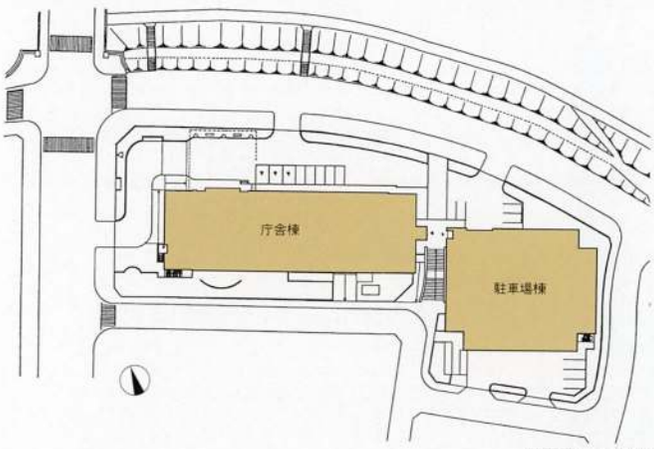
（川平　孝／安井建築設計事務所）



2階平面図　1：1000



1階平面図　1：1000



配置図　1：2000


玄関前の鬼瓦のモニュメント


1階ロビー

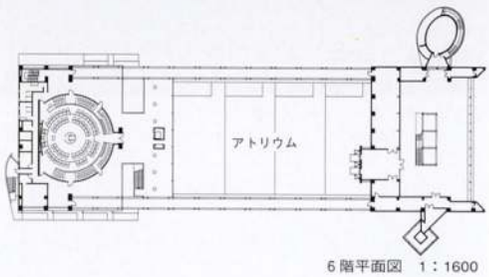

10階大会議室


10階食堂

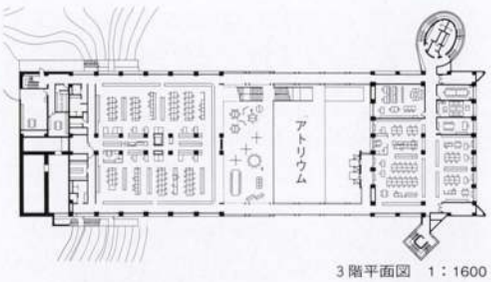
テラス状のアトリウム



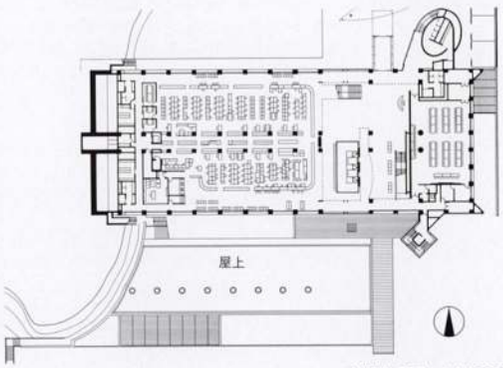
円形配置の議場



6階平面図　1：1600



3階平面図　1：1600



1階平面図　1：1600

掛川市庁舎

設計監理　日建設計・名古屋
施　　工　清水建設

茶どころ掛川市は、生涯学習の先進地として、住民主体の市政が活発である。その拠点となる新庁舎は、市民に開かれた建築をめざして計画された。敷地は、掛川城のある中心部から西へ約２㎞、東海道新幹線に沿う丘陵地にあり、豊かな緑のなかに「下水処理施設」などと共存をはかる自然公園として整備されつつある。

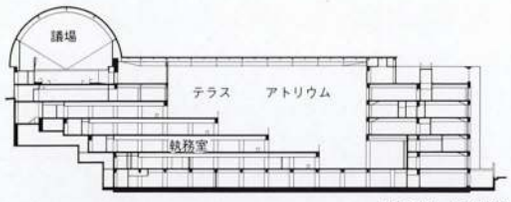
新庁舎は、その中核施設として配置、丘や緑を残しながら、自然を活かすエコロジカルな建築として設計されている。市庁舎は、使いやすく市民に分かりやすい構成が第一と考え、オープン型の執務室として外周の廊下に市民窓口を配置、アトリウムを段床の生涯学習テラスのある空間にするなど、一目で理解できる建築とした。

市民へのサービス性・多様な利用への柔軟性・バリヤフリーへの対応などに加え、市民と職員あるいは職員相互の一体感やコミュニケーションが生まれやすい開放的な空間を意図し、気軽で自由な利用を可能としている。

職場は、民主的な討議を行うために円形の議席配置とし、議員と執行部が同格の＜輪＞とし、これを囲む傍聴席も同じレベルで、親しみやすく構成した。議場は高天井の半円錐型のドーム空間をつくり、掛川市の新しいランドマークとなる計画とした。

（南石周作・若林　亮／日建設計・名古屋）

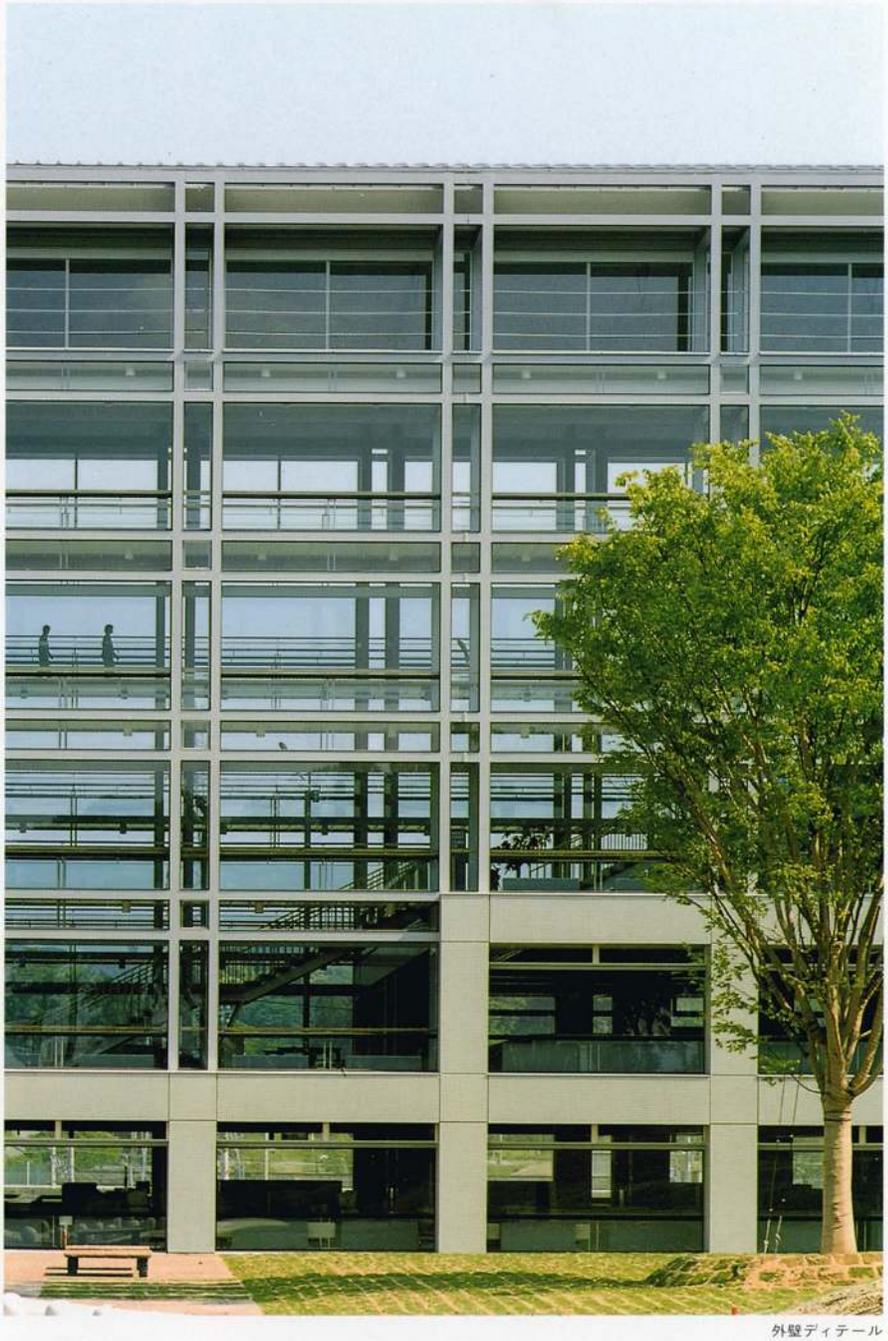
所 在 地　静岡県掛川市長谷701
敷地面積　38,000.01㎡
建築面積　 4,767.72㎡
延床面積　16,135.58㎡
構造規模　SRC、S、B1F、6F
工　　期　1994年７月～1996年３月
最 寄 駅　JR掛川駅
撮　　影　SS名古屋



断面図　1：1600


航空写真


メインアプローチ


外壁ディテール

正面外観

外観夜景▶



所 在 地　愛知県小牧市小牧1-9
敷地面積　5,861.39㎡
建築面積　1,283.30㎡
延床面積　3,490.89㎡
構造規模　RC、5F
工　　期　1994年10月～1996年２月
最 寄 駅　名鉄小牧線小牧駅
撮　　影　加藤敏明　他

小牧警察署庁舎

設計監理　愛知県警察本部
　　東海設計
施　　工　建　築　淺沼組名古屋支店
　　電　気　奥村電機
　　空調･衛生　三建設備工業

東名・名神高速道路の開通による本格的なハイウェー時代を迎えて昭和42年に竣工した旧庁舎も、30年を経て環境の変化と共に警察業務の多様化に伴い手狭となり、老朽化も著しいため新庁舎への建替に至った。

小牧市の市街地北寄に位置する敷地は東名・名神高速道路小牧インターに近く、国道や幹線道路が交錯して交通の要となっているものの、周辺には小牧山を背景とした緑豊かな自然の中に行政、文化、観光の諸施設が点在し、調和のとれた潤いのある市街地を形成している。

こうした環境の中で、『市民の安全を護り様々な情報を提供するばかりでなく、既成のイメージにとらわれない新しいふれあいの場として、市民に親しまれ、地域のランドマークとなり得る施設』をテーマに計画された。

（配置計画）庁舎棟を敷地の中央に配置し、周辺は積極的に植栽を取り入れることにより空間にゆとりを与え、近隣との環境の調和を図っている。附属棟は庁舎の環境を考慮して庁舎棟の東側奥に配置した。また、来庁者駐車場と公用車駐車場を庁舎の北側と南側に分離して設け、自動車の動線を明確化した。

（意匠計画）外観は端正で対称的な面構成を基本とし、力強さを象徴した二本柱と玄関廻りや両妻壁のゆるやかな曲面との構成により、親しみ易さの中に毅然とした風格を構え、庁舎の性格を表現している。内部は明るく開放的な玄関ホールを軸とし、中廊下式の機能的で単純明快な内部動線とゾーニングにより複雑な機能を備えた庁舎でありながら職員、来庁者共に利用しやすい構成とした。また、高齢者や身体障害者への対応にはノーマライゼーションの思想を尊重した、人にやさしいきめ細かな配慮をしている。　（小坂忠勝／東海設計）



配置図　1：1500



玄関ホール


訓授室


武道場

正面外観

愛知県女性総合センター（ウィルあいち）

設計監理　愛知県建築部営繕課　日建設計・名古屋
施　　工　安藤・名工・松岡建設工事共同企業体

所 在 地　名古屋市東区上竪杉町１
敷地面積　4,763.41㎡
建築面積　3,427.84㎡
延床面積　17,800.26㎡
構造規模　SRC、RC、S、B2F、5F、P1F
工　　期　1993年７月～1996年１月
最 寄 駅　地下鉄名城線名古屋市役所駅
撮　　影　加藤敏明、そあスタジオ
備　　考　構想監修　渡辺昭彦


正面アプローチ


西側外観

この施設は、21世紀を“女性が自らの生き方を選びとり、自らの個性、資質、能力をさわやかに全面開花させ、社会・経済の活性化及び文化の創造・発展にとってはならなくなる存在となる”という基本理念のもと、女性の自立と社会参加活動を支援する場として計画された。

敷地は、愛知県庁・名古屋市役所等がある官庁街の東側に位置している。その周辺は、道路を挟んだ北側に大正時代に建造されたネオ・バロック様式の旧名古屋控訴院地方裁判所区裁判所庁舎（現名古屋市市政資料館）があり、他は戦災を免れた戦前の低層の町並みが続く閑静な市街地住宅地である。

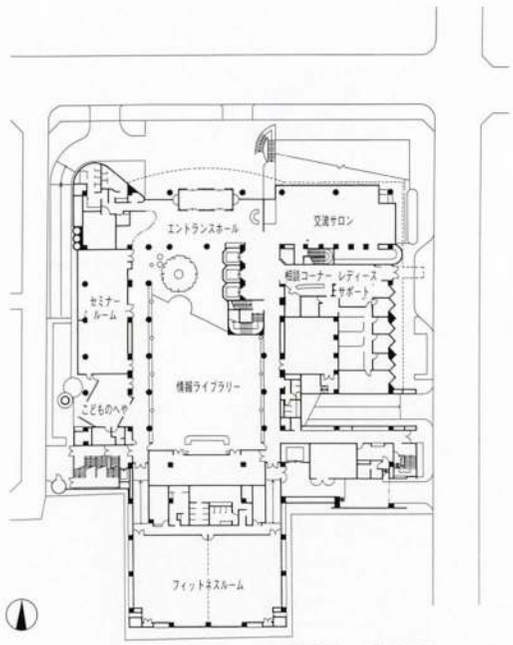
これらを踏まえ、設計では次のコンセプトを重視した。

- 明るくオープンな雰囲気で、女性にかかわる問題解決の手掛かりが得られる場、女性団体の自主活動・交流ができる場をつくる。
- 実質的な男女平等社会を実現させる県民のシンボルをつくる。
- お年寄りから子ども、男女問わず、すべての人に開かれた豊かなコミュニケーションの場をつくる。
- 歴史ある建築と調和すると共に、周辺の生活環境を尊重する建物をつくる。

建物の構成は、3層吹抜の「情報ライブラリー」を囲むように各室を配置しており、各階ロの字型平面で利用者がわかりやすく、使いやすいプランとしている。また、情報ライブラリーに面する各室の間仕切壁をガラス張りとしたため、施設全体がオープンで一体感のある空間となり、室内の催しに気軽に参加できる雰囲気をつくることができた。

外装には、レンガを使用した市政資料館の外壁に対比・調和でき、女性らしいやわらかさや繊細さが表現できる材料を求めた。結果として現代的でプレーンな質感のなかにも、金属パネルよりあたたかさのある磨き仕上げ大型セラミックスタイルを採用した。規則正しい大型セラミックスタイルのグリットパターンの外装タイルと、それを切り込んだ開口部の光と影のコントラストのある表情により、ウィルホールの曲面屋根などで構成された形態とともに、女性総合センターらしい外観となった。

（日比野万喜男、村井達也／日建設計・名古屋）



配置図・1階平面図　1：1200



情報ライブラリー



ウィルホール

西北面外観

名古屋市立大学教養教育棟

設計　名古屋市建築局営繕部営繕課
　　伊藤建築設計事務所
監理　名古屋市建築局営繕部営繕課
施工　フジタ・真柄・太陽特別共同企業体



◀南面ディテール

所 在 地　名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑１番地
敷地面積　63,558㎡
建築面積　 1,511㎡
延床面積　 5,298㎡
構造規模　RC、4F、P1F
工　　期　1995年３月～1996年３月
最 寄 駅　地下鉄桜通線桜山駅
撮　　影　加藤敏明、セントラルフォート

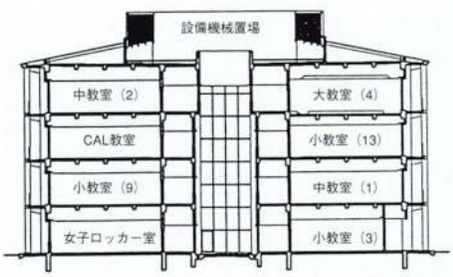
名古屋市立大学は、平成８年４月をもって教養部の改組と市立女子短期大学及び市立保育短期大学を統合し、新たに人文社会学部・自然科学教育センターを設置し、既設の医学部・薬学部・経済学部と併せて五学部一センターからなる総合大学として出発した。これに伴ない新たに教養教育を行う施設の拡充が必要となり、本棟をここ山の畑キャンパスに建設することになった。当キャンパスは、経済学部、人文社会学部、自然科学センターからなり、現在のグランドやテニスコートのスペースを利用して順次建替えを行なう予定である。

全館が空調され、AV機器やパソコンから画像をスクリーンに映し出すインタービデオシステム等、新時代のニーズに応える様々な設備を設けている。

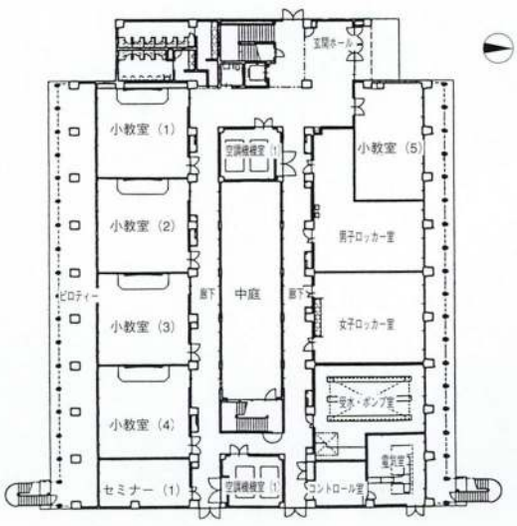
隣接して建設中の人文社会学部棟と各階を渡り廊下で繋ぐため、階高が高い大教室を４階へまとめ、よく似た大きさの部屋を同一階へ配置することで、市内数ヶ所のキャンパスから集まる学生が、目的の教室を見つけ易いレイアウトとした。建家を南側道路に対し11度振って配置することにより、南側に広がる住宅地への視線をかわし、圧迫感の軽減を計った。

これからの大学教育には、専門の学問のみならず社会の多様化・国際化に対応できる、幅広い豊かな教養を身につけた人材を育成する為の教養教育が期待されており、この施設を充分に活用され、すぐれた教養を身につけた人材が、社会で大いに活躍されることを願っています。

（小田義彦／伊藤建築設計事務所）



断面図　1：700



１階平面図　1：700



ライトコート



404大教室

西北面外観

名古屋市立大学
芸術工学部工房棟

設計　名古屋市建築局営繕部営繕課
　　伊藤建築設計事務所
監理　名古屋市建築局営繕部営繕課
施工　岐建木村・水野特別共同企業体

南面外観▶



名古屋市立大学芸術工学部には、芸術と工学の融合を目指し、感性・技術力・人間理解の３つをバランスを良く備えた設計家（総合デザイナー）を育成するため、視覚を中心とする感覚に訴える情報をデザインをする「視覚情報デザイン学科」と、道具レベルから建築までの生活環境をデザインする「生活環境デザイン学科」が設置されている。

名古屋市立大学萱場キャンパスは、名古屋市東北部の名古屋ドームのすぐ南側に位置し、もとの名古屋市立女子短期大学（平成９年４月に市立大学に統合）のキャンパスを、芸術工学部キャンパスとして旧校舎群をできるだけ生かして再整備することとなり、その第一期が工房棟新築工事である。

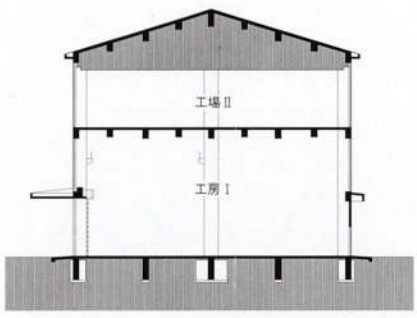
デザイン材料や構造実験のための工場Ⅰ、立体造形の制作の場としての工房Ⅰ、パソコン教室やグラフィックワークスステーション教室を配した工場Ⅱ、平面造形の制作の場としての工房Ⅱ等からなる。

敷地北側の道路は、瀬戸方面への幹線道路として交通量が非常に多いが、正門を一歩入ると木々に囲まれた閑静で落ちついた佇まいのキャンパスが出現する。

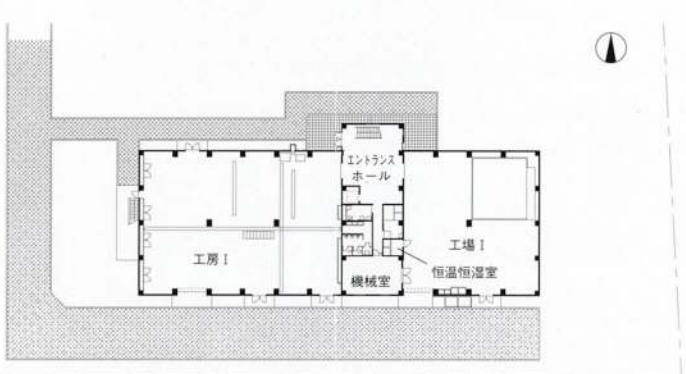
正門から真直ぐ南へ通り抜ける並木道に沿って、図書館・アリーナ・アッセンブリーホール・管理棟・研究棟とこの工房棟が並び、その西側に芸術工学部の核となるデザイン棟がこの程着工した。

各棟の間には、程良い間合いの中庭があり、デザイン広場・創作広場等として、先生と学生の制作と作品発表や各種イベントの場として活用される予定である。　（小田義彦／伊藤建築設計事務所）

所 在 地　名古屋市千種区北千種二丁目1-10
敷地面積　25,967㎡
建築面積　 1,105㎡
延床面積　 2,326㎡
構造規模　RC、3F、P1F
工　　期　1995年２月～1996年２月
最 寄 駅　JR東海中央線大曽根駅
撮　　影　SS名古屋



断面図　1：500



１階平面図　1：1000


１階工房Ⅰ


３階工場Ⅱ


３階暗室



アトリウムロビー

河合塾大阪校S館

設計監理　日建設計・名古屋
施　　工　建　築　安藤建設・大成建設JV
　　電　気　トーエネック・きんでんJV
　　空　調　高砂熱学工業・東洋熱学工業JV
　　衛　生　高砂熱学工業・東洋熱学工業JV
　　昇降機　三菱電機

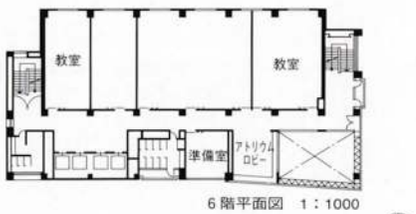
所 在 地　大阪市北区豊崎３丁目15番１号他
敷地面積　1,509.48㎡
建築面積　1,002.84㎡
延床面積　7,143.42㎡
構造規模　地下SRC、地上S、B1F、7F、P1F
工　　期　1994年12月～1996年２月
最 寄 駅　地下鉄御堂筋線中津駅

河合塾大阪校Ｓ館は、全国に進学予備校を展開している学校法人河合塾の近畿本部校であり、新たに2,000人の学生に対応する校舎である。

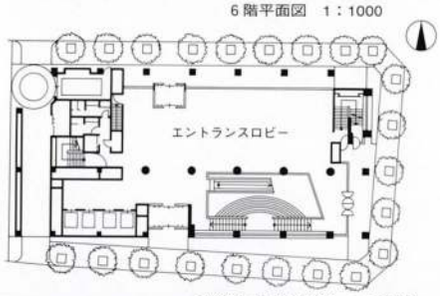
設計にあたっては、『快学空間』の実現を中心テーマとし、従来の予備校にはない新しい学習空間創りを目指した。

具体的には、まず「快適に勉強できる教室」を確保するために、直射日光を避け、柔らかな自然光を導く乳白色ガラスブロック窓を採り入れ、また、常にその人数に適した広さで安定した環境の教室空間を提供するため、位置変更可能な教室間の間仕切壁とそれに対応する照明・空調システムを採用した。

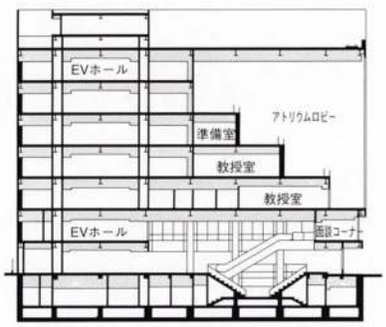
一方、予備校は「勉強だけ」の場ではなく学生の重要なコミュニケーションの場でもあり、このことを具体化するため、段状に広がるアトリウムロビーを設け、新しいスクールライフの実現を意図した。　（待田高英／日建設計・名古屋）



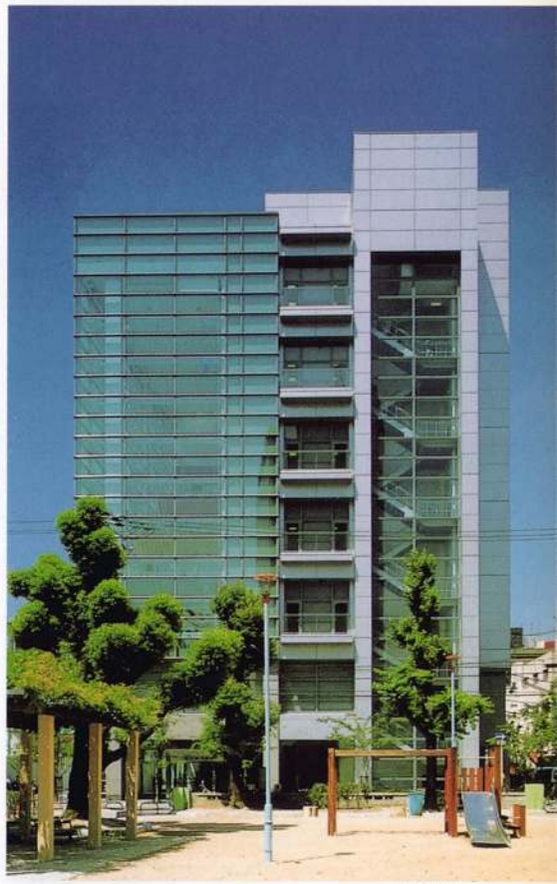
6階平面図　1：1000



配置図・1階平面図　1：1000



断面図　1：1000


東側外観



北面夜景


地下１階カフェテリア


エントランスロビー

外観正面

日進市スポーツセンター

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　熊谷組名古屋支店

全景（航空写真）



エントランスホール夜景



「市民ひとり１スポーツ」を施策に掲げる日進市の中心地に建設された総合体育館で、指名設計競技によって当社案が選ばれ実現したものである。設計競技によって与えられたテーマは、第一に、誰もがスポーツを遊びとして楽しみ、健康を維持・増進できる施設とする。第二に、敷地内の外構計画も充実させ、施設との一体化をはかる、というものであった。

このテーマに対して、本計画は建築単体として体育館をつくるのではなく、地域全体の施設計画の中で捉えるべきであると考え、特にランドスケープ・アーキテクチュアの視点に基づいた取組みを試みた。

配置計画は、敷地内に最大のオープンスペースが確保できるよう建物を西側境界いっぱいに寄せ、その前面に広場（約1,800㎡）を設けた。また北側には敷地境界の地盤高低差を生かして立体駐車場（地下２階、地上２階）を設け、その屋上にテラスガーデンをつくり、敷地の有効利用や、本計画のメインテーマ、「ランドスケープ・アーキテクチュア」の趣旨に沿った計画とした。

建物は、エントランスホールに入れば、施設の全容がわかるような平面計画とした。またアプローチからロビー、スポーツ諸室の床の段差を可能な限りなくし、各所にはゆったりとした休憩コーナーを設けるなど、幼児から高齢者まで、健常者も障害者も楽しく利用できる施設とした。

このスポーツセンターが「市民ひとり１スポーツ」の拠点として市民に親しまれ、地域の良好な環境の保全に役立ち、楽しいコミュニティ施設となることを願っている。

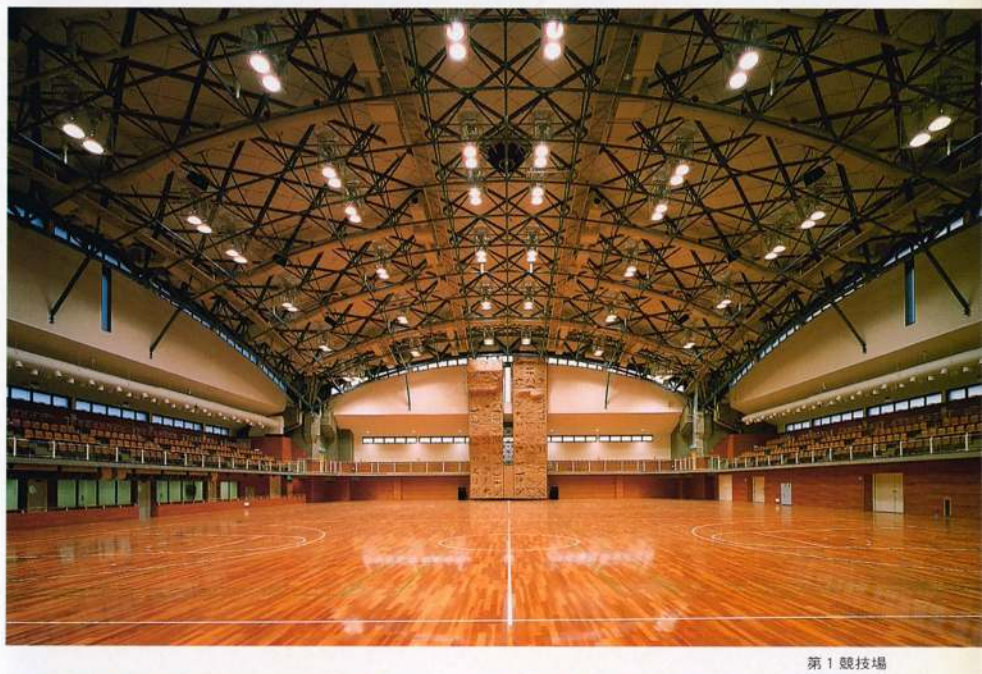
（岡田満弘・澤村喜久夫／伊藤建築設計事務所）

所 在 地　愛知県日進市蟹甲町家布58番地の１
敷地面積　13,565.00㎡
建築面積　 6,483.25㎡
延床面積　15,791.18㎡
構造規模　RC、一部S、3F
工　　期　1994年12月～1996年６月
最 寄 駅　名鉄バス停日進市役所
撮　　影　SS名古屋



配置図　1：4000


トレーニング室


第１競技場


レストラン

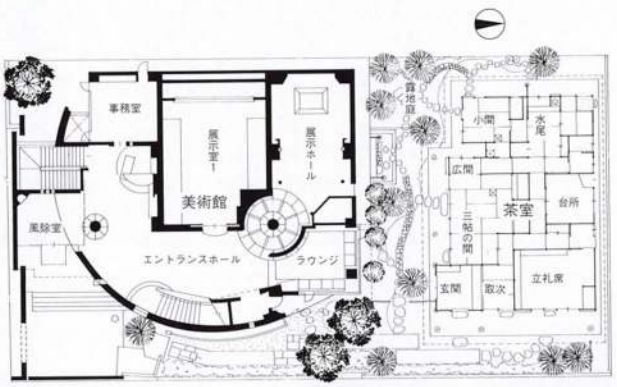


外観（東面）

大松美術館

設計監理　新井組名古屋一級建築士事務所
施　　工　新井組名古屋支店
（茶室棟設計施工）中村外二工務店
（庭）岩城造園

所 在 地　岐阜県羽島郡岐南町みやまち４丁目34-1
敷地面積　801.000㎡
建築面積　440.946㎡
延床面積　881.978㎡
構造規模　RC、B1F、2F、W、1F
工　　期　1989年８月～1991年６月
最 寄 駅　名鉄本線岐南駅
撮　　影　SS名古屋



配置図・１階平面図　１：500



外観（南正面）



露地庭

■建設の目的

大松美術館は、岐阜プラスチック工業株式会社の創業者である、故大松幸栄氏が長年にわたり蒐集した茶道具を中心に、近代日本画・洋画等の展示を目的とし、これらのコレクションを広く江湖に公開し、もってこの地域の文化社会建設の一端に資すると共に、故人の遺徳を顕証するために計画された。

■設計主旨

建築主からは、

（1）3つの展示室

（2）別棟で茶室を併設する

（3）メンテナンスのやり易さ

が要望としてあった。

設計にあたっては、「地域に寄与するシンボルとしての文化施設」「故人の記念性」「伝統的数寄屋建築とのかかわり」の3つを大きなテーマとして考えた。配置は南に美術館、奥に茶室を置き、このふたつの建物をとりもつ形で茶室の露地庭からなる構成とした。

建物は、茶室を意識しながらも直接的な和風とせず、半円形の壁を持つシンプルな形とし、その仕上げも石をメインに自然の素材による簡潔な表現とした。

この純粋に幾何学的な円形のデザインの意図するところは、シンボル性を持ちながら永遠性を示す形として、また、茶室に対しても対峙しないなかでの調和としてふさわしいと考えた。

内部は、2層吹抜のホールに面して3つの展示室を配するホール形式とし、地下には講演・貸ギャラリーなど多様な芸術活動の場として扇形のアートホールを設けた。

設備的には、二重壁・二重屋根による熱（夏の高温）への建築的にパッシブな性能を持たせながら、省エネルギー、質の高い温湿度コントロール（冷暖房自動運転モード）、管理面での容易さなどに留意した。

照明計画では、展示室は展示物の損傷防止のため外光を避け、紫外線カットの人工照明とし、ホール部分は、開口部を効率的に配置し外光の活用を図った。

（一力相介／新井組名古屋支店）



アートホール



展示室



エントランスホール



茶室（立礼席）



※全景南東面



北東部エントランス廻り外観



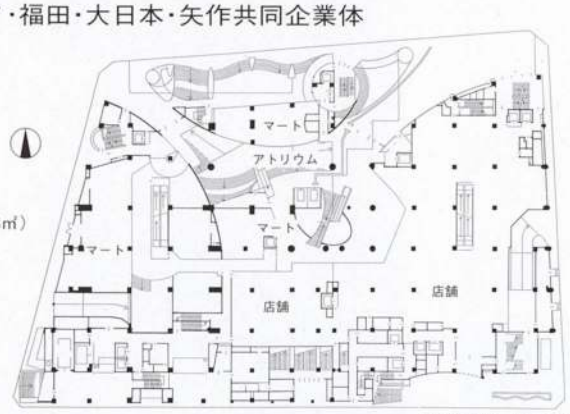
南側矢場公園からのアトリウム外観（夜景）

ナディアパーク

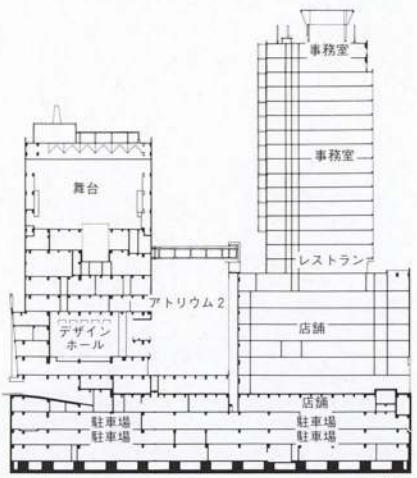
デザインセンタービル(DB)・ビジネスセンタービル(BB)

設計　DB：名古屋市建築局営繕部　大建設計
　　BB：大建設計　KMD　ダブルスマーケティング
監理　DB：名古屋市建築局営繕部　大建設計
　　BB：大建設計
施工　DB：熊谷・淺沼・太平・大豊・伊藤工特別共同企業体（建築）
　　BB：戸田・竹中・三菱・ナカノ・福田・大日本・矢作共同企業体

所在地　名古屋市中区栄３丁目18番１号
敷地面積　8,271.07㎡
建築面積　6,835.27㎡
延床面積　91,668.60㎡（DB:34,371㎡ BB:57,298㎡）
構造規模　DB：SRC、B4F、12F
　　BB：地下SRC、地上S、B4F、23F
工　期　1994年３月～1996年10月
最寄駅　地下鉄東山線及び名城線「栄」駅
　　地下鉄名城線「矢場町」駅
撮　影　小川泰祐写真事務所、センターフォト※



１階平面図　１：1600



断面図

建設地である中央高校跡地は、栄地区の南部に位置し、建物は、名古屋市、㈱国際デザインセンター、三菱信託銀行㈱、３者の区分所有により周辺地域活性化の拠点として、本市の公有地信託制度の採用により開発されたものである。公共公益施設として、若者の芸術文化活動の拠点となる「青少年文化センター」（アートピア）を上層部に、デザイン創造活動支援拠点となる「国際デザインセンター」を下層部に設置したデザインセンタービルと、これらの２拠点と連携し地域活性化に寄与する商業・業務施設を有するビジネスセンタービルの民間施設が、アトリウムを介して並立するツインビルである。

配置計画では、両施設の中央に位置する、12階まで連続するアトリウムが施設全体の核となり、アプローチ空間を共有することで施設を一体化する。アトリウムを構成する両棟壁面の開放された多くの開口部は、施設相互の視覚的交流を意図している。またアトリウム内に露出されたエレベーター・エスカレーターのタテ動線や連絡ブリッジは、来訪者に目的施設の位置及びそのアクセスルートを容易に認知させ、加えて人々の様々なアクティビティを視覚を通して相互に交流・活性化させることを目的としている。

ナディアパークは、デザイン都市名古屋の要としてそれぞれの機能を発揮し、且つ快適な、人にやさしい「街」の創造を目指している。周辺整備による新しい都市街区の誕生が、ウイッシュボーン型の歩行者動線と共に、周辺地域との連続性に配慮した地区の回遊ネットワークを実現する。外部の透明ガラスは、内部と外部を視覚的に連続させ周辺との交流を高めることを意図している。建物頂部にその複合機能を象徴した外観は、夜間のライトアップと共に、新しいランドマークとしてこれからの名古屋の都市景観を形成し、国際的なデザイン拠点及び、地域活性化の拠点として、確実に歩み始めることを期待している。

（植松武彦／大建設計）



※２階アトリウム２



デザインホール（3階）



青少年文化センターホール（11～12階）



西面外観

K・MIX本社ビル

設計監理　竹中工務店
施　　工　竹中工務店・大成建設共同企業体

所 在 地　静岡県浜松市常盤町133番地の21～25
敷地面積　906.12㎡
建築面積　720.91㎡
延床面積　2,770.93㎡
構造規模　RC、B1F、4F、P1F
工　　期　1995年11月～1996年10月
最 寄 駅　東海道新幹線JR浜松駅
撮　　影　滝田良彦（SS名古屋）



1階中庭



1階エントランスホール

当建物は静岡県浜松市の中心部からやや北にはずれた都心型住居ゾーンに位置し、静岡エフエム放送㈱（通称K·MIX）の事務所機能とスタジオ機能を合わせ持つ本社ビルである。

FM放送業では、情報発信のみならずリスナーとのコミュニケーションを強化し、地域のネットワークを構築することにより情報産業として、業務内容の多角化・先鋭化を模索中である。このような中で、建築的には放送機能のセキュリティーを確保しつつ、如何に人々と情報との出会い・交流の場を創りだすかを課題として、設計テーマを『開かれた放送局』の具現化と設定した。

平面計画ではコの字型プランを採用し、前面道路に面して中庭を獲得し、その両側にインフォメーションコーナー、多目的ホールを配し、人々の交流の場と設定した。そして、その中庭を開放することにより街区の中で人の流れを創造し、美しく賑やかな街並みの形成の核となることを期待した。

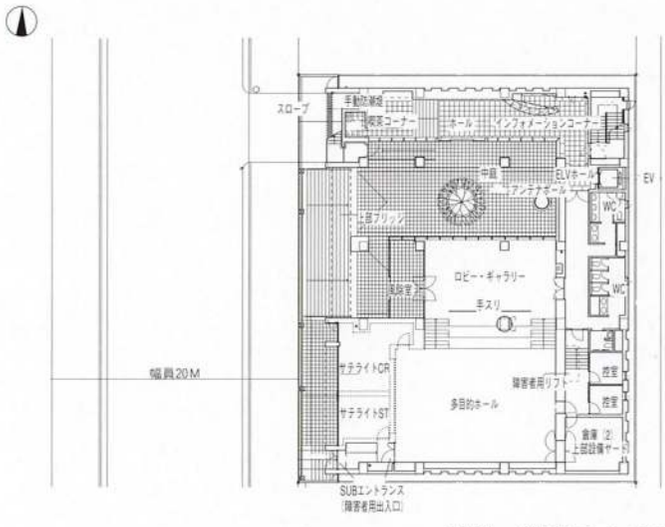
また、弓形のアンテナ鉄塔を中庭に屹立させ、建物と一体としてデザインすることで、放送局としての存在感や象徴性を獲得することを狙った。

ファサードはコンクリート打放しの外部階段や避難用ブリッジをデザイン要素として構成し、素材の持つダイナミズムとそれが織りなす光と影のコントラストがファサードに深味を与え、働く人々やそこを訪れる人々を生き生きと演出することを期待している。

執務空間は、中庭を介して柔らかい光と風を取り込み快適性を追求している。

インテリアは、シンプルにまとめ家具を木質系で統一することにより、オフィスに住空間の安らぎを付加している。

（河辺晴重／竹中工務店設計部）



配置図・1階平面図　1：600



1階多目的ホール

愛知労働金庫本店

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　鴻池・熊谷建設共同企業体



東面外観



夜景


1階営業室

所 在 地　名古屋市中区新栄１丁目709番地
敷地面積　 972.61㎡
建築面積　 797.17㎡
延床面積　5,832.24㎡
構造規模　S、B1F、7F、P1F
工　　期　1994年６月～1996年２月
最 寄 駅　地下鉄東山線新栄駅
撮　　影　SS名古屋



配置図　1：1000



7階大会議室



6階特別会議室



3階事務室



5階食堂

愛知労働金庫の新本店は、金山にある旧本店が老朽化し、手狭になったため、新たに新栄に土地を購入し建設されたものである。設計にあたり特に、都市景観への配慮、最新のインテリジェントビルとしての機能、十分な福祉対策が求められた。

外壁に花崗石の本磨き、高性能熱線反射ガラスの光る材料を使って、新鮮さを感じさせる建物とした。労金のロゴマークや社名看板もデザインの要素として取り込み、サイン照明もバックライト方式とし落ちついた感じに仕上がっている。歩道に面して、玄関前に彫刻を設けたり、2階の窓のステンドグラスを設けたりして、歩行者を楽しませる工夫がなされており、都市景観に配慮した。

銀行としての機能の高度化及びインテリジェント化への対策として、全面的にOAフロア・システム天井の採用、大スパンの事務室スペースの確保、ハイテク機器の導入など、将来の機能の変化にも柔軟に対応できるようにした。また、事務室ゾーンと重量物設置ゾーンに分けた平面計画、吹抜の営業室、役員室に面しての屋上庭園、最上階に大会議室の設置などがプラン上の特徴となっている。

新本店は福祉金融機関の名にふさわしく、もうひとつのコンセプトとして、「人にやさしく、地球環境にやさしく」をあげ、いろいろな福祉対策を行なうとともに、地球環境に配慮した最新の建築設備を採用した。

（川平　孝／安井建築設計事務所）



1階平面図　1：600



2階平面図　1：600



3階平面図　1：600

賑わいのある東側外観

ツインメッセ静岡（静岡産業支援センター）

設計監理　日建設計・名古屋　静岡設計監理協同組合
施　　工　建　築　竹中工務店・住友建設・木内建設・五光建設JV
　　電　気　栗原工業・シズデンJV
　　空　調　大気社・中央冷熱JV
　　衛　生　大成温調・実工業JV
　　昇降機　東芝

所 在 地　静岡市曲金3－2－9
敷地面積　31,822.29㎡
建築面積　11,606.15㎡
延床面積　28,372.18㎡
構造規模　RC、S、B1F、5F、P1F
工　　期　1994年９月～1996年２月
最 寄 駅　JR東海道本線静岡駅
撮　　影　青山賢三

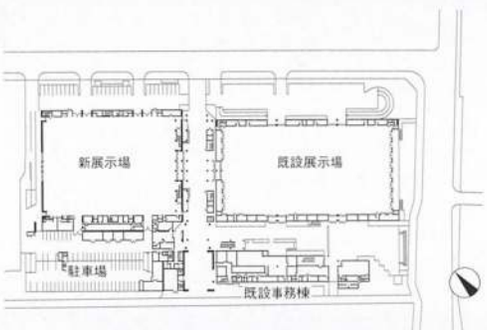


全景



動線の要となるガレリア

緑のあるエントランスプロムナード



配置図　1：4000

ツインメッセ静岡は、展示場施設をもつ既設の静岡産業館を増築し、地域中小企業の研究開発と支援機能の集積および地域産業の振興施設として整備された。

市街地の限られた敷地を有効利用するため、管理棟・中展示棟を3階に配置し、その下部を各施設をつなぐプロムナードとした。プロムナード中央には、施設全体のシンボルとなるガラスのピラミッド屋根を設け、イベント時のオープニングセレモニー等に利用できる空間「ガレリア」とした。各施設はガレリアに設けられたエスカレータとブリッジにより立体的に連携している。

外装材については既設と同じアルミパネルを用いデザインを統一するとともに、ガラスのカーテンウォールにより東側に隣接したショッピングセンターなど周辺建物と調和した賑わいのある外観とした。（高山順行／日建設計・名古屋）


84m×60m×高さ12.5mの空間をもつ新展示場


展示場と一体となった2階レストルーム



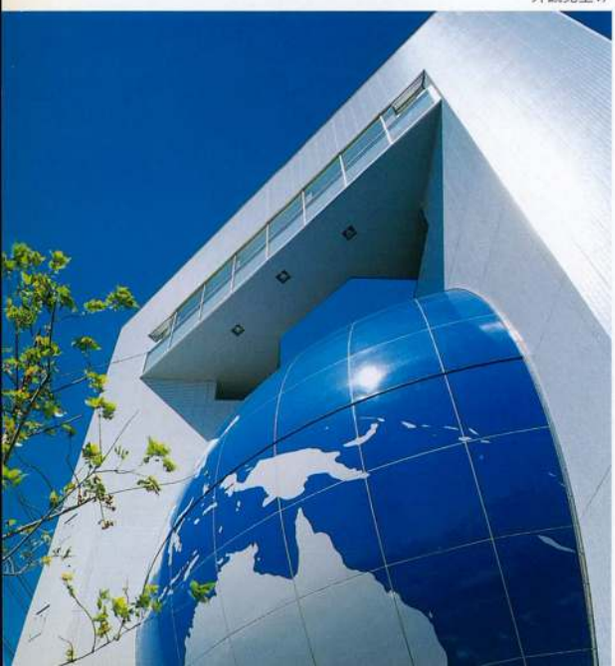
北西より望む

中部電力川越電力館テラ46

基本計画　中部電力土木建築部建築建設グループ
設　　計　山下設計中部支社
監　　理　中部電力川越火力建設事務所建築課
施　　工　建　築　鹿島 名古屋支店
　　電　気　中央電気工事
　　空調・衛生　トーエネック
　　昇降機　東芝
　　ジオランド　鉄建建設
　　展示工事　博報堂

所 在 地　三重県三重郡川越町大字亀崎新田字朝明87-1
敷地面積　12,500㎡
建築面積　1,800㎡
延床面積　4,514㎡
構造規模　S、7F（最高高さ約39m）
工　　期　1995年4月～1996年7月
最 寄 駅　近鉄線・JR関西線桑名駅下車タクシー20分
撮　　影　そあスタジオ

外観見上げ



航空写真



「川越電力館テラ46」は「でんきの科学館」「浜岡原子力館」に並ぶ大型PR施設で中部電力PRの西の拠点として位置づけられる。敷地は川越町の南の端で3方が、伊勢湾に面し更に北側後方には鈴鹿山麓が望める、川越火力発電所構内の北側に位置する。

展示棟東側には、伊勢湾岸地域の1600分の1スケールのミニチュアランド「伊勢湾ジオランド」を配置し建物と一体化した。この電力館は、「人と地球の共生と未来」をテーマとしたテーマパーク仕立の施設で「地球46億年の贈物」をメッセージコンセプトとして、地球とエネルギーの関わり、人と地球の共生をわかりやすく訴える展示構成となっている。

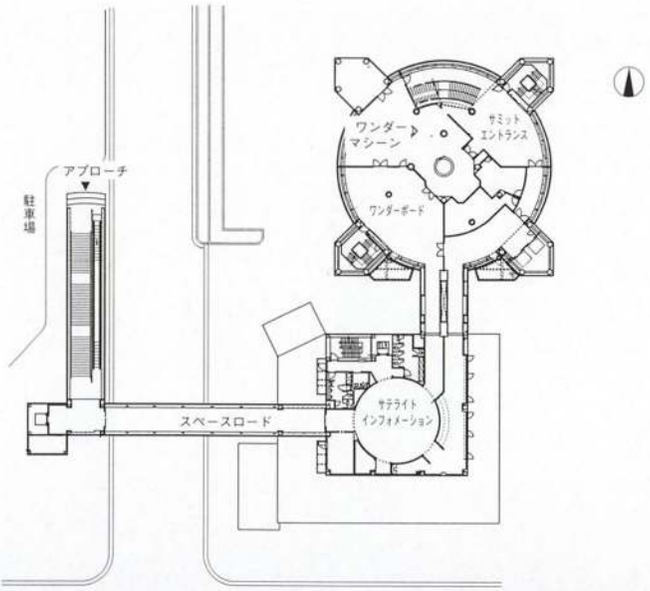
建物は、展示棟・事務所棟・エントランス棟の三棟で構成されている。中心となる展示棟の外観は、地球（直径29m）を4本の柱（化石エネルギー、原子力エネルギー、自然エネルギー、未来エネルギーを意味する）が支え、4つのエネルギーで地球の未来をバランス良く支える姿をシンボリックに表現している。球体表面には、新素材CFRC（炭素繊維補強コンクリート）版を採用した。

展示棟の地球内部は、4つのフロアーで構成され地球46億年の歴史を体験する「ワンダーマシーン」、地球やエネルギーについて論じあう「サミットスタジオ」、タッチペンを利用してコミニュケーションプログラムを映し出す「ハイパーシアター」、最上階（7階）は、360度に広がるパノラマ風景を楽しむ「展望サロン」などがある。

設備面では、運転コストを低減し、電力負荷平準化が出来る氷蓄熱空調システムを採用し、また太陽光発電設備（10kw）を設置し、動力設備系統へ併入している。

なお、この建物は平成8年度三重県さわやか街づくり賞景観部門の特別賞を受賞した。

（小平　弘／中部電力）



1階平面図　1：1000



ハイパーシアター



サミットスタジオ



ワンダーマシーン



スペースロード



ワンダボート

南面外観

ジェトロ名古屋
輸入車ショールーム

設計施工　竹中工務店



西面外観▶

所 在 地　名古屋市中区錦３丁目25番20号
敷地面積　2,895.54㎡
建築面積　1,700.49㎡
延床面積　2,751.67㎡
構造規模　S、3F
工　　期　1995年12月～1996年９月
最 寄 駅　地下鉄栄駅
撮　　影　吉村行雄、滝田良彦

名古屋の中心・栄に政府の緊急円高対策の一環として、この「ジェトロ名古屋輸入車ショールーム」が完成した。

敷地は、緑あふれる大通り公園に面した都心の超一等地であるが、猥雑な建物や看板なども目につく。そうした街並みの中に、大きなガラスの面と白い壁の線による単純な構成によって清楚な秩序を取り戻そうと意図した。

そして、緩やかな曲線屋根のもたらす現代的な浮遊感が、最新の工業製品を展示する施設に相応しいと考えた。

内部は、あくまで明るく白く、主役である自動車の引き立て役に徹し、ガラス越しに街路と一体化した展示空間となっている。また「世界」をイメージした楕円形のトップライトおよび吹抜により、1階ショールームへの採光と空間の融合を図った。

他に2つの飲食店舗とFMサテライトスタジオを併設し、都心におけるコミュニティースペースとしての相乗効果をねらっている。さらに、交差点に面した3階には大型映像装置を増設し、マルチメディア時代に対応して行政サービス情報、および緊急防災情報等の提供をしている。

10年間の期間限定であるが、名古屋の新しい名所として、街の活性化につながり、人々に親しまれ、愛されることを願っている。

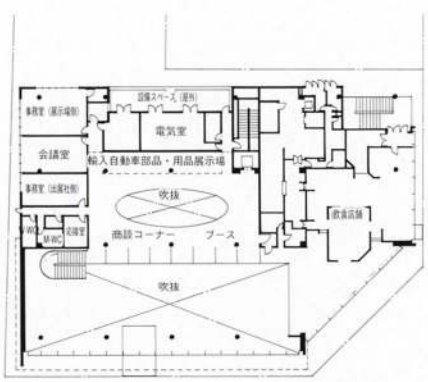
（近藤名保彦／竹中工務店設計部）



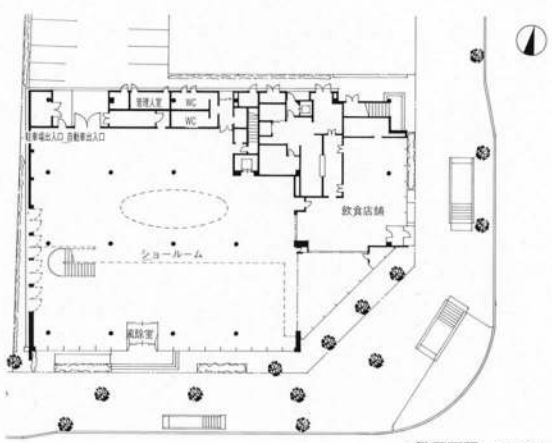
輸入車ショールーム▲

▼商談コーナー





2階平面図　1：1000



1階平面図　1：1000

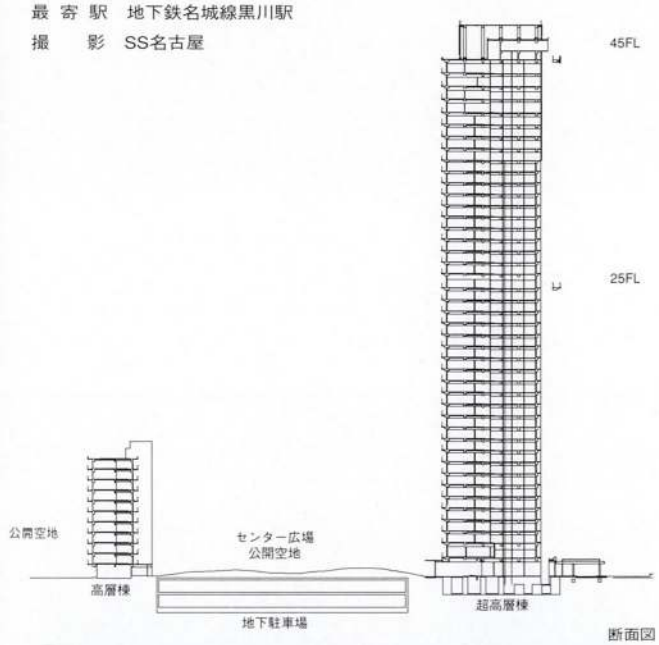
ザ・シーン城北

設計監理　積水ハウス　青島設計　KAJIMA DESIGN
施　　工　鹿島 名古屋支店

所 在 地　名古屋市北区成願寺一丁目609番1
敷地面積　19,457.47㎡
建築面積　 3,207.79㎡
延床面積　74,235.78㎡
構造規模　超高層棟：RC、45F
　　高 層 棟：SRC、11F、P1F
　　駐車場棟：RC、B2F、1F
住 戸 数　451戸
工　　期　1993年７月～1996年５月
最 寄 駅　地下鉄名城線黒川駅
撮　　影　SS名古屋



外観見上げ



断面図



航空写真



対岸より望む

建設地は、名古屋市北部を流れる庄内川と矢田川の南に隣接する住宅地域にあり、敷地西側に愛知県自動車学校、東側に名古屋市北スポーツセンターを有する環境の中に位置しています。

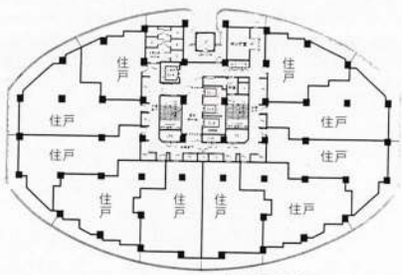
敷地内の建築物は、庄内川・矢田川に面する北側に地上45階建ての超高層集合住宅１棟（戸数381戸）、敷地南に地上11階建て高層集合住宅２棟（戸数70戸）、中央地下部分に２層式地下駐車場１棟、合計４棟で構成されています。

この計画は、敷地中央に水と緑を配した公開空地としてのオープンスペースを設け、地域住民にも開放しています。また、隣接する北スポーツセンターとも相互に通行できる計画にしてあり、より良い地域環境と、安全で美しく魅力溢れる快適な都市空間の創出に配慮した配置計画となっています。

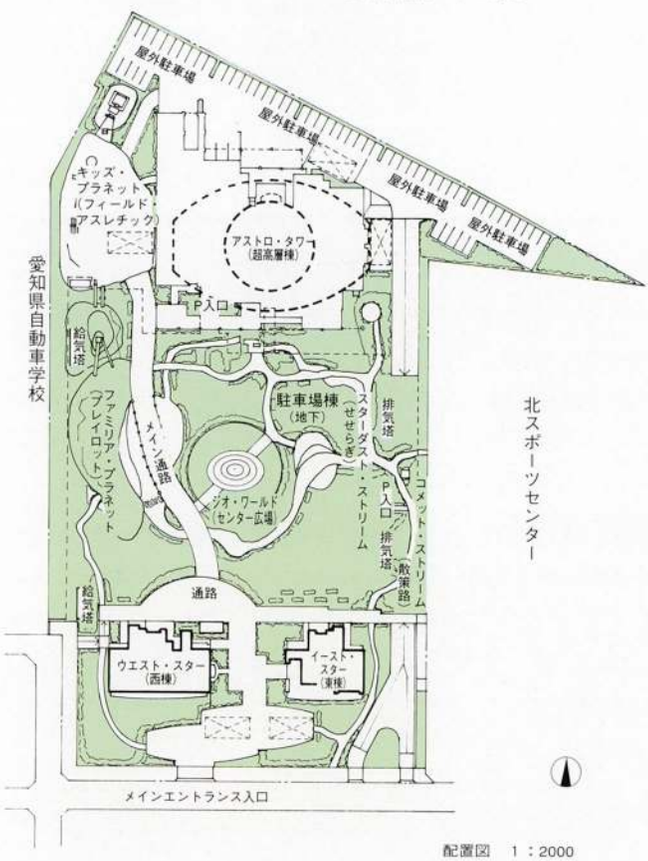
高さ160ｍの超高層集合住宅棟の平面形状は、テレビ電波障害対策を考慮し、ラグビーボール型の緩やかなカーブを描いた柔らかな形となっています。庄内川・矢田川に面した姿は、名古屋市の北の玄関口の“ゲート”をイメージしたデザインとなっています。

超高層集合住宅棟は段差梁・外周巾広梁の採用によりフラットな床仕上げ、外周部は天井面から梁の出ない開放的な室内空間とした眺望重視の設計となっています。また、設備的にも省資源・省エネルギーに配慮したコージェネレーションシステムの導入を図り、快適でゆとりのある住環境の創造を目指しています。

（関　隆司／青島設計）



基準階平面図　１：1000



配置図　１：2000



エントランス



1階ラウンジ



43階住戸内部



西より家族寮を見る

竹中工務店八事家族寮・竹友寮

設計施工　竹中工務店

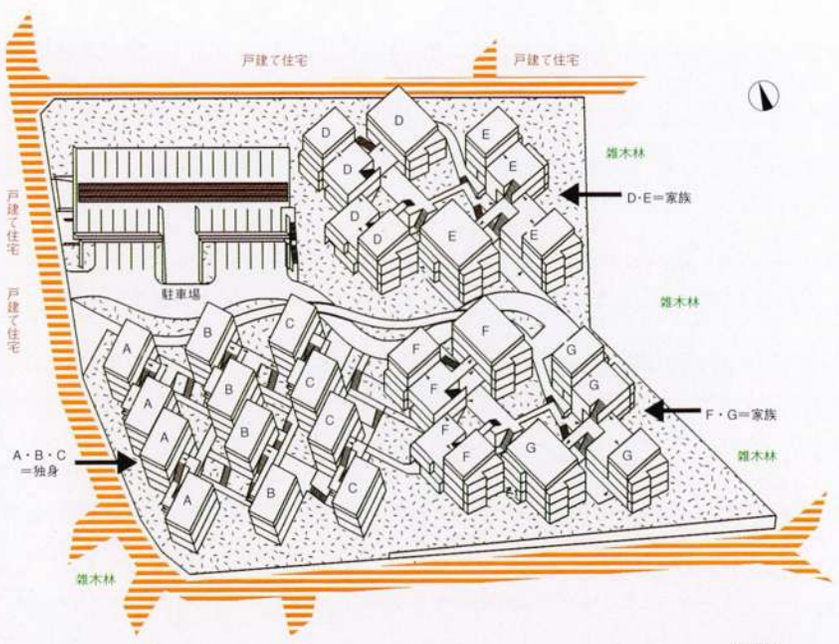
所 在 地　名古屋市天白区表台１番１
敷地面積　9,002.23㎡
建築面積　2,855.60㎡
延床面積　5,337.48㎡
構造規模　RC、B1F、3F
工　　期　1995年８月～1996年７月
最 寄 駅　地下鉄鶴舞線八事駅
撮　　影　加藤敏明

敷地周辺は、雑木林と低層の戸建て住宅に囲まれた静かな環境が保たれている。このプロジェクトは、点在していた社宅を売却し、この地へ家族寮30戸、独身寮58戸として統合したものである。将来にわたって魅力ある住環境を保ちながら、地域と呼応する仕組みは持ち続けていたい。人に自然なコミュニケーションを誘導し、近隣の住人を含め、入居者が分け隔てなく、地域と主体的な関わりを形成していってほしい。その実現に向けて、建物は、周囲の家並みを単位とする分散配置を採用し、群としての余白を確保しながら、雁行させた平面計画によって、生活空間に質とゆとりを獲得しようとしている。

外部から階段やテラスを介して直接アプローチするこの分散型の共同住宅は、ライフスタイルに合わせ、建具の取り外しによって、容易に間取りが変更可能なフラットタイプや、16mの高低差を持つ南垂れの敷地を生かし、1.5層分の空間容量を持つスキップフロア、メゾネットタイプなど、さまざまなタイプを組み込んだ住戸構成を採用している。

また、全居室での２方向以上の採光・通風条件をはじめ、遮音・断熱の高性能化、太陽熱利用などにより、先導的高効率エネルギー利用型住居のモデル事業として通産省より助成金を受けている。

（宮武　仁・永岡　久／竹中工務店設計部）



配置図

東より家族寮を見る



屋外通路とルーフテラスを見る



独身寮内観



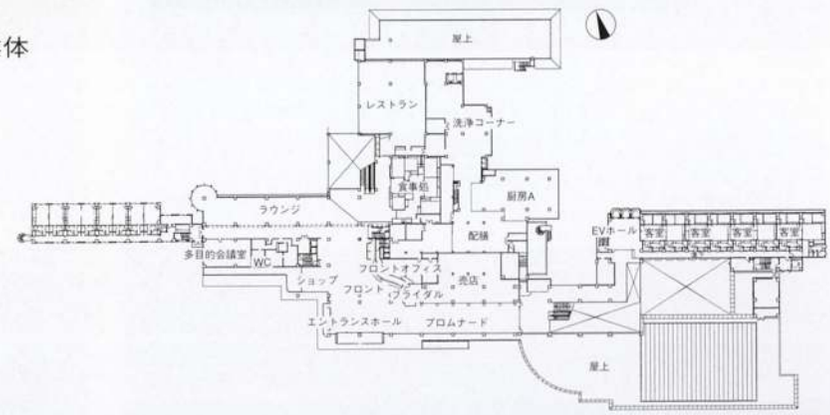
内部よりルーフテラスを見る



航空写真

鳥羽シーサイドホテル新館「海の章」

設計監理　東畑建築事務所
施　　工　建　築　大日本土木・日本土建共同企業体
　　電　気　近畿工業
　　機　械　三交産業
　　昇降機　三菱電機ライフテック中部



7階平面図　1：2000

海から望む



夜景



昭和46年に誕生した当ホテルは、その後、昭和62年に和風館岬亭を増築する等、鳥羽では一流のホテルとして実績を残してきたが、従来の本館は宿泊中心の傾向が強く、今回の新館の増築計画では、コンベンション機能の充実や、パブリック部分を整えることの他、本館のボトムアップが設計の大きな課題であった。そこで、海に面した恵まれた立地条件を生かし、敷地全体をリゾートとしてとらえる等、総合的に整備し、幅広い世代のニーズや、省力化といった時代の要請に充分応えられるホテルとして新しく生まれ変わった。

新館は高層棟と低層棟で構成され、ラウンジ、フロントまわりを一新してイメージアップした本館棟と新しい高層棟が、ヴォールト状のプロムナード空間で接続されて、全体の一体感を作り出している。

従来の和風イメージに加えて洋のイメージを取り入れ、和洋のイメージを幅広く楽しめる魅力的な施設づくりを全体にわたって表現した設計としている。この2つのイメージの接点は、今回のプロジェクトの目玉として「天空のプロムナード」として空間的、時間的なおもしろさを表現している。

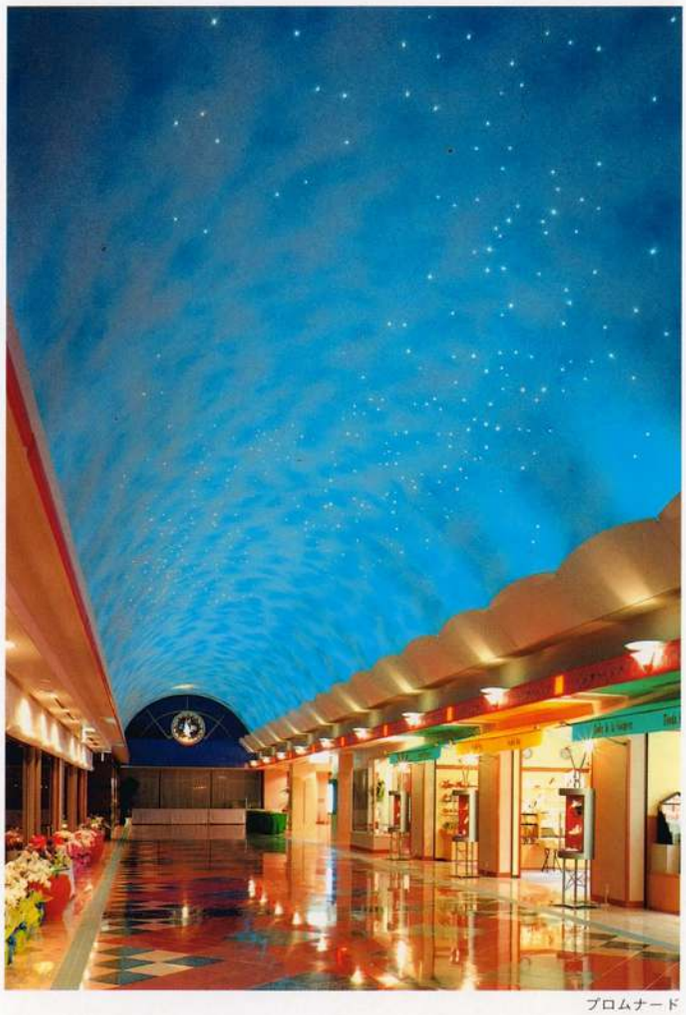
新館は今までに無かったパブリック施設の充実に重点を置き、特に、コンベンションホール、結婚式場、鳥羽一の大宴会場、それに、「泊食分離」の目玉である料亭街、レストラン等を備えグレードの高いリゾート旅館をめざしている。（建　築　吉原　宏、平木晶幸／東畑建築事務所・名古屋　インテリア　玉置豊始、堀井隆司／東畑建築事務所・大阪）

所 在 地　三重県鳥羽市安楽島町1084番地
敷地面積　78,425.00㎡
建築面積　10,486.03㎡
延床面積　38,114.98㎡
構造規模　S、RC、14F、P1F
工　　期　1994年6月～1996年5月
最 寄 駅　近鉄鳥羽駅
撮　　影　SS名古屋 他


客室


コンベンションホール


大宴会場


プロムナード


プロムナード

外観

高山グリーンホテル天領閣

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　鹿島 名古屋支店

所 在 地　岐阜県高山市西之一色町２丁目180番地
敷地面積　31,680㎡
建築面積　 5,408㎡
延床面積　14,772㎡
構造規模　S、一部SRC、8F、P1F
工　　期　1994年７月～1996年３月
最 寄 駅　JR高山本線高山駅
撮　　影　伸和



配置図


北西上空より望む



ティーラウンジ



和レストラン外観



大広間



女子大浴場

高山は北アルプス連峰をはじめ、飛騨の山々に囲まれ、恵まれた自然環境の中にある。古い町並みが残り、春と秋には絢爛豪華な高山祭りが行われ、四季を通じて観光客の足が絶えない。

当ホテルは昭和48年の開業以来、増改築を重ねてきた。「天領閣」の呼称は、高山の地が江戸時代に幕府の直轄領であったことに由来し命名されたものである。

この「天領閣」は、“日本人の心のふるさと”のイメージにふさわしい「和」の情緒を感じながらゆったりとくつろぎ、やすらぎの得られる空間づくりを基本理念にしている。外観や内装全体のデザインは純和風ではなく、現代人の求める「心のふるさと」を感じとれるような新しい和風を意図したものである。

和風庭園を取り囲むように、ラウンジ、レストラン、茶室、大浴場を配している。庭園には池や渓流、滝をしつらえるとともに四季折々の季節感が得られる植栽を行い、変化に富んだ園路を回遊できるようにしている。

大浴場は専用の庭園の中に、地元産の石で組んだ露天風呂や檜の泡風呂、それを覆う檜丸太造りの上屋などがあり、ゆったりとくつろいで、天然温泉を楽しめるようになっている。

客室は3～8階に、和風タイプを中心にして、和洋室、洋室の各タイプを設け、多様な客の要望に対応できるようにした。内装は和風でまとめ、大きく開放された窓には、障子・襖を統一して採用している。

計画をした側と、サービスをする側の心づかいがともに一体となって、ホテルを訪れる人々に、あたたかい「もてなし」を提供できることを願っている。

（脇田一美／安井建築設計事務所）



外観北面夜景

ゼネラル石油㈱木曽駒リゾートハウス

設計施工　大成建設名古屋支店

所在地	長野県木曽郡日義村木曽駒高原別荘地A-506
敷地面積	2,356.91㎡
建築面積	519.67㎡
延床面積	868.28㎡
構造規模	S、2F、一部B1F（RC）
工期	1995年９月～1996年５月
最寄駅	JR中央線木曽福島駅
撮影	SS名古屋

敷地は名古屋からJRで北へ約２時間、長野県の木曽駒高原別荘地内に位置している。
昭和30年代より開発された別荘地は歴史も古く、よく整備され、20mをこえる針葉樹林（マツ、ヒバサワラ等）になっており、夏場の避暑地としては勿論のこと、近年のスキー場の充実により、通年型リゾート地としての注目を集めている。
ここでは、この立地を生かし、１年中利用可能な魅力的な施設づくりが求められた。
建物は、１階にパブリック（ラウンジ、食堂、浴室）、２階にプライベート（寝室）を配した明快な構成としながら、その中央部に大きく入りこんだデッキと大小の吹抜を内包させ、そこをグレーゾーンとして位置づけた。
これにより、人の気配を感じさせる（ある種の緊張感）心地良い有機的な空間をつくり、訪れる人が忙しい日常生活の中で忘れかけていたさまざまな感性を取り戻すことが出来れば、という想いを込めている。
また、食事、入浴、宿泊を、リピーターで来ても楽しめるように、それぞれ２種類のタイプの中から選択できるようにしている。

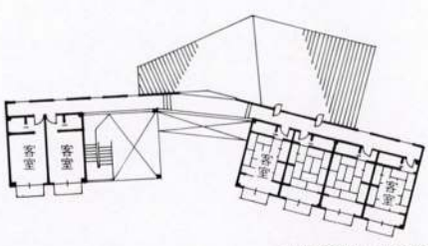
（秦　誠／大成建設設計部）



配置図　1：1200



地下１階・１階平面図　1：800



２階平面図　1：800



ラウンジ



洋食堂



和食堂



洋室



和室

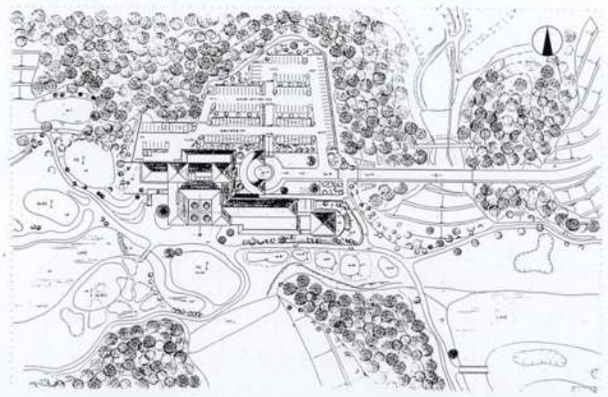
ザ・サードプレースC.C.
雲出川コース.クラブハウス

設計施工　竹中工務店

所 在 地　三重県一志郡三杉村竹原4095番地
敷地面積　1,375,460.00㎡
建築面積　4,295.36㎡
延床面積　6,006.64㎡
構造規模　RC、B1F、3F
工　　期　1993年12月～1995年５月
最 寄 駅　近鉄榊原温泉駅
撮　　影　河野　豊、青山賢三



▲No.9ホールよりの遠景



配置図　1：5000

アプローチ▼



この地域は三重県青山国定公園の一角にあり、周辺は緑豊かな自然に囲まれている。今日あらゆる場において「心の豊かさ」を求められる傾向にあり、ゴルフを正視したハウスづくりと、企業がゲストルームとして利用できるように計画された。

当計画においては、コース設計の初期段階から参画し、ゴルフコースとクラブハウスとの融合・自然との交歓をはかり、環境の中に建築をいかに溶け込ませるかを留意しながら、心から満足の得られる場を創出した。

(1) 配置計画は、東西に広がるコースに呼応し、クラブハウスの軸も東西に設定し、光・風・緑など自然との共有をはかり広がりを求めた。

(2) アプローチ·エントランスは、馬蹄形の車寄せと水鏡への山の写り込みによる出迎空間を演出し自然と建物を呼応させた。

(3) 外観は石造りを基調とし重厚かつ格調の高さを演出すると共に、必要な空間に文節した建築群で構成し、周辺環境との融合をはかった。

(4) パティオは、クラブハウスの中央に位置し、ロビー・ティーラウンジ・レストランなどを配し、中間領域として自然の景観とコースの外部空間の共有をはかり、光、風・緑そして人との積極的な交歓の場を創出した。

(5) 内部空間では、スケールを大切にし、連続する空間にふさわしいボリュームを設定する事により、変化や、やすらぎの場を創出した。そして素材の持つ質感を素直に表現したいと考え、簡素なディテールとシンプルなデザインを追求してきた。パブリック空間として、独特の色合いを持つウォールナットと石目模様の多いトラバーチンを選択し、手の温もりを感じさせるアイアンワークをアクセントに使い、暖かみのあるインテリアを目指した。

ザ・サードプレースの名の真意として、家庭・社会そして第3の交歓の場として誇れる空間となる事を願っている。

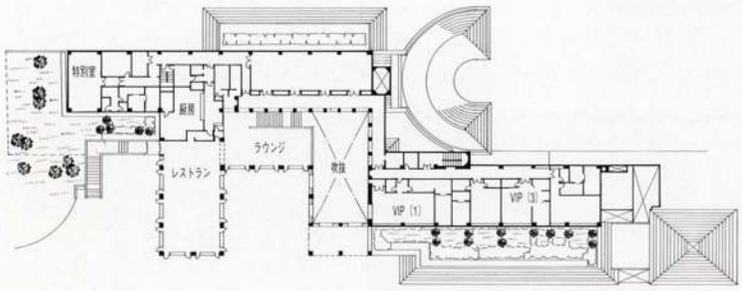
(伊藤説郎／竹中工務店設計部)



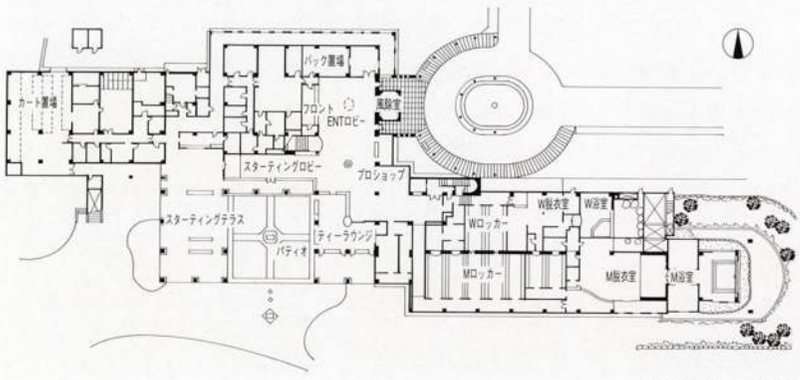
2階レストラン



2階ゲストルーム



2階平面図　1：1500



1階平面図　1：1500



メインロビー



玄関正面

アピタ名古屋南店

設　　計　伊藤建築設計事務所
外装基本デザイン指導　堀口豊太十SDA
監　　理　伊藤建築設計事務所
施　　工　大林組名古屋支店

玄関側面夜景



熱田神宮を南へ2kmほど下ったこの地区は、近くに幾つかの団地を控えていながらまとまった商業施設がなく、大規模な容量の駐車能力を備えた大型ショッピングセンターの誘致が望まれていた。

大正10年から、この地に総合工場を営む日清紡績株式会社が、木造低層社宅を高層集密化する事によって、付属グランドを再整備しながら、1,200台の駐車場を容するショッピングセンターを建設した。

開発にあたり、市道の拡巾・新設や信号のつけ替えなど、周辺の道路環境を整備することで、安全でスムーズにお客様が流れるよう最大の配慮がなされた。

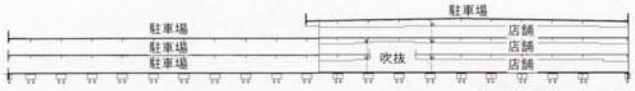
駐車場棟は、2階建3層で950台収容でき、FR鋼を使用し、階高を店舗棟と揃えることで清潔で、広々としたスペースとなり、各階駐車場からも同一レベルで店舗へ出入りできる。エレベーターを南北端に各3台、エスカレーターを中央に2セットと、縦の動線を充分に確保することで、各階の駐車場からの動きを効率的にしている。

平成8年5月の用途地域改正に伴ない駐車場許容床面積が拡大され、工事中に駐車場棟2階を増築した。また、3階以上の屋上駐車場の扱いが変更になったため、オープン直前に店舗棟屋上駐車場について用途許可を受けた。

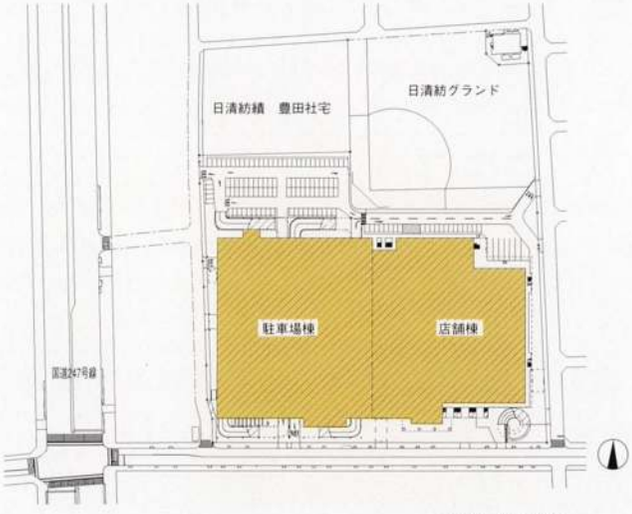
ソフト・ハード両面にわたり誰もが親しみ易い店づくりを目指し、ハートビル法の名古屋市適合第一号店としてオープンしたこの店舗が、人々に末永く親しまれることを願ってやまない。

（小田義彦／伊藤建築設計事務所）

所 在 地　名古屋市南区豊田町4丁目82-1他
敷地面積　33,186㎡
建築面積　16,984㎡
延床面積　41,069㎡
構造規模　S、4F、P1F
工　　期　1995年9月～1996年7月
最 寄 駅　名鉄常滑線道徳駅
撮　　影　SS名古屋



東西断面図　1：2000



配置図　1：4000


南西面外観夜景


セントラルコート


2階駐車場


BEAUX-ARTS
SALE
無印良品

イオン鈴鹿ショッピングセンター ベルシティ

監　　修　東畑建築事務所
設計施工　鹿島
　　電　気　川北電気工業
　　空調･衛生　東亜設備工業　須賀工業　第一工業

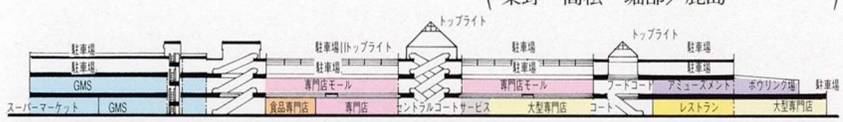
所 在 地　三重県鈴鹿市庄野羽山４丁目1-2
敷地面積　89,256.35㎡
建築面積　39,492.45㎡
延床面積　96,769.65㎡
構造規模　S、RC、4F
工　　期　1995年12月～1996年11月
最 寄 駅　近鉄平田町駅
撮　　影　SS名古屋


北東面外観

古くは、東海道・参宮街道の宿場町として栄えた『鈴鹿』。現在では、農工調和した生産都市として、また、鈴鹿サーキットは、F1レースの舞台として世界的に知られ“文化と産業の調和のとれた街”として発展しています。
そのような地に今回、広域商圏型の本格的なショッピングセンター（S･C）として『イオン鈴鹿ショッピングセンター・ベルシティ』がオープンしました。
このSCでは、核となる店舗を両サイドに配置し、その間をモールでつなぐ二核ワンモール型のゾーニングで来客の循環性を良くしています。モールは開放的で光あふれるトップライトとなっており、長さの単調さを解消するための２つのそれぞれ異なったコンセプトをもつ、吹抜空間で変化を出しています。
店舗の構成は、核店舗のGMS業態の「ジャスコ」、そして米国最大のスポーツ用品専門店チェーン「スポーツオーソリティー」の他「ボウリング場」「アミューズメント」施設等約130の専門店からなるショッピングモール街、レストラン街、文化ホール等からなり多様化したライフスタイルに対応できる県下最大級の多機能複合型の商業施設を形成しています。
また、この施設は「ハートビル法」の認定を受けており、バリアフリーの視点から誰もが快適に買物が楽しめるよう、様々な施設配慮もされています。そして建物内外にはもともと植栽されていた桜とけやき並木を始め、地域の人々2,000人参加の植樹祭で自然植生に基づいて植えられた木々等合わせて４万本もの緑に囲まれた環境も提供しています。

（加藤・米田・北条／東畑建築事務所
柴野・高松・堀部／鹿島）


北エントランス夜景


トップライト
駐車場
駐車場
駐車場

紡績工場の記憶をイメージした正面ファサード

ネクステージ知立

設計監理　清水建設名古屋支店一級建築士事務所
施　　工　清水建設名古屋支店

所 在 地　愛知県知立市長篠町大山18番地の１
敷地面積　55,581.80㎡
建築面積　28,872.29㎡
延床面積　81,094.13㎡
構造規模　S、3F、一部5F
工　　期　1993年５月～1994年11月
最 寄 駅　名鉄名古屋本線知立駅
撮　　影　車田　保



正面外観全景



正面夜景

かつて一つの時代を築いた紡績工場の跡地有効利用のために建設されたSC（ショッピングセンター）である。ここ知立は、古くより「地鯉鮒の宿」と呼ばれ、東海道五十三次の宿場町であった。かつての交通の要所に、再び賑わいを呼び戻すべく願いを込めて計画されたこの店舗のコンセプトは、従来の店舗づくりのコンセプトといささか狙いを異にしており、アメニティの感じられる様々の空間の作り込みによって、高い集客力と息の長い店舗の実現を目指している。

■良い店は長い間には必ず評価される。

来店客にとって心地好い魅力的な商空間を追及し、美しく、楽しく、心地良いSCをつくる事が我々の思いであった。分かりやすくゆとりのある店舗、疲れない退屈しない動線計画、ひだ・陰影の感じられる外観等様々なシーン計画を織り込んでいる。

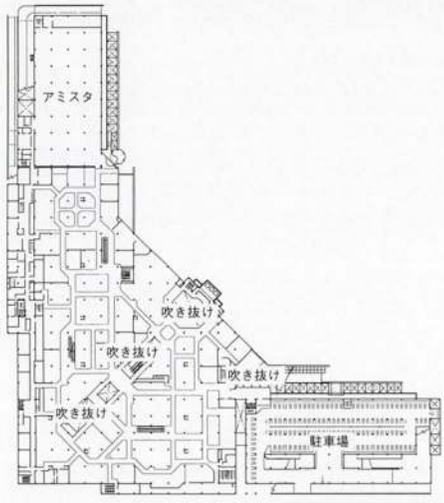
■キーワードはレトロフューチャー

ファサードの表現として、かつてのこの地に紡績工場が建設された今世紀初頭にイメージされた“未来”（レトロフューチャー）をデザインのモチーフとして採用した。紡績工場として繁栄した記憶をイメージとして残しつつ、息長く次の時代に成長していくことを念じている。

■駐車場が競争を制す。

目的の売場に接近した駐車場の設置に力を注ぐと同時に、駐車場は車の止まるところでなく、買い物客がそこに車を止めるところであると意識して計画した。緑と花を豊かに配置し、サイン計画・照明計画と一体となった屋外駐車場にその心を表現した。

（小笠原由夫／清水建設名古屋支店設計部）



2階平面図　1：4000



配置図・1階平面図　1：4000



噴水のあるパティオ



アトリウム▲

▼アトリウムより続く吹き抜け



アーケード近景

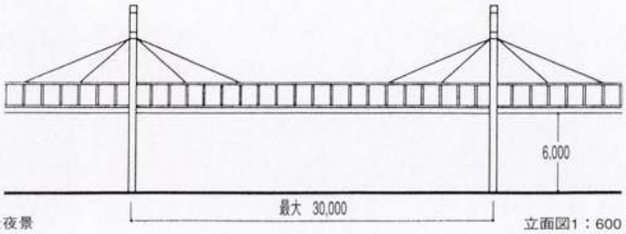


◀全景夜景

岐阜神田町アーケード

設計監理　環境開発研究所
施　　工　竹中工務店・大日本土木

所 在 地　岐阜市神田町３～８丁目地内
敷地面積　6,633.47㎡
建築面積　5,813.20㎡
延床面積　5,813.20㎡
構造規模　S、1F
工　　期　1993年９月～1996年３月
最 寄 駅　JR東海道本線岐阜駅
撮　　影　青山賢三



立面図1：600

当計画地の神田町通りは、歴史と未来が同居する街、岐阜の駅前ロータリーから柳瀬、官庁街、金華山を結ぶ歴史軸であると同時に、岐阜メモリアルセンター、長良川メッセを結ぶ文化軸を形成している。

今回の計画は、その岐阜の歴史と文化と自然、そして、未来への架け橋をコンセプトとし、人々に開放感あふれる歩行者空間を提供するとともに、地域の活性化を重要なテーマとした。

外観のデザインは街と街を繋ぐ橋をイメージした最大スパン30m、全長800m、天井高6mの吊構造による開放的なアーケードとし、歩行者と商店街に光と新しい風を与えている。

同時に都市のインフラストラクチャーの整備の一貫として実施された、電柱地中化に伴う地上トランスのアーケード上への設置、また、路面電車の架線、車路照明、信号、標識などのアーケード支柱への集約化により、視覚的夾雑物の少ない歩行者空間を創出している。

川の流れをイメージした御影石とタイルの舗道、四季の移ろいを感じさせる植栽と、岐阜ゆかりの作家の手による個性あふれるパブリックアートが街に潤いを与えている。

地元商店街を中心に市民や関係行政機関の理解と協力により、計画を推進する中で、地元商店街の結束が深まり、このアーケードが本当の意味で街と街を繋ぐ架け橋となってきた。今後各商店街の努力により、今迄以上に豊かな街路空間として成長し、地域の活性化に貢献することが期待されている。

（環境開発研究所）



歩行者空間修景



附近見取図



歩行者空間夜景

Tokai Sketch Book



名張市総合福祉センター

設　　計　安井建築設計事務所
施　　工　大日本土木・名張大道特定建設共同企業体
所 在 地　三重県名張市丸之内79番地
敷地面積　6,672.67㎡
建築面積　2,398.67㎡
延床面積　5,436.62㎡
構造規模　RC、3F、P1F
工　　期　1995年２月～1996年３月
最 寄 駅　近鉄名張駅



中津川商工会議所（増築･リニューアル）

設　　計　伊藤建築設計事務所
施　　工　吉川工務店
所 在 地　岐阜県中津川市かやの木町1-20
敷地面積　3,719.08㎡
建築面積　694.41㎡（うち増築分 70.13㎡）
延床面積　1,687.60㎡（うち増築分311.14㎡）
構造規模　RC、S、4F（増築部は４階S造）
工　　期　1996年５月～1996年11月
最 寄 駅　JR中央線中津川駅



創価学会大府文化会館

設　　計　三菱商事・東畑建築事務所
施　　工　三菱商事・三井建設
所 在 地　愛知県大府市北山町３丁目99-1外７筆
敷地面積　2,094.79㎡
建築面積　767.70㎡
延床面積　1,764.53㎡
構造規模　RC、3F
工　　期　1995年10月～1996年12月
最 寄 駅　JR東海道本線共和駅



岐阜銀行端浪支店

設　　計　伊藤建築設計事務所
施　　工　大井建設
所 在 地　岐阜県瑞浪市寺河町字沖中1188-4他
敷地面積　735.83㎡
建築面積　431.26㎡
延床面積　1,038.58㎡
構造規模　RC、3F
工　　期　1996年２月～1996年８月
最 寄 駅　JR中央線瑞浪駅



桑名信用金庫中川支店（増築･リニューアル）

設　　計　伊藤建築設計事務所
施　　工　安藤建設
所 在 地　愛知県名古屋市中川区法華西町２番地
敷地面積　1,124.84㎡
建築面積　283.75㎡（うち増築分13.45㎡）
延床面積　483.89㎡（うち増築分14.03㎡）
構造規模　S、2F
工　　期　1996年３月～1996年５月
最 寄 駅　地下鉄高畑駅



第３加藤ビル

設　　計　東畑建築事務所
施　　工　清水建設
所 在 地　三重県四日市市浜田町68、69、70
敷地面積　555.81㎡
建築面積　401.80㎡
延床面積　3,322.91㎡
構造規模　S、9F
工　　期　1995年７月～1996年５月
最 寄 駅　近鉄名古屋本線四日市駅

特集　金沢・能登
―風土・文化とまちなみ・建築

東海支部の特集も「伊勢―神宮式年遷宮と神宮界隈」「飛騨・美濃―まちの活性化と地方文化」「遠江―その地域振興と文化」と３題続けてきました。支部内で話題がなくなったと言う訳ではありませんが、少し支部の地域外にも目を向け「金沢・能登」を取り上げました。

金沢、能登の気候、風土は、日本海からの季節風と降雪による冬の厳しさとしてよく知られています。

友禅、和菓子、金箔工芸、漆……と言った金沢、能登の伝統工芸は、百万石文化が築いた美と技の芸術と言われています。これら伝統工芸は、今日の市民の生活にも深く関わりを持ち受け継がれています。古くからの技術とともに「からくり人形」「UFO伝説」「ガラス工芸」等への新しい展開をみると、伝統の継続と近代の融和を模索する姿が見え隠れするように思われます。

この特集の編集作業を終えるころ、あのロシア船重油流出事故が起きました。重油で汚れた海岸線と油まみれになり除去作業に翻弄する人々の報道にふれると、原稿依頼に訪れた隠やかな秋の日本海が思い出されます。一日も早い除去と復旧を願っています。

この特集ができましたのも多くの方々のご支援、ご協力によるものです。特に、お忙しい中、ご執筆をご快諾頂きました各役場、各建築事務所の皆様に深く感謝申し上げます。　（東海支部特別編集委員会）



［金沢・能登／風土・文化とまちなみ］
金沢の伝統文化と産業／藤田真英
金沢市のまちなみ保存施策／堀内　勝

［金沢・能登／伝統と文化、地域の活性化への試み］
羽咋市のUFOまちおこし／和田　徹
「まんだら村」整備事業について／丹圃俊記
能登半島―枠旗祭りの郷／村田正明

［金沢・能登／地域の作品紹介］
毛綱毅曠と能登／インタビュー
能登島ガラス美術館
のと門前ファミリーイン　ビュー・サンセット
桂文珍芸術工房 TERRA
石川県水産総合センター／川崎　清
金沢周辺での仕事／瀧　光夫
石川県林業試験場・展示館
石川県農業総合試験場・ビジターセンター
金沢・能登を考える／内井昭蔵
金沢港大野からくり記念館
石川県七尾美術館

見聞記４題

東海４県建築マップ

本特集企画・日本建築協会東海支部特別編集委員会
委員長　森口雅文
特集記事担当副委員長　林　金之
作品作風担当副委員長　植田　明
デザイン広告担当副委員長　小宮三辰
特集記事担当委員　松本壮一郎
作品作風担当委員　谷　淳之介
委員　磯村正雄　稲垣貞男　今津芳清　尾崎武寛　後藤利秋　鈴木慶智　仙田　篤　寺本英一
中村嘉男　中村哲士　野崎　勉　福田泰造　細田泰彦　武藤謙人　森田富士男　盛田輝勇
吉田尚道　芳山明人（50音順）

金沢の伝統文化と産業

藤田　真英

金沢の地形と風土

金沢は、石川県のほぼ中央に位置し、西北は日本海に面し、南東は山地で富山県に接し、この平地と山地の接触部に市街地が開けている。この市街地には、寺町、小立野の２つの台地、これに卯辰山を加えた３つの丘陵地がある。この間を、遠く白山山系につらなる山々に源を発する犀川と浅野川の２つの清流が、市街地から平野部を抜け、日本海へと流れそそいでいる。両河川間に突出した先端部に金沢城址と日本三名園の一つ特別名勝兼六園がある。こうした、地形を背景に、冬期には、日本海側からの北西の季節風とともに、降雪もみられ、日本の四季折々の自然の移り変わりが、極めて判然とした形で、実感できるまちとなっている。

歴史と気風

金沢の町の歴史は、天文15年（1546年）一向宗徒が現金沢城址の地に寺院を建て尾山御坊と称したが、天正８年（1580年）佐久間盛政が一向一揆を討ち、尾山城を築いた。天正11年(1583年)、盛政が賤ケ岳に敗れ、前田利家が七尾から金沢城に入府して以来、加賀百万石の城下町として栄え、この間、400年以上の長きにわたり、戦火にあうことなく、平和を享受してきたまちである。

この結果、一歩裏通りに入れば、用水や、土塀、細街路等古いまち並みが今でも生活の中に残り、日本における典型的な城下町の一つとしてその面影をとどめている。

また、江戸時代、「加賀は天下の書府」ともいわれ、明治以降には、徳田秋声、泉鏡花、室生犀星などの文豪や、高峰譲吉、木村栄、三宅雪嶺、藤岡作太郎、鈴木大拙らの科学者、哲学者等を輩出する一方、加賀蒔絵、加賀友禅、加賀象嵌、九谷焼などの伝統工芸や、能楽、狂言、邦楽等の伝統的な文化が、引き継がれてきている。

一方、こうした自然や歴史的文化的環境との調和に配慮しつつ、近代化への努力もなされ、駅西地区や都心軸沿線において、新たな開発や再開発事業が進められ、近代的な都市景観の形成が図られるとともに、産業面においても繊維工業から派生した機械金属工業を中心に近代産業の発展も見られ、北陸における、中枢管理都市としての役割をはたしている。

まさに、歴史の重みと、近代を、同時に体感できるまちと言うことができる。

金沢の伝統文化

金沢の伝統工芸

金沢は今日でも、東京や京都についで伝統的な美術工芸の盛んな土地柄として知られている。町中には九谷焼や大樋焼を売る店が多く軒を連ね、一度裏小路に入ると、加賀友禅や金沢箔、その他多く



石川門



兼六園冬景色

の手仕事を中心とする作家や職人の住まいに出会うほど、町全体が美術工芸の町であるかのような香りをただよわせている。こうした金沢の美術工芸を考える場合、その源流をたどると、そこには、どうしても百万石という財力を背景とした前田家の文化奨励策が、浮かび上がってくる。

初代藩主前田利家以来、加賀藩の歴代藩主は、外様大名で、しかも百万石の雄藩ということで、幕府の厳しい目を常に意識し、徹底した文治主義に徹し、財力にあかせて積極的な文化事業を推進してきた。まさに「前田家は湯水のごとく文化にお金を使う」との形容もあるように、当時の文化先進地である、江戸や京都から著名な儒学者や画家、工芸家、茶道の宗匠などを招き、高禄で召しかかえ、また、藩として加賀藩御細工所を設けて、漆や象嵌などの高度な工芸技法を施した、武具や各種調度品の修復や製作に当たらせた。

これらの文化人、名工として著名な者は、高台寺蒔絵の巨匠で今日の加賀蒔絵の始祖と言われる五十嵐道甫、門人で、江戸の名工清水九兵衛はじめ、金工宗家歴代の中にあって傑出していると言われる後藤琢乗や大樋焼の大樋長左衛門等枚挙にいとまがない。

また、これらの工芸品を製作するうえでの、意匠見本として、あるいは製作工程見本として集大成されたのが、かの「百工比照」であり、今日にいたるまで、貴重な文化遺産として、大切に伝えられてきている。

（現　況）

藩政時代、人々の手から手に引き継がれてきた伝統工芸は、激しい時代の変化にも耐え、脈々と引き継がれてきている。現在、市内で確認されている、伝統的工芸品産業は京都に次いで多く、加賀友禅・金沢漆器・九谷焼・大樋焼・金沢箔・金沢仏壇・加賀刺繍・加賀竿・加賀毛針など26種となっている。

加賀友禅、金沢箔などの伝統産業の事業所数は約800事業所、従業員数で約3,000人に達し、市内事業所数の約20%、従業員数の約10%で、一つの基幹産業となっている。また、日展や日本伝統工芸展など中央の公募展に出品する工芸作家も多数にのぼり、人間国宝から明日の作家をめざす者まで、各レベルで活発な創作活動を展開している。

この伝統工芸の存在は、単に産業面のみならず、観光やコンベンションの貴重な資源ともなり、また何よりも「優れた技と心に拠る文化伝統を貴重なものとする」金沢の市民の、四季折々の生活や美意識にまで大きな影響を与えている。

その他の伝統文化

一方、これとともに、もう一方で特筆する伝統文化として金沢における能や茶道等の、伝統芸能の世界がある。

金沢における能と茶道は、藩政以来、武士や町人の教養として栄え、今も多くの人々がその伝統を受け継ぎ、たしなんでいる。能が



友禅絵付け



能

特に盛んとなったのは、藩政初期からで、後に加賀宝生の王国となり、「加賀では、天から謡が降ってくる」と言われるほどの普及をみた。

茶道は、五代藩主綱紀の時代に京都から招かれた千宗室以来、歴代藩主の奨励するところとなり、明治から昭和、平成と時代を越えて愛好されてきた。

戦後になって特に一般の人々に広く浸透し、月釜や兼六園茶会に多くの人が参加している。これとともに和菓子も愛好され、銘菓も多く、菓子処金沢の名は全国に知られている。

生け花も戦後広く普及し、現在17流派の活動が見られる。生活の中に美を取り込み、安らぎとうるおいをもたらしている。このほか、邦楽、日本舞踊に親しむ人も多く、特に金沢素囃子は格調が高く、その技術水準は全国的に高い評価を受けている。

金沢の産業

金沢の産業については、先に述べた藩政期以来の伝統工芸品産業のみが一般的に広くイメージとして定着しているが、明治以降の近代においても、地域に根ざした内発的な地場産業の着実な発展を見ている。

明治20年代、後発の新興機業地として出発した金沢の工業は、後発なるがゆえに、付加価値の相対的に低いとされる絹織物（輸出用羽二重）の生産に特化し、大量生産を追い求めた結果、他の先進地域に先んじて機械制工場制度への転換を成し遂げることになり、ついに先発機業地を追い越したのである。

同時に、このことは域内で織機メーカーを育成発展させることになり、織機の改良が、繊維工業の生産性を向上させ、繊維工業の発展が織機工業のイノベーションを支える形で金沢に「繊維王国」をもたらしたのである。戦後、繊維の素材が合成繊維へ転換するとポリエステル織物の世界的産地へと成長を遂げた。一方の織機メーカーも素材転換に対応してイノベーションを進め、性能の高い自動織機をつくり出した。

さらに、繊維機械工業が育成した部品加工の機械金属工業の集積をベースにして、工作機械メーカーや食品関連機械メーカーが自立して、多角的な産業機械工業を地域内で発展させた。これらの機械工業はいずれも、多品種少量の注文生産を基本にするものであり、金沢の伝統的職人気質に適合し、大企業の入り込まないニッチな市場に特化していることを特徴としている。

このように、金沢の近代工業は明治中期以降、現在まで約100年をかけて繊維工業と繊維機械工業が、二大基幹工業として地域内で相互連関的に発展を遂げ、これを基礎にして戦後には工作機械や食品関連機械、さらには出版・印刷、食品工業、アパレル産業等が展開しており、人口45万人の都市としては、多彩な産業連関構造を保持した地方都市となっている。



お茶会



和菓子

金沢の文化、産業の特質と展望

藩政期の前田家の保護奨励により培われた金沢文化の特徴の一つに、百万石の財力をあかしての他のいかなる大名の追従も許さないスケールの大きさをみることができる。これは、政治面では、徳川家に屈していても、文化面では、日本一の大大名たる一種の徳川政権に対する対抗意識と言うべきものに起因する。また、一方で何もない地域に一時機に集中的に前田家を中心とする文化サロン社会とも言うべき集団によって京都より移入育成された文化であって、京都的影響下に発展してきた文化とも言える。

このことは、金沢人の体質にも、強く影響しており、一方で京都的で繊細な自然の美に対する感受性を受け継ぐとともに、雨や雪の多い厳しい風土に耐えて、忍耐づよく、そして風土の中から力強い豪放さを秘めた美を求めていった。これに前田家の豊かな財力がプラスされ、艶やかな中にも大らかさがあり、豪放な趣きのある独特の金沢文化が形成されていったのである。

こうした自然環境と、豊かな財力、厳しい風土と、京都的な自然に対する艶やかな人間の心づかいが総合されて、まれにみる金沢の伝統文化の土壌が作り上げられていった。

江戸時代に形成された金沢の伝統文化は、明治以降、今日も連綿と受け継がれ、美術工芸のみならず人々の生活文化の細部にまで影響を与えている。

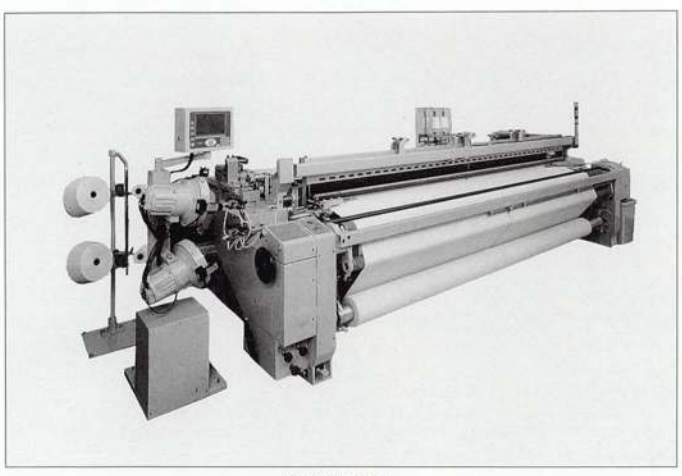
近代化の進展で、機械化が進み、手仕事の味わいが真に見直される今日、金沢ではこうした伝統の上にたった精神が文化、産業の各方面に渡って生き続けているのである。

しかしながら、こうした伝統的な金沢文化も画一化、稀薄化の危機に瀕し、職人文化の各分野にわたり、後継者不足や、材料のひっ迫、技法の衰退等に直面しているのも事実である。金沢市は、こうした意味で金沢の個性そのものとも言える職人文化の精神を受け継ぐため、このほど平成８年10月に金沢職人大学校を開設し、職人の技、心を今後とも将来に渡って継承していくこととした。

以上のような、自然の立地条件、四季の変化、歴史的文化的な環境、都心軸沿線の近代的景観など、金沢は、日本の都市のなかでも、最も日本的な都市の一つとして知られ、全国の都市がともすると近代化の中で個性を失い存在が稀薄となる中で、独自の個性を内外に発信し、今後とも、21世紀に向け、小さくとも世界の中で、独特の輝きを放つ都市＝世界都市金沢＝の実現をめざしている。

平成７年12月に発表された「金沢世界都市構想」では、これらの金沢の個性について、「恵まれた自然の立地条件とそれを生かした独特の都市構造」、「歴史に根づいた文化伝統」、「工芸・学術との円環的な繋がりで発展してきた地場産業」、「市民の定着度の高さと連帯意識の強さ」などをあげ、今後共、これら金沢の個性をより一層守り育て、世界に向け発信していかなければならないとしている。

（ふじた　しんえい／金沢市経済部商業振興課）



繊維機械産業



金沢職人大学校

金沢市のまちなみ保存施策

―住民が誇りをもって守り育てるまちづくりをめざして―

堀内　勝

金沢市における景観施策の歩み

起伏ある地形と旧城下町としての歴史

金沢市は、西は日本海に面し、東には白山山系の山々が続き、この山あいから犀川と浅野川の２つの流れが市街地を貫いている。犀川の南には寺町台地、浅野川の北には卯辰山丘陵がひろがり、２つの川の間の小立野台地が市街地中心部をのぞき、その突端に特別名勝「兼六園」と「金沢城址」がある。現在の中心市街地の骨格は1583年前田利家入城以来、建設された城下町を原形とする。その後、戦災、震災等、大きな災害を経験することがなかったことから、各時代の特徴を色濃く残す土地利用や町並み、細街路、用水などが残されるにいたった。豊かな自然と起伏に富んだ地形の上に、約400年の時間的連続性をもって町並みが形成されてきたことが市全体の景観に特徴を与えている。(図１、写真１)

「金沢市伝統環境保存条例」の制定

昭和41年、高度経済成長の下で全国的に開発と保存の問題が注目される中、「古都保存法」が制定された。この動きは全国の歴史的都市に及び、昭和43年、金沢市においても全国の自治体に先駆けて独自の条例が制定されることになった。

この条例に基づき、保存区域の指定（当初76ha、昭和57年までに423haに拡大）を行い、届出制度により建築物の高さやデザイン誘導、緑の保全、用水の復元整備などを進めてきた。また、単体の歴史的建築物の外観保存のため「指定保存建造物」の指定や、モデル地区の設定を行い、重点的な補助を行うなどの施策を展開してきた。

総合的な都市景観条例へ

しかし、昭和60年代に入ると、都心部の再開発事業や都市計画道路の整備、民間のマンション開発などが活発化する中、保存区域内の誘導だけでは限界が見えてきた。そこで、全市的に景観施策を展開するため、従来の条例を発展的に継承し、総合的メニューをもつ景観条例(「金沢市における伝統環境の保存および美しい景観の形成に関する条例」)を平成元年に制定した。平成４年２月には、マスタープランとして「都市景観形成基本計画」を策定し、これに基づき、８月には従来の「伝統環境保存区域」を拡大指定(32区域、1,558ha)するとともに、都心軸を中心に「近代的都市景観創出区域」の新たな指定(13区域、154ha)を行い、さらに区域毎の景観形成基準が定められた。従来の歴史的町並み区域を旧城下域の範囲で見直しを行うとともに、犀川・浅野川の川筋区域および都市の背面となる丘陵の遠望風致区域について拡大したものである。さらに、新たな概念として都市の活力や賑わいを視点とする区域の導入を行い、あわせて総合的な都市景観誘導を目指している。

この内容は、1,712ha（うち市街化区域内が1,017haで本市市街化区域の約１割に相当）に及ぶ指定区域の広さや、全域に10段階(８m～60m)の高さ基準を設定し、届出制を実施したことなど、景観条例に基づくものとしては、全国的にも例の無い規模であった。しかし、旧条例時代からの20年以上にわたる実績や、折から崩壊したバブル時代の急激な開発への反省の風潮もあり、市民の間には大きな摩擦も無く受け入れられたと思われる。昨年４月には、中核市移行に伴い金沢市屋外広告物条例、また、金沢市用水保全条例を制定

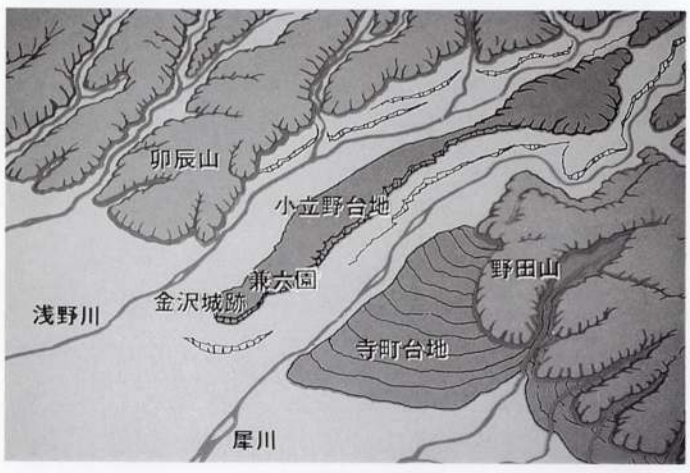


図１　金沢市の地形概要

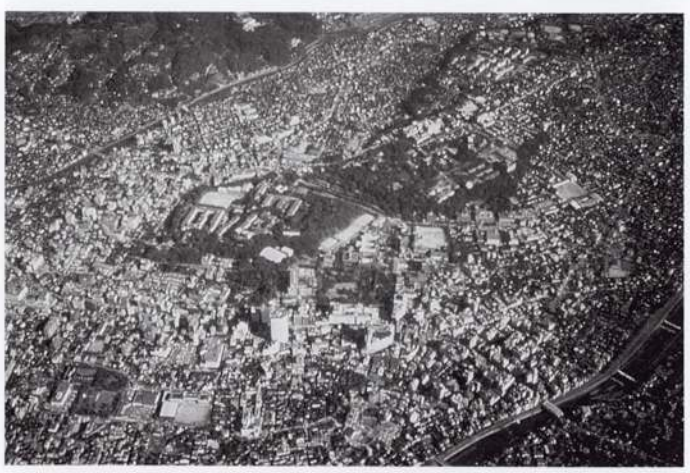


写真１　中心部航空写真（中央は金沢城址）

し、市全域へのきめ細やかな広告物の景観誘導や貴重な歴史的財産である用水の保全等、積極的な景観施策の推進に努めている。

歴史的まちなみ保存施策の展開

寺院群の土塀・山門の修復

個別の町並み保存施策の中で比較的早期に着手されたのが、寺院群と長町武家屋敷群の土塀の保存である。

金沢には、城下町建設時に主として浄土真宗以外の寺院を集めた３つの寺院群があり、現在も約150の寺院が集積している。連なる土塀や山門、豊かな緑と大屋根などが歴史的雰囲気に満ちた景観をかたちづくっているが、檀家の多くが武士階級であったため経済的基盤が弱体化したことや都市構造の変化のため、往時の姿が失われていくものも多かった。

昭和43年、最初の伝統環境保存区域の指定が長町武家屋敷群とともに寺町、卯辰山山麓の寺院群について行われ、昭和45年から土塀の修繕・復元に助成（補助率90%、1,000万円限度）を開始し、平成7年度までに54寺院（延長約1,600m）で事業実施してきた。また、山門修復への助成（70%、500万円限度）も昭和55年から開始し50寺院で修復が行われた。

しかし、前述の経営の脆さから荒廃、場合によっては廃寺となるものもあり、今後地域とのかかわりの中で、どう寺院群を保全・活用するかが課題となっている。平成６年８月には、「寺を生かしたまちづくり」をテーマに、寺院群を有する７都市の市長が金沢に集い「寺町サミット」を開催、今後のあり方を探った。本年度も岐阜市において第３回をかぞえた。（**写真２**）

長町武家屋敷群の土塀の修復

一方、長町地区は武家屋敷跡地として土塀の続く町並みを守るため、昭和39年から土塀等の修復事業を市の直営工事として着手した。現存のものを修繕するだけでなく、明治以降に敷地が細分化された一般の住宅においても、協力を求め可能な限り復元を進めている。現在までに、延べ132件（延長約3,000m）の修復を終えた。

また、街路や地区を貫く大野庄用水周辺の修景整備も行われ、幹線道路以外では金沢で最初に電線類の地中化が行われた。中心繁華街に隣接し、武家屋敷群跡地の面影を残す土塀と用水の町並みは、市民や観光客に親しまれている。（**写真３**）

茶屋町の外観修景

町家形式のひとつとして、金沢の歴史的町並みを最もまとまった形で残しているのが茶屋町（旧廓）である。現在は、ひがし、にし、旧主計町（かずえまち）の３地区のいずれもが伝統環境保存区域に指定され、重点的な保存事業を実施している。

なかでも「ひがし茶屋街」は、昭和50年代始めに文化財保護法に基づく伝統的建造物群保存地区の指定を目指し調査が行われたが、住民合意にいたらず、以後地域の自主的な努力と市の助成により保存に努めてきた。にし、主計町を含め、補助事業により格子戸の連なる家並みの保存、修復を進めるとともに、街路の修景、電線類の地中化、ポケットパークの設置など公共空間の整備も行っている。なお、補助事業については、平成７年度までに建築物修景事業（70%、1,000万円限度）で58件の修復が行われている。



写真２　卯辰山山麓寺院群


写真３　長町武家屋敷群



写真４　ひがし茶屋街



写真５　ひがし茶屋街細街路

３地区のいずれにおいても茶屋としての営業は減少し、バブル期にはマンション用地としても着目された。なかには、市で買収したもの、地元企業が保存の方向で取得したものなど、官民が協力し「防衛」にあたった。最近、飲食店等としての利用がみられ、今後「生きた町」として町並みを維持していくために、これらの建物の活用が課題となっている。（**写真４**）

また、歴史的町並みを残しているということは、細街路（旧城下域内、平均幅員約3.2m）に面する老朽木造建築物の密集地であることにほかならず、災害に脆弱であることから町並み保存の上で個々の建物から地域にわたる防災面への視点が必要である。さらに、改築時においては建築基準法との関連から、外壁板張りや格子戸等の様式維持が困難であり、また細街路では道路からの壁面後退が必要なため、建物前面の連なりが崩れることなどが現実問題となっている。（**写真５**）

これらは、古い市街地での町並み保存に共通の問題ともいえる。市では、狭い敷地条件や現行法規を満足しながら、町並みにあわせ様式の復元を試みた「旧主計町モデル住宅」を建設したほか、修繕改築時において技術的、財政的支援を通じて住民と共に様々な試みを行っている。（**写真６、７**）

こまちなみ保存事業

金沢市は、平成６年４月に歴史的町並みの保存をさらに充実させるため「金沢市こまちなみ保存条例」を制定施行した。

先に述べたように、景観条例に基づく誘導や歴史的建造物等の重点的保存に努めてきた。しかし、城下町金沢において広く点在し、武士系や町家系等の歴史を色濃く残す町並みが、次第に失われてきた。これらの現状を調査し、保存手法を検討するために、平成元年度から３年間にわたり、歴史的特徴を留める建築物・街路のほか、武士系14地区・町家系27地区の歴史的町並みなどについて専門家による調査を実施した。この結果は、「金沢の歴史的建築と町並み」としてまとめられ、この中で「こまちなみの保存」の提案が行われた。

ここでは「こまちなみ」とは、①「伝統的建造物群保存地区」ほど面的広がりや質的純粋性は持たないが、歴史的風情を残す「ちょっとした良い町並み」で、②十戸程度でも景観的まとまりがあればよく、③伝統的な家を大切にしながら、今も住んでいる人達の「いきいきとした生活感」を重視し、④江戸・明治・大正、質さえ良ければ現在の建物が混在しても良いとしている。このような意味で、「古」町並みであるとともに「小」町並みであるともいえる。

条例では、「こまちなみ保存区域」の指定を行い、区域の核となるような歴史的建造物を登録し重点的に保存することとしている。また、登録した保存建築物はもとより、その他一般の建築物の修繕・改築や土塀等の外構への補助、住民団体の保存活動への補助などの助成制度を用意している。保存基準においても、一般（最低）基準修景（補助）基準および保存（建造物）基準と、住民がそれぞれの事情に応じて配慮できるような段階構成をとっている。（**図２**）

「伝建」の規模や内容を緩やかに考え、金沢独自の風情を残す町

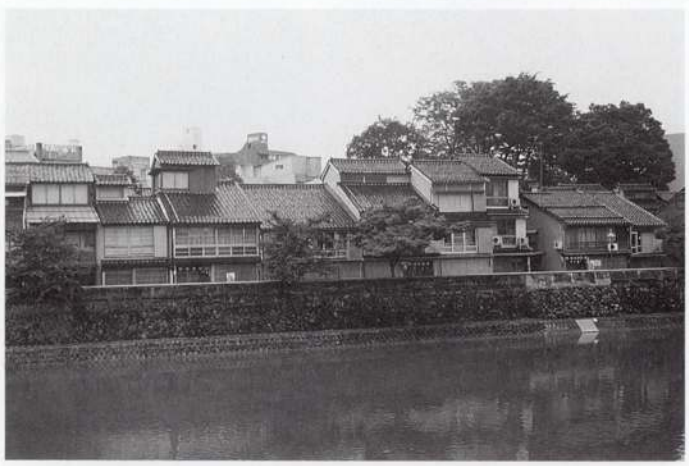


写真６　旧主計町茶屋街（左から２件目がモデル住宅）

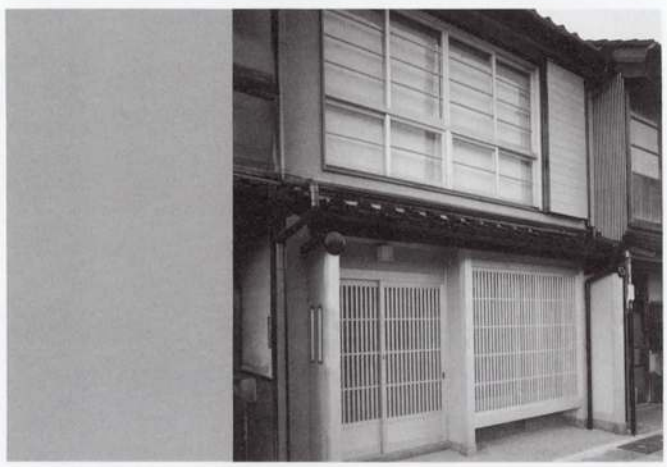


写真７　旧主計町モデル住宅

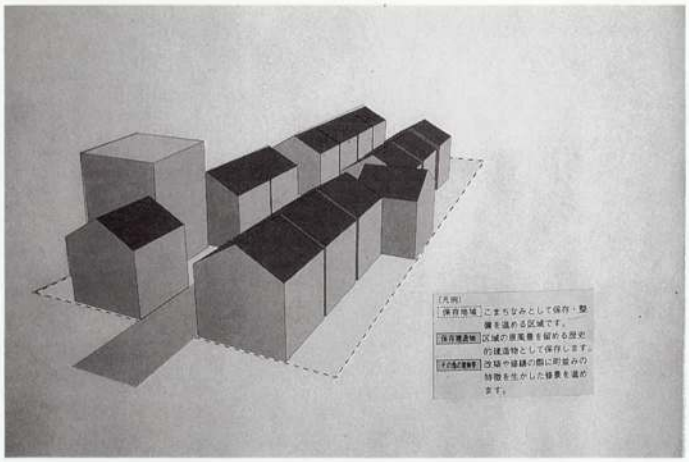


図2　こまちなみ保存区域 概念図



写真8　こまちなみ保存区域 旧観音町区域

並みを生きた町として保存・再生しようとする、「ミニ伝建」とでもいうような内容である。

昨年までに、4地区について指定を行ったところであるが、住民との協議の中で町への愛着・関心の深さに励まされる場面も多々あり、また、区域指定を契機に地元まちづくり協議会が設立された地区もでてきている。本年度から「こまちなみアドバイザー」委託事業を実施するなど、今後とも事業充実に努めながら順次区域指定を進める予定である。(**写真8**)

今後の課題

最後に、今後の町並み保存に関わる課題について、前述の建築基準法の規制等の他にいくつか触れておきたい。

まず、歴史的建造物は極力保存するとしても、そこに軒を連ねる一般の建築物や道路等の公共空間を、町並みとしてどうデザインしていくか、という点である。

本市では、茶屋街などを除き、各時代の建物が混在している町並みが大部分であり、一律に特定の様式で復元することが必ずしも適当でないと思われる。映画村のような建物群、石畳、ガス灯などの町並みが各地で出現することに対する批判も多い。歴史的特徴を生かしながら時代に応じた質の高い都市空間を創出するため、個別の建築物や公共空間をどのように誘導あるいはデザインしていくかは、行政にとっても現実の悩みであり、地域に応じた試みを積極的に行っていくことが大切であろう。

次に、町並み保存を古い市街地の再生の方向を探る切り口のひとつとして考えるということである。

都市機能がコンパクトにまとまっているという利便性がある一方で、狭い道路や敷地、古い様式の建物は、現代の生活様式に合わない面が多い。このことが、歴史的建造物の消滅や地域の人口減少を加速している。このような旧城下の歴史的町並みでは、「スクラップ・アンドビルド」ではなく、その町の歴史的特徴を生かし、生活や経済活動の場としての環境を整え、住民が誇りを持って守り育てていけるようなまちづくりの一環として町並み保存事業を位置付けることが必要であると思われる。

町の外観だけではなく、生活の中に息づいてきた文化やコミュニティ等を大切にしながら、住民と共にまちづくりを考えていく姿勢を忘れてはならないだろう。

また、このように「こまちなみ」に代表される裏通りが生き残り再生していくためには、当然ながら、旧市街地での都心部の活力の維持が必要不可欠であり、保存すべき部分と開発する部分を上手に共存させていくことが課題となる。

これらの問題は、いずれも本市にとって町並み保存施策を観光資源の開発や文化財保存の視点だけではなく、今後のまちづくりの根幹に位置付けて進める必要性を示していると思う。(**写真9、10**)

(ほりうち　まさる／金沢市都市政策部まちなみ対策課主査)



写真9　石伐坂（寺町台地から犀川へ下る）



写真10　友禅流し（浅野川大橋周辺）

羽昨市のUFOまちおこし

和田　徹

昭和59年の文化祭の若者のUFO展から始まった活動は、郷土を外から眺めて見ることで、その価値を再発見し、また、欠点も洗い出すことができるということから行動を起こし、昭和60年には邑知平野に伝わる古い伝承「そうはちぼん」伝説が発見された。これは、現代でいうUFOの伝承ととらえた地元有志青年たちが「UFOによるまちづくり運動」を開始した。思源作戦（知恵を出す）・人脈作戦・マスコミおこし作戦・外堀作戦と名付けられたまちづくり戦略によって羽昨市はUFOをテーマとしたまちづくりが商店街を中心に巻き起こり市内にはUFOうどん・UFOラーメン・UFO饅頭・UFOパン・UFOクリーニング・UFO愛す（アイス）などが目白押しに出現しだした。行政の支援をという声が議会に出され、ついに「宇宙とUFO国際会議」が1990年11月に開催されることになる。このイベントは手作りとしてできるだけプロの関わりを省いて行われた事業で、そこで培われたノウハウは今でもしっかりと残っている。このイベントは、新しい多機能施設「コスモアイル羽昨」へとつながっていくための一つのステップであった。

『そうはちぼん伝説』とは、邑知平野に伝わる九十九伝説の一つで、「西山（眉丈山）の中腹を東より徐々に西に移りゆく怪火をそうはちぼん、或はちゅうはちぼんという。そうはちぼんは羽坂の六所の宮よりあらわれ一の宮の…云々」という伝説を現代的に解釈し、「そうはち」「にょうはち」といわれている仏具が、片手で持つとまさに”空飛ぶ円盤”に形が似ていることから、その伝説が書かれた当時の円盤目撃事件として伝承したものであると解釈した。

また、山沿いの集落で言い伝えられている「なべふり」伝説では、夕餉時になっても家に入らない子供たちに対して親は「なべが空から降ってきて、おまいらをさろてくわ」（おまえたちをさらっていく）と言う言い伝えが残されている。（新宮・所司原地方）これは、近年問題にされているUFOによる誘拐現象がかつて実際に起こったことからそうした伝承が言い伝えられたものと解釈した。

こうした、伝承・伝説から、羽昨を空飛ぶ円盤の伝承・伝説の町として青年たちは情熱を傾け「UFOによるまちづくり運動」を開始したのである。たった一枚の古文書のコピーを拠り所に開始されたまちづくり。そこには、彼らの知恵が働いていた。「迷惑だ」「勝手にするな」という批判を後目に、着々と準備を整えるために、まず、マスコミおこし作戦による、北海道へのPR。次は九州地方の順に「石川県羽昨市では青年たちが中心になりUFOでまちづくりを開始した」と報道を続けた。北陸3県に報道したのは、さらに半年以上の後であった。

このようにして、情報を外側から内側へと逆輸入する作戦も同時進行した。また、人脈拡大作戦では、細い人的つながりを町にとって活用できるように別の人脈を分けてもらうということを実行した。さらに、レター作戦と名付けられた行動では、当時のゴルバチョフ書記長をはじめ、様々なVIPに対しての手紙をかきまくり体当たり行動を起こした。その結果得られた人脈は掛け替えのない財産として今後も生きていくことになった。この一連の活動は、自治省のリーディングプロジェクトの指定を受けた「宇宙の出島　能登羽昨プロジェクト」に結びついて、全国に類を見ない実物の宇宙機材と先端科学者の講義を受けることができる宇宙科学展示室と最先端のコンピュータグラフィックスプラネタリウムを有する多機能交流施設「コスモアイル羽昨」の建設に結びついている。しかしながら、この施設の建設が最終の目標ではなく、コスモアイル羽昨を核とした地域活性化の足跡が新たな「UFO伝説」を創り上げることになるでしょう。

（わだ　とおる／コスモアイル羽昨主査）



コスモアイル羽昨 ロトンダ



同左 宇宙科学展示室

「まんだら村」整備事業について
（大生自然休暇村）

丹圃　俊記

門前町の概要

門前町は、日本海に突出する能登半島の北西部に位置し、変化に富んだ美しい海岸線は、能登半島国定公園に指定されている。人口は、現在、約9,500人。昭和31年の19,033人をピークに減少を続けている。

人口の減少の原因は、若者たちの町外への転出であり、中学・高校を卒業と同時に町を離れ、大学や専門学校を出た後も地元以外で就職・結婚する出身者が多いということである。それに従い過疎化と高齢化が進み石川県で最も高い高齢者比率約35%となっている。もう一つの要因としては、本町の基幹産業は主として農林水産業でありその多くが小規模兼業農家である。商工業も小規模事業所が多く、いわゆる若者にとって安定した、魅力ある職場もなく、そして都会的な遊び場もないということが大方の意見である。

こうしたなかで、本町は、恵まれた自然と歴史・風土を生かした産業の新たな展開を図り、地域文化を創造し、精神文化を基調とした住みよい町づくりを推進する方向性を定めた。

門前町の歴史的背景

門前町は、その名のとおり、曹洞宗大本山総持寺の“門前町”である。福井の永平寺と並ぶ総持寺は、1321年ここ門前町（当時櫛比荘）に創建されて以来、禅修業の道場として全国1万6千あまりの末寺に君臨してきた。現在、参拝客数は年間約30万人である。

また、門前町は江戸時代から明治初期にかけて日本海を舞台に活躍した“北前船”の基地でもあった。当時十数軒あった廻船問屋は、北海道のニシンや昆布、東北の米、九州の陶器、大阪（堺）の砂糖や綿等の流通に大きな役割を果たした。

このように海上交通が主であった頃、この門前町は日本全国から修行僧の往来や商品の流通などで賑わい、今以上に「ヒト」、「モノ」の交流が盛んに行われ、文化・情報の発信（受信）基地でもあったようである。

ところが明治期に入り、蒸気船の進出や陸上交通の発達で次第に北前船も衰退し、経済・文化活動の中心は太平洋側へと変わっていったのである。そして、かって表玄関であった日本海側は、道路・鉄道交通網等インフラ整備の点から太平洋側と大きな格差が生じてきたのであった。

事業の経緯・概要

平成2年春、東京・大阪・名古屋など全国6都市で企業経営者等を対象とした勉強会「未来予測研究会（WSF）」を主宰する㈱現代人間科学研究所所長 飛岡　健氏の発案により、町おこし事業としての「まんだら村」構想がスタートした。

21世紀は芸術・宗教・哲学の時代ともいわれており、物質的な豊かさより精神的（心の）豊かさを求めるようになってきている。

こうした中で「まんだら村」は、日本海を一望できる台地に企業経営者や文化人、芸能人の方々が集い個々の充電・リフレッシュはもちろん、文化活動等を通じて地元住民との交流・ふれあいを図る空間を作ろうというものである。

したがって、ここは単に老後を静かに暮らす分譲別荘地やテーマパークのような観光地でもない。入村者相互には異業種交流の場で



奥能登最後の秘境猿山岬



総持寺祖院

もあり、地元住民にとっては文化交流・情報発信の場ともいえるのである。

「いろんな分野で活躍中の方々が入村されるので、各部門で門前の町おこしの応援団になっていただきたい。地元住民との交流の機会を通じ、よい意味で町民が刺激を受け“やる気”を持ってくれれば、きっと町おこしに結びつくはず。」宮丸冨士雄町長は、期待を込めて話した。

さまざまな分野の人々が集い、
それぞれの分野で活動していただく……
まさに『**人間まんだら**』である。

以上のような考え方から、町では約八万坪の用地買収を行なうとともに現地説明会を実施し入村者を募集したところ、約１ヶ月で予定の40区画すべてが契約済みとなった。

一方、公共事業としての名称を「大生自然休暇村整備事業」とし、道路・上水道等のインフラ整備を実施した。

この事業が発表されて以来、マスコミなどに大きく取り上げられ全国からの視察が相次ぎ、対応に追われる状況が続いた。また、入村希望者もすぐにでも建物の建設に取りかかるといった方もいるが、当初のコンセプトにそれないように着実に事業を進めていく方針を固めた。

平成３年５月、入村第１号として㈱現代人間科学研究所所長 飛岡健氏の館（大生道場）が完成し、その完成記念パーティーは地元住民を交え多いに盛り上がった。

平成の大不況“バブル経済の崩壊”は、建設ペースを完全に遅らせることとなったものの、平成５年３月までに10棟が完成し、灘の酒造会社の館では地元高校生を対象にした商業セミナーの開催や、京都の陶芸家の工房では地元の陶芸愛好家らとの交流など地域に溶け込んだ活動が始まっていた。

平成６年11月、落語家 桂文珍氏が野外劇場を備えた別荘「芸術工房“テラ”」を完成させた。

“テラ”は、約3,300平方メートルの敷地内に、鉄筋コンクリート３階建ての居住部のほか、約千人が集える野外劇場と控室を備えている。さてそこで何ができるのか。

「まず開きたいのが、『薪（たきぎ）落語会』。薪の明かりで、幻想的なムードを演出したい、そこでは若手がどんどん自分の力を試す。新しい創作落語の発表の場にもしたい。ほかにも、ファッションショーや音楽会、喜劇公演、青空の下でのガーデン・ウエディングのプロデュースなんかもやってみたいですね。」文珍師匠は続ける。「本業の落語家として自分自身がここで目指す舞台は、やはり現代落語よりも古典落語に力を注いでみたいですよね。自然に囲まれた、この舞台でウケるには、よほど力強く、笑いの根源に迫るようなものでないとあかんからね。芸の足腰を鍛えるところやと考えている。」

「落語的学問」を、提唱する文珍師匠の“笑い”を中心にした新しい文化のうねりが見えてくる。町当局ばかりでなく、地元住民も期待に胸を膨らませるのであった。

時を同じくして、能登半島の過疎脱却に願いを込めた能登空港整備計画を第７次空港整備計画への採択を求めるため、能登空港建設促進期成同盟会が結成され、いよいよ早期実現に向けて官民一体と



入村式（'91．5．5）右端飛岡健氏、２人目宮丸門前町長


伍芳コンサート

なった事業を展開して行くこととなった。

平成７年１月17日未明兵庫県南部を襲った阪神大震災は、甚大なる被害をまんだら村入村者にも与えた。町は地震発生後直ちに関係者とともに水や食料、日用品などの救援物資を携行して被災見舞を行なった。

その震災で姉を亡くした兵庫県川西市の中国古箏奏者、伍芳（ウーファン＝当時同志社大学在学）さんのチャリティーコンサートが「まんだら村」にある神戸市灘区の酒造会社の別荘「能登酒心館」で行なわれたのは、山桜が映える震災から３ヶ月後のことであった。

同年７月30日、午前10時、桂文珍師匠の工房周辺で地元の銕川明神太鼓を皮切りに、第１回「まんだら村まつり」が開幕した。屋台村では、門前そば、サザエご飯、じんのび焼そば、入村者の林さんのハヤシライスなどが売られ、諸岡里おこし会は「もちつき」をして入村者や来訪者へサービスをした。また、クイズをしながら歩いて別荘めぐりをするウォークラリーや「能登酒心館」ではミニコンサートも開かれ、入村者と地元住民のアイデアによる交流イベントは、終日台地を賑やかにさせた。

まんだら村の未来

平成８年３月、町は交流促進施設整備事業として村内に管理棟、公衆トイレ、スポーツ公園、駐車場を完成させた。

飛岡村長の大生道場の完成から５年が経過し15棟が完成している。平成９年には、５棟が建築の予定である。

「まんだら村」は、様々な分野の様々な人々の集合体である。しかし、門前という町を舞台にそれぞれの独自性・主体性を保ちながら“こころ”の豊かさを求めていくという共通の目的がある。地元住民との交流、文化・情報の発信基地としての役割を十分担えるよう、この「村」の運営にあたっては、町としてはもちろん住民の参加を得ながら計画を練っていきたい。このような思いから、今後の運営・事業計画は村民、地元管理会社、役場担当者で『まんだら村自治会』を組織し推進して行く計画である。

今春、「村」に都会の小学校３年生から６年生までの20人が新しい住民として仲間入りする。学習塾を経営する教育総研（本社・大阪市）が町と教育委員会の協力を得て計画した自然留学「能登の学校」で、都会の児童が親元を１年間離れ、「まんだら村」で過ごす企画である。児童らは、昨年７月に完成した同社の自然留学センター「錬成館」に、宿泊、約３キロ離れた松風台小学校に１年間通学するかたわら、身の回りのことは自分で行ない、地元の子供たちと交流し、祭りなど地域の行事に参加する。当然、恵まれた自然環境の中で田植えや、地曳網、天体観測などを体験学習する。

また、積極的にコンピューターを活用し、インターネットのホームページの作成や交信をするといった最先端のメディア学習が用意されている。

町としても、都会の子供たちを受け入れるのは大歓迎であり、全国的にも注目されているユニークな試みだけに失敗できない体面もある。都会の子供たちがたとえ１年でも、門前町で過ごした思い出、地域住民と育んだきずなは当人だけでなく、町としても将来、貴重な「財産」となるに違いない。その意味でも「村」は新たなステップを踏み出すことになる。

（たんぼ　としき／門前町役場観光経済課）



まんだら村まつり（バックは文珍邸）



教育総研（手前錬成館、奥夢想館）

能登半島-枠旗祭りの郷

村田　正明

中島町は能登半島のほぼ中央に位置し、東は七尾湾に臨み、三方は標高200～300m級のなだらかな山並みに囲まれ、県都金沢市から能登有料道路を75キロ、約80分北上します。

町を流れる熊木川を中心に古くから文化が栄え、万葉集にも当地の地名、風物が詠まれているほか、古墳時代の埋葬品からも大陸や朝鮮半島との交流により多くの人々が往来していたことがうかがえられます。

毎年９月20日に行なわれる「枠旗祭り」は太鼓、鉦、深紅なラシャ地の巨大な旗を担ぎ出し、乱舞する様は大変異国的な祭りで「久麻加夫都阿良加志比古神社」（通称　熊甲神社）の祭神は朝鮮半島の南方に栄えた伽羅国の王子名の渡来人と伝えられています。当祭りは昭和56年に国指定重要無形民族文化財に指定されました。

交流と文化が人を育むふるさと・なかじま

本町は昭和29年度の新町発足以来、農林漁業を基幹産業とし、その生産基盤整備のため各種土地改良事業、農林漁業の構造改善事業を積極的に導入を図ってきました。しかしながら基幹産業を取り巻く内外環境の変化は厳しいものがあり、人口の減少、高齢化の進展、脆弱な財政力から平成２年度に「過疎」に指定されました。

本町では、能登空港構想や東海自動車道と連結する能越自動車道及び能登有料道路４車線化の着工等の積極的な対応と「ふるさと創世」を契機として、本町の地域資源の特性を十分活かした21世紀型社会、“君の住む町・中島”―交流と文化が人を育むふるさと・中島―の整備計画を策定しました。

この整備計画の基本方針は、地域資源の積極的な活用と新たな文化の導入により、若者が愛着を持つ“ふるさと”、若者が他に誇れる“ふるさとづくり”に積極的に取り組むことであります。

国重文・枠旗祭りによる町づくり

能登は、お祭りの宝庫で、また能登は古来、渡来人がたどり着く“客人”の国であり、祭りも多種多様で、輪島の御神乗太鼓や奥能登のキリコ祭りはこれまでも知られてきた奇祭であります。

国の重文である本町の「枠旗祭り」もまた、能登はもちろん全国に類を見ない奇祭であり、「お熊甲の太鼓を聞けば、足がヒョイヒョイしてならぬ。」と囃されているとおり、近郷近在の村人の血が騒ぎ、祭りの勇壮さと厳しさは遠来の見物者を虜にする魅力をもっています。この祭りは、宗教的な意味よりも「人々の交流の場」と感じている町民が多く、祭りの中で世代を越えた“ふれあい”が生まれ、町民同志の結束を固め深めるために重要な役割を担っています。

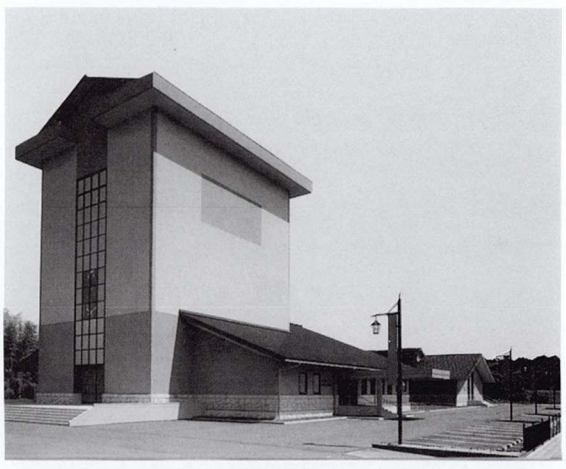
しかし、この祭りも近年の都市化、人口減少、高齢化の波に呑まれているのも事実で、祭り日の日曜日化や統廃合、伝承と改革などの意見が、毎年の春と秋に各公民館で開かれる「町づくり懇談会」



枠旗祭り



枠旗広場（祭り会館）



祭り会館



猿田彦の舞

の深刻な課題であります。

そんな中に、祭りのとらえ方としては、神事として行なわれる「祭り」と伝統的な民俗行事としての「まつり」を幅広くとらえ地域のアイデンティティーを再認識し、その共通意識の中から次世代へ継承する気運を醸成する歴史と文化がふれあう祭りの郷づくりに取り組むこととなりました。

この構想実現化のプログラム策定及び住民の意見集約としては、平成５年７月に町内外から郷土史編纂、文化財保護等の専門家による「基本計画策定委員会」をはじめ、町内会長、奉賛会、公民館や壮年団を中心とした町づくり団体からなる「ふるさと歴史の広場整備推進委員会」、展示物の提供を求める「集落別懇談会」等をそれぞれ組織し、構想、設計、運営等について建設着手前から今日まで会議を開催している経緯があります。どの会議においても枠旗祭りをテーマとした町づくりに対する行政の不安を吹き飛ばす白熱した討議が続けられました。

枠旗祭りの郷・祭り会館建設

「枠旗祭りの郷・祭り会館」は、仲代達矢主宰「無名塾合宿」が柱の能登演劇堂が新しい文化創造の拠点であるのに対し、伝統文化の保存・継承・観光の拠点施設として、平成６年～８年度の３ヶ年にわたって建設されました。現代の「お祭り資料館」、歴史の「お祭り伝承館」、現代と歴史の出会い「ホール」と位置付けし、各々の建物の性格を次のように肉付けされています。

お祭り資料館は、枠旗祭りの特徴である20mを超える深紅の大旗の実物展示のため、25m以上の空間を要するので、部分的にタワーの要素があります。また、猿田彦を先頭に社銘旗、金幣、太鼓、鉦、神輿、枠旗の順に総勢50人～100人（集落により異なる）におよぶ特徴ある祭り渡御行列の実物を再現、また、町内37末社から集められた猿田彦の37種のてんぐ面や実物の祭具の展示、ビデオ上映などを通じ、祭りを体験しながら学べます。祭具など町の文化財も収蔵しています。

エントランスホールでは、祭りの先導役である猿田彦の迫力ある３mの巨大面が出迎え、枠旗広場には、20mを超える５本の枠旗の下でマネキン80体による祭列がひしめき合い、コンピュータ操作による猿田彦の舞と枠旗の練りが見物客を引き込みます。

お祭り伝承館では、担い手の育成を通じ、枠旗祭りを未来に受け継いでいくために設けられたスペースです。また、小祭具・太鼓・鉦・旗等の修理と伝承。笛、太鼓、舞、組み継ぎ、網結び等の継承と練習の場として、また四季の祭り資料などの企画展示ができるコーナーも配してあります。

特に中島町の歴史、大陸、朝鮮半島との交流の史実など先人が培った伝統文化をパネルや実物でリアルに、研究室を活用することによって体感し次代に継承させる工夫を施してあります。収蔵庫は町内全域から希望があった祭りに伴う古文書、絵画、貴重祭具等の保存を図ることになっています。

外観のポイントは、お祭り資料館のタワー部を、祭りの郷全体のランドマークとなるようシンボル化したデザインにし、落雪等に備え庇を設けました。

外観は、中島町の景観と敷地条件を踏まえ、タワー部を除き、大部分を切妻屋根の日本瓦葺きとし、周景への調和を図りました。

外壁を白基調として、モザイクタイル張り、サッシは黒濃色を採用し建物全体を引き締め、全体として近代和風の「におい」のある建物としました。

住民総参加で観光拠点に

また、会館隣のふるさと物産館では、町内公民館などで作られた民芸品や漬物、地場企業などが取り組んだミニチュア枠旗、猿田彦をデザインしたコースターや鍋敷きなどオリジナル商品を販売しております。

町ではホリゾントが開き、借景も演出できる能登演劇堂、日本海側一の生産量を誇る牡蠣養殖、いずれもホンモノ、ふるさと指向によって知名度も高まってきており、これらが連携して新たな観光拠点として発展することを期待しています。

なお、敷地18,000㎡は昭和61～63年度に施行された土地改良事業によって捻出されたものです。

（むらた　まさあき／中島町企画課長）

毛綱毅曠と能登



――能登との関わりについてお聞かせください。

毛綱　ぼくは能登が大好きです。女房の実家があったり、ガラスをやっている由水先生とか…。金箔とか、友禅とか、焼き物とか、すごいテクノロジーを持っていますね。能登にないのはガラスだけなので、ぜひガラスを伝統工芸に付け加えてもらって…、そういういろんな縁があって来たんです。

能登は北海道の釧路と似て、寂れていて、でも、国土としては、重要なポイントなんです。能登というのは不思議な所ですよね。佐渡島と能登の神社が同じ日に花火を打ち上げたり、要するに古くから金鉱技術者などの技術集団が行ったり来たりしているわけです。潜在的にこの半島自体に「中島の大工」とか、船乗りとか、いろんな技術集団がいるわけです。昔からハイテクノロジーとかそういう「記憶」を持っている場所なんです。

面白いなと思ってしょっちゅう行っているんです。最近しばらく仕事が無かったんだけど、いまガラス美術館の増築の設計に入る段階です。

――門前ファミリー・インの増築も先生ですか。

毛綱　あれはうちじゃないです。

――最近の「まちおこし」についてのお考えをお聞かせください。

毛綱　最近の長崎なんかでもそうですが、要するに、いまはインターネットの時代ですから、情報というのは「面的」にやるよりは、あっちこっちで「点的」にやっていく。昔ですと、道路を拡げたり、駅前に高層ビルを建てたり、外科手術みたいになっていたんです。

そうじゃなくて、「経絡」というか「東洋のツボ」のような形の都市の直し方というのがありますね。それと、過疎化したりしている場所は、面的にやっていくわけにはいかないですね。

――先生は周辺に対してアピール度の高い建物をつくられていますが。

毛綱　「ツボ」みたいなものですから、やっぱりインパクトがないとね。質的に変換するようなものをつくっていかないと、刺激点になっていかないですからね。

インターネットのポイントというのは、情報を発進するポイントです。そういう効果的な、電子的なものを操作しながら、「ツボ」をつくって、全部ネットワークしていけば……、日本も中心がだいぶパワーがなくなっていますから、中心のパワーがなくなると、周辺が元気づかないわけです。

もう一つ、国家とか国土の問題があります。ぼくは「風水」をやっていますが、日本列島というのは、龍が泳いでいる形なんです。それも双頭の龍です。能登半島のところは手なんです。伊豆半島も手です。ぼくは両方でガラス美術館をやってます。伊豆には来年の春できるんだけと。龍の両手に玉を持たせるのです。そういうイメージでやっているんですけど。僻地ばかりで、東京の真ん中で仕事をさせてもらえないから。

――能登の３作品についてお聞かせください。

毛綱　いま言ったように、国土みたいなものを意識していたり、地球とか宇宙というのがぼくは好きなので、そういうものを意識してやっています。能登島のガラス美術館には何回も言ってますけど、風水のパターンを取り入れています。日本やアジアでは「四神相応」といって、都市を４っのブロックに分けて、それをストリーでつないで、全体を組み立てて、自然にインターフェイスさせていく。そういう手法でやっています。

能登ファミリー・インは、もともと曼陀羅村という、村自体を曼陀羅に見立てたものの入り口の端の一部を建築に置き換えてやってます。

それから文珍さんの芸術工房は、「TERRA(テラ)」というんですけど、「寺（テラ)」というのは聖徳太子がラテン語で「地球」という意味の「テラ」を日本に持ってきたと言われています。要するに、文珍さんが「テラー：TELLER（語り部)」で、門前町の「テラ町（寺町)」で、地球の「テラ」ということかな。

――宇宙とか天との対話についてお聞かせください。

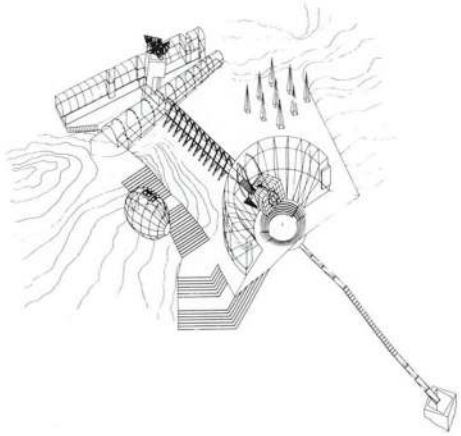
毛綱　近代的じゃないというか。近代的なものだと機能とか、人の流れとか、構造とかが要求されますね。それに対して、神話性みたいな、ストーリーが無いわけです。そういう意味で、神話的な物語をかぶせておいて、その意味と、機能や構造を重層させて建築をつくっていくということです。

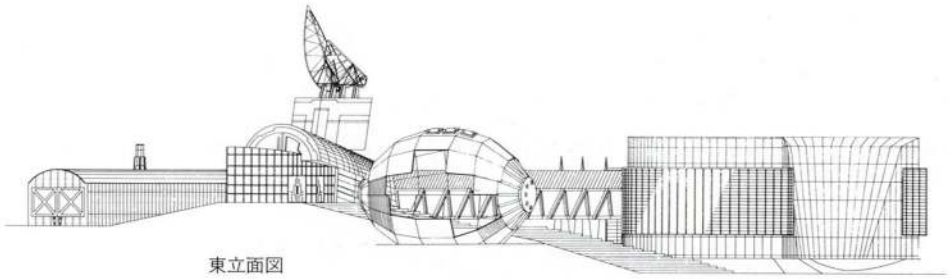
――ファミリー・インは、一般的なホテルとは違うようですが。

毛綱　もともと「離れ」の発想でやっていましたからね。部屋も一つ一つ曼陀羅や宗教的なものをモチーフにしています。

――門前町の「曼陀羅村の計画」自体は進んでいるのですか。

毛綱　あれは初めに絵を描いてやったんですが、企業が勝手に自分





東立面図

の好きなやつを建てていって、文珍さんのやつだけかな……。文珍さんは、よく能登に来てたんです。曼陀羅村に土地を持っていて、よくファミリー・インに泊まっていたみたいです。ファミリー・インをわりと気に入られて、どうかなと思って、それでおつき合いをしだしたんです。文珍さんは飛行機に乗ってるでしょう。メッサーシュミットといって主翼は小さくて、尾翼の大きい変わった飛行機です。建築の見方もすごいシビアというか、素人じゃないんです。なかなかいいセンスがあって、面白いですね。

TERRAの上部は空をね。飛行機の発着の雰囲気を意識して…。

――建物の素材に対するお考えをお聞かせください。

毛綱　理想的には、東洋思想にあります「五行」のバランスですね。身体もそうですけど、身体にお灸で火をつけたり、鉱物で針を刺したり、水で滝に打たれたり、病気とかの「癒しの仕方」がいろいろあるんです。単なるコンクリートの塊、木の塊がいいわけじゃなくて、石とか金属とか木とか、いろいろな材料がバランスよくとれるといいと思うんです。これは風水の考え方で、全体の地形がまるいと「山」に見立てたり、鋭い三角だと「火」、台形だと「木」です。ピラミット型だと地熱が上がったり、そういう作用があるみたいです。そういう「形」のもっている象徴性ってありますでしょう。これは東洋だけじゃなくて、ギリシアのプラトンなんかもそうですね。そういうものでバランスをみているんです。環境を読みとって、それを補っていくんです。そういう意味では材料はいろいろあったほうが理想だけど、あまりそういうことを言うと、道が遠くて、コンクリートでやるほうがシンプルで早いですから。理想的には、いろいろなものをバランスよく使ってやれば一番いいんです。

――土地を読みとるということについて、お聞かせください。

毛綱　一つは風水で地形を見て、龍が渦巻いている形とか、虎が寝そべっているところとか、認識のパターンがたくさんあるんです。ソウルだと鳥が羽ばたいて都市を抱いている形とか……。

――そこに行って、見ているとわかるものなんですか。

毛綱　見ていると、パッとわかるんです。

――空から見なくてもいいわけですか。

毛綱　昔だと、怪しげな奇術師が出てきて魂を飛ばして見たりしますよね。われわれの場合は図面や航空写真とかがありますし、見ればわかりますね。

――「風水」という言葉はいつごろからお使いになっていますか。

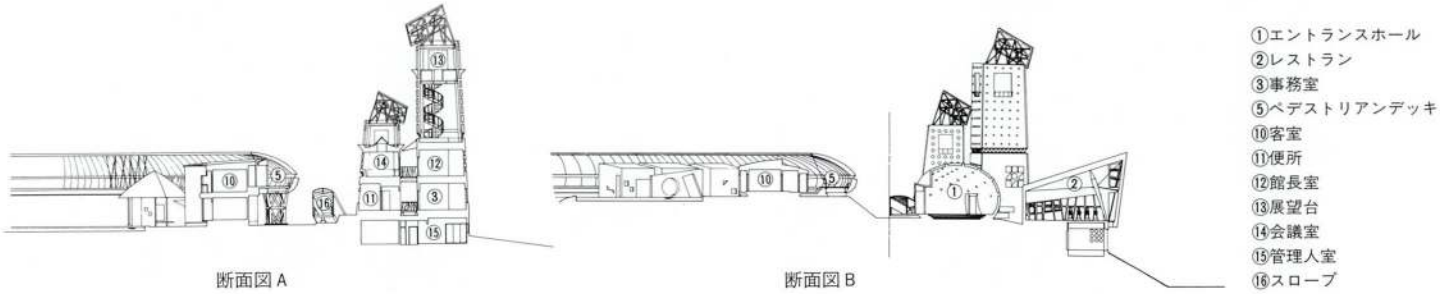
毛綱　もう20年くらい使っています。荒俣　宏さんと同じくらい使っています。荒俣さんがぼくをモデルにした小説があって、「ワタシ







能登島ガラス美術館



断面図A　　断面図B

NOイエ」というものですけど。チベットに行って、ダライ・ラマなんかと修行をし、日本に帰ってきて風水術を悪用、保険会社と結託して、荒稼ぎをする悪い建築家「田網奇鑛（タアミキコウ）」のモデルがぼくだと。

――能登は先生にとってどのような位置づけになりますか。

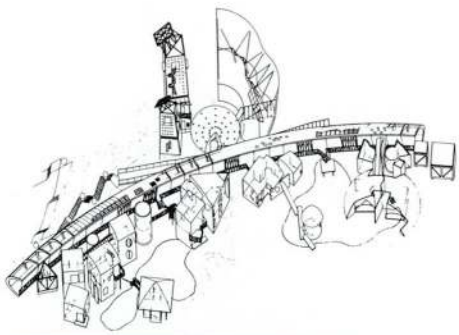
毛綱　それは思いこみの地ですね。龍の足という国土的にはツボですよね。日本は「地球の胎児」なんです。山とか川とか全部あって、北米と北海道、本州とユーラシア、能登はスカンジナビア半島なんです。日本のツボを押さえることで、世界のツボを押さえることになるんです。意識の世界ですけどね。

東北と四国と九州の長崎あたり。ツボを刺激するようにやりたいなと思っているんです。日本の国はヤバクなっているから。食料の自給率は30%って言ってるけど12%でしょう。フランスはいま190%でしょう。核を持って守ろうとしているんです

風水的には地震も人工地震だという説もあるしね。神戸の山の後から2億トンの土地を取って、海のほうに埋め立てた。だから、何億トンのアンバランスをつくっているわけですね。青函トンネルと奥尻島の地震も関係あるみたいですね。いろんな面でバランスが狂ってくるわけですね。

風水って、奈良時代からある都市計画の手法で、ある意味で都市をコントロールしたり、人間をコントロールするんです。日本の都市って、藤原京、平城京でもそうだけど、植民地都市ですよね。自



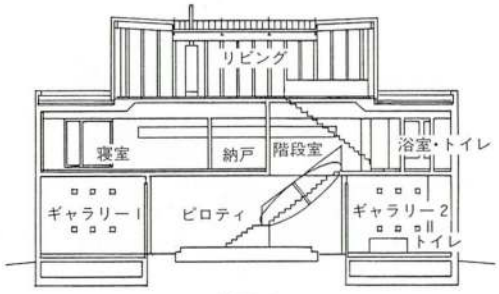








のと門前ファミリーイン／ビュー・サンセット



断面図

由都市というのは、戦国時代のように、地形に沿った自由な形の道路をもっています。アレキサンダー大王が来て、戦略都市として碁盤目の都市をつくっていくわけですね。コントロールしやすいですよね。日本人は平安時代ぐらいからパワーをコントロールされているでしょう。日本人のおじぎの仕方って、奴隷のおじきの仕方ですよね。聖徳太子なんかいちばん官位の低い役人の格好でしょう。みんな奴隷だったんです。歴史でも文化でも中国、韓国を通って、日本に来たわけでしょう。もともとはインドから来ています。カタカナなどフェニキア文字そっくりだし……。

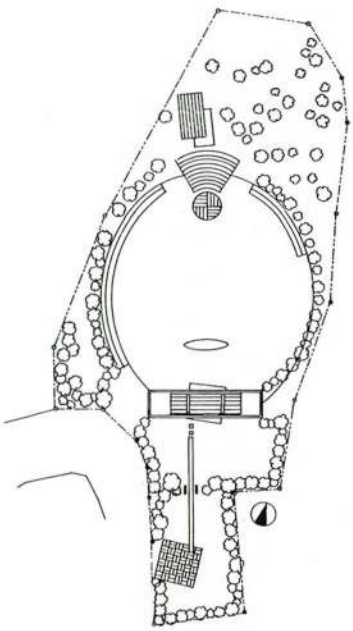
近代建築もそういうフリーメイソンというか一つの戦略の中にあるでしょう。フランスはフレンチテックというヌーベルとか、ああいう形のものが国家的なデザインなんです。

モダニズムというのは、碁盤の都市計画と同じです。そこからはみ出していくと、みっともないでしょう。大学もそういうふうに教育しているから、それで助かるんです。

――最後に、若い建築家や、建築を学ぶ学生に対して一言。

毛綱　別に何も言いませんけど、「もうちよっと勉強しとけ」と…。感覚的にはすごく優秀な奴はいますけど、大体は甘い。建築ってインスピレーションも大事だけど、詰めも大事でしょう。教養が無いんですよ。今のジャーナリズムがよくないんだ。いつまでも西洋的なものばかり。そういう意味で言ったんですけどね。

(1996. 11. 18. 毛綱毅曠建築事務所にて特別編集委員インタビュー)


配置図








桂　文珍芸術工房 TERRA

石川県水産総合センター

川崎　清

能都町は能登半島内浦の中程に位置する。町域の大半は丘陵地ながら、南側は富山湾に面して広い海岸線をなしている。海岸は多くの入江に恵まれて、水産業は古くからこの地方の基幹産業であったが、遠洋漁業に対する魚獲量の制限と後継者不足とがあいまって近年は衰退の一途をたどり、自然の風光を活かした観光資源への転換がはかられようとしている。

人口は年々高齢化傾向にあり、過疎へと移行しつつある。一方、伝統行事では、「曳山祭り」、「にわか祭り」、「いどり祭り」をはじめ、集落ごとの祭礼行事が多く、また盛んである。中でも中心地区、宇出津で行なわれる豪壮な夏祭り「あばれ祭り」は、多くの観光客を集め、当時の漁師町の隆盛を偲ばせる。

また、町域には縄文時代の遺跡が数多く点在するが、中でも特筆すべきものとして、国史跡に指定された縄文真脇遺跡がある。

このセンターは宇出津のベイサイドエリヤに位置し、水産研究センター、遠洋漁業を紹介する科学館、実験実習棟などを複合した施設である。このセンターのある能都町は、富山湾に面して漁港のあるところで、町中潮の香りのするようなところでもある。ここは、古代から、イルカ漁の行なわれたところで、近くの縄文真脇遺跡から出土もしている。また、近年までは、定置網漁を中心として漁獲高も豊富であった。一時は、遠洋漁業にも乗り出した頃は漁港として栄えたが、今はイカ釣り漁に頼る低調な時代になっている。



全景

そこで、県をはじめとする水産関係者は新しい水産センターをつくり、ハイテク技術により魚群を探査して、漁船に情報を提供することと、養殖の研究によって湾内を海洋牧場にすることを試み、新しい漁業の時代に対応する施設づくりを企画した。併せて、海に関心を寄せて将来の後継者となる子供たちのために、海と水産業を紹介し、学習できる海洋漁業科学館を併設した。いわば、退潮化していく水産業の復活をかけたセンターである。

敷地は宇出津港に隣接して新しく埋め立てられた平坦な地形で、海をへだてて遠く立山連峰を望めるおおらかな風景の展開するところである。ここに、研究センター、水産養殖の実験・実習場、科学館など、７～８棟の建物が配置されているが、建物群の形を波のキーワードでまとめ、科学館を船に見立てた。本館及び科学館はＲＣ造一部Ｓ造とし、実験実習場とアプローチブリッジを県産材を利用した木造とした。この宇出津の町は伝統漁業が盛んであったところで、古い漁具などを発掘すれば、眠っている資料も多いのではないかと思われ、当初はそういったものを集める博物館をイメージしていた。県の企画は新しい漁業の紹介が中心であるということで、科学館も近代船のイメージになった。そして科学館の前には廃船となっていたかつての漁業調査船“禄剛丸”を池に浮かべてアクセントとした。

潮、海、船などをテーマとして群構成としていたが、周囲の風景に合わせておおらかなデザインとし、シルエットを見せる建築とした。朝夕の太陽が位置を低め、ディテールを消す頃、潮騒の波の音の中に波と船のシルエットは勃然と浮かび上がってくるのをイメージしてデザインが完成した。

（かわさき　きよし／環境・建築研究所）

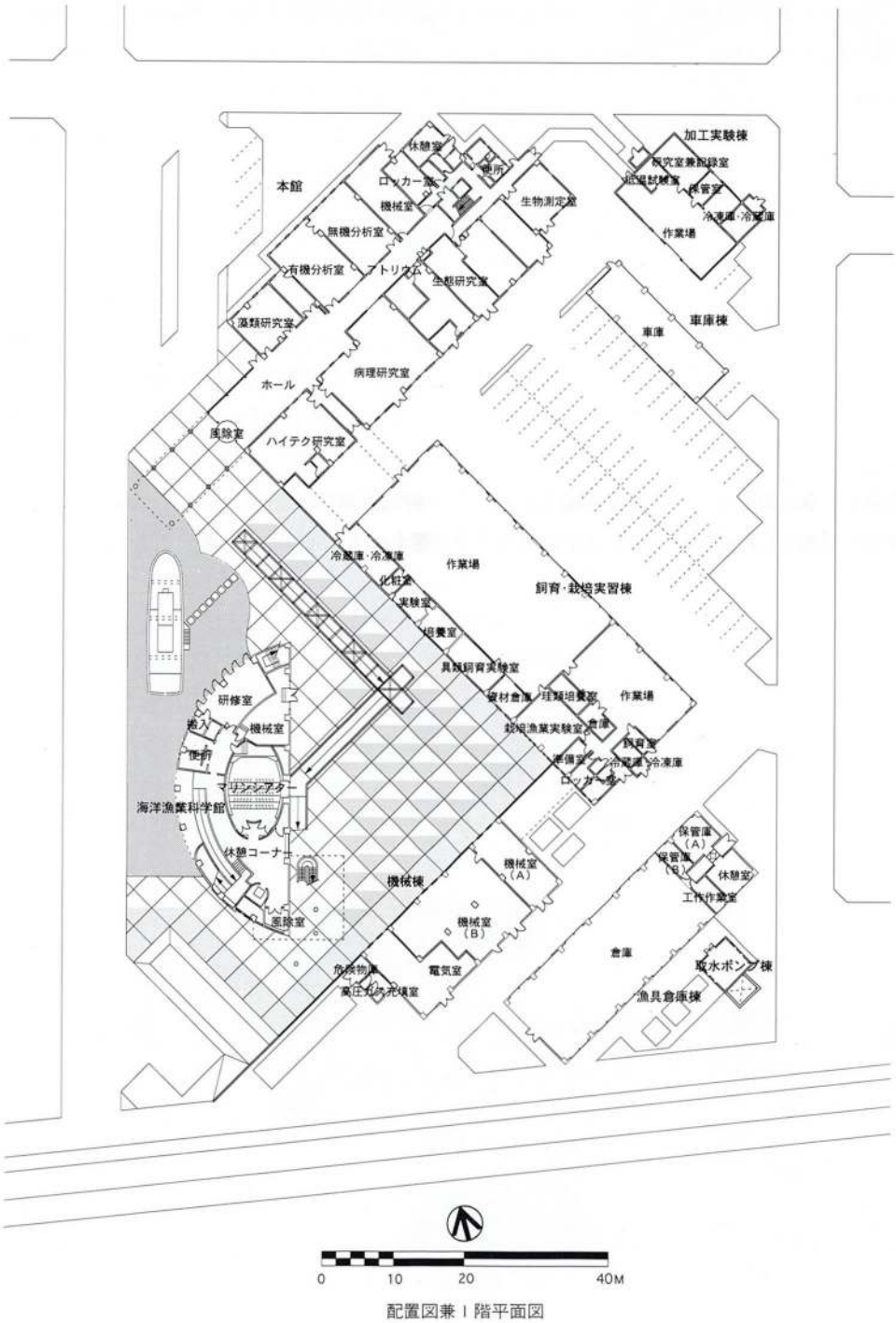
設計監理　川崎　清十環境・建築研究所
施　　工　宮地・近藤ＪＶ　宮下・鼎ＪＶ　須美矢建設
所 在 地　石川県鳳至郡能都町字宇出津
敷地面積　12,215㎡
建築面積　 4,421㎡
延床面積　 5,582㎡
構造規模　ＲＣ造２Ｆ（本館）SRC 造２Ｆ（科学館）
工　　期　1992年６月～1994年３月
撮　　影　共同航空エージェンシー



本館越しに海洋漁業科学館を見る



中庭より海洋漁業科学館を見る



配置図兼1階平面図



中庭より本館を見る



本館エントランスホール

金沢周辺での仕事

瀧　光夫

小さなアトリエで設計をしているので、手がけている仕事の数は多くはない。なかでなぜか石川県との縁が深い。発端は、県の「林業試験場・展示館」。金沢駅から車で40分、鶴来というところの白山につらなる獅子吼高原のふもとの約40haの試験場の内に「樹木公園」があり、ここで昭和天皇をお迎えして「植樹祭」の行事があり、それを機に、県の林業についての展示館をつくる企画で、実際の行幸は、'83年の春だったが準備には4年ほどかかった。(写真3)

ここには小さいながら背後の連山を借景にした日本庭園（中村一京都大学教授－当時－作庭）もあり、その「あずまや」も担当した。庭の海景は日本海－能登－を表現したい、あずまやは海辺の苫屋のように…と言われ、能登あたりの海岸をずい分動きまわったが、船小屋・苫屋はみんなトタン屋根で昔の面影を残すものは見当たらなかった。一つだけこわれて廃屋化している石置き屋根－柿葺き－を見つけたので、一応それを手がかりにして、本格的な板葺きの石置き屋根にした。波の花といわれる塩泡や、それを避けるための竹の間垣もあちこちで見かけたので、間垣風の塀も配した。雪が2mも4mも積もるので、木造だが鉄骨で見えない形で補強している。(写真1・2)

これが縁で、今度は金沢の北・河北潟という干拓地にある県の農業総合試験場－約50haの圃場・果樹園やRC造3階建ての立派な試験所などがある－の入口の一画は来訪用にあてる、遠足児童の雨天時の休憩所、婦人団体を中心にした農産物加工の伝承あるいは試作などのできる場所（施設的には料理教室に似る）や、展示・研修室などをもった、いわばビジターセンターの企画の基本設計づくりを依頼された。

上（知事？）から、「県内をくまなく知ってもらった上で立案してもらうように」との指示があった、とかで県の方に加賀から能登にかけての由緒ある場所や、伝統的な民家などを沢山案内していただいた。

旧家の蔵の中がすべて朱のうるし塗りだとか、大きな茅葺きの屋敷のほの暗い広間の囲炉裏の湯で、当主自らお茶を入れられる、一日中燃えているのですか、と聞くと「さあ、この火種は200年かそこらは絶えていない…」つまり、その地域では囲炉裏の火というものは夏冬とわず年中常についているものだとか、輪島の朝市－物々交換そのもの－（今はかなり観光化しているようだが）などをつぶさに体験した。

それらをふまえて構想案を提示し基本設計までまとめたが、予算の都合とかですぐには実施の運びとはならなかった。ところが'89年突然に「料理教室的部分－部屋と厨房だけ－」をとにかくつくりたい、との連絡が入った。皇太子殿下・同妃殿下（現天皇・皇后）が何かの行事の途時にお立ち寄りになる、とのことだったが、部屋と厨房だけ、というわけにはいかない。入り口もトイレもそれなりに必要である。全体計画の中での部分をつくる、という見通しは全く不明、とのことなので、マスタープランは断念して、限られた面積



写真1　石川県林業試験場・日本庭園



写真2　同左：あずまや・屋根は柿葺き



写真３　石川県林業試験場・展示館：崖地に建ち平面は３角形，左上がエントランスでこの面は１層，手前から右手は樹林と谷で吹抜のある２層．

をとにかく引き伸ばし、木造角材の校倉造に、方形の一部を切り取ってハイサイドライトにした屋根をのせて何とか建築らしい形にまとめた。「ふれあいの家」の名がついた。(写真４・５)

続いて展示用の温室を、これまた「一室だけ」との企画がおこり、同様にせいぜい引き伸ばして何とか格好をつけた。懸案だったバス２台分の人が休憩できる場所、外からも使えるトイレなどがやっと実現することになったが、時期を隔てた３施設は、結果的にばらばらのものとなりそうだったので、中央に水面（池）を配して互が何となく関連づけられるようにした。

アプローチは北からになるので外壁をハーフミラーガラス面にし、順光を受けた手前の景がこの面に映り、それがまた水面に倒立像となって映ることを考えた。(写真６)

手前の樹木や建物・空などの実像と、ガラス面・水面の虚像とが入り交じった視覚的にはかなり複雑な構造の景が現れる。それらが光や風の加減で刻々に変化する。日没とともに建物の内外観は反転していく。(写真７・８)

鹿苑寺金閣や平等院鳳凰堂のように水鏡の効果を生かした修景手法は多いが、ここでは建物自体に鏡面効果をもたせたので、ひと味違った複合的な景が生まれている。

「バス２台分」の人が休憩できる場所は、何となく伝統的な雰囲気のラウンジとインドアグリーンのあるアトリウム風のスペースとを組み合わせた。(写真10・11) 南側にも小水面を配し小さな石組みから水が流れるようにした。水の動きは逆光線で美しく、波紋が板貼りの天井に揺らめく。

２階には図書・談話コーナーを設け階段と屋外のスロープ（写真９）でつないで建築・造園・インテリアが、内外渾然一体となった立体回遊式の構成にしている。

この試験場に隣接した水田50haを利用した「農業公園」のマスタープランづくりを依頼され基本設計までまとめあげたが、この公園づくりに情熱をかけておられた中西陽一知事が志半ばで他界されたので、その後どうなったかは知らないままでいる。

'95年、昆虫館（仮称）なるもののプロポーザルの依頼があり、温



写真４　石川県農業総合試験場：ふれあいの家　*

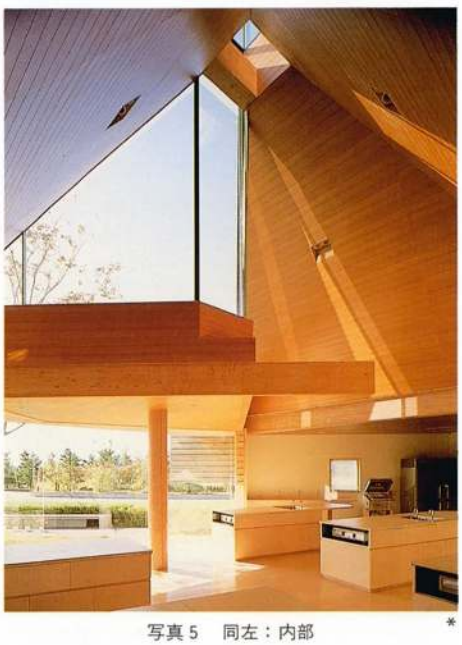


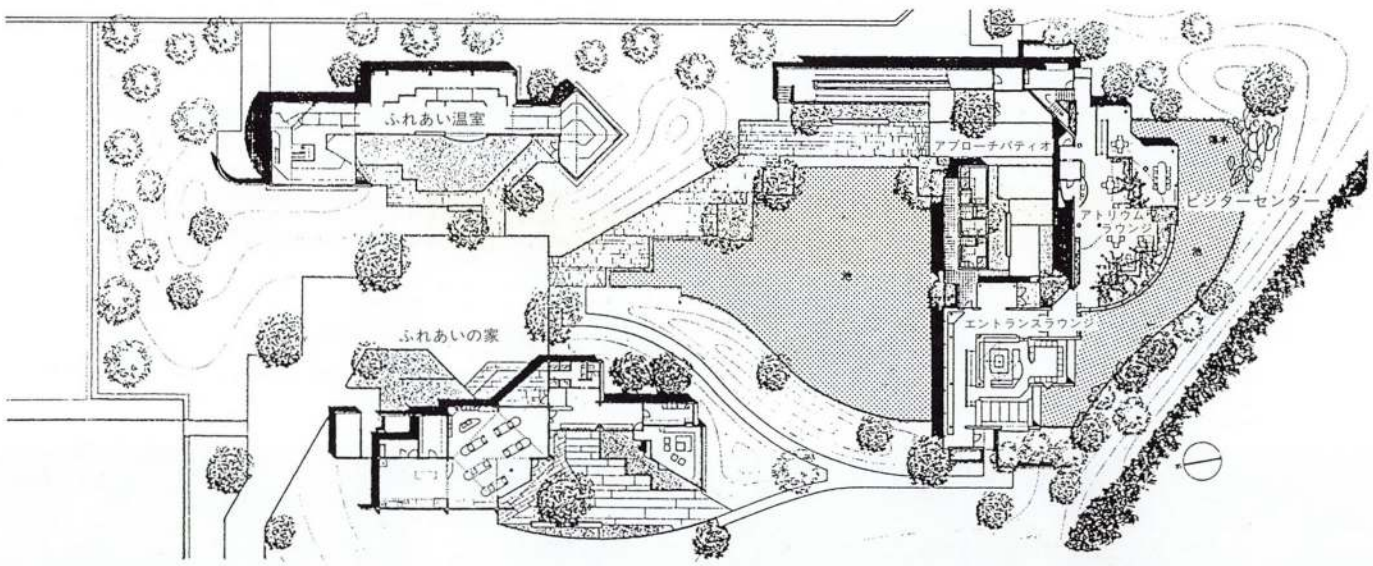
写真５　同左：内部　*



写真6　石川県農業総合試験場・ビジターセンター：アプローチ側（北側）外観 *

室然としない案を提示したら採用された。場所は先の鶴来町内で、湿雪2m（700kg／m²）に耐えるガラス屋根をつくらなければならない。2mもの雪の下で熱帯・亜熱帯の花が咲きみだれ蝶が舞い飛ぶ…というのはなんとなく釈然としないのだが、敷地もプログラムも決まってしまっていたので致し方ない。多くの方々の協力を得てなんとか設計をおさめ、目下工事中である（'98年春開館予定）。（写真12・13）雨仕舞い（雪仕舞い？）など難問をかかえたままなので、当分の間ＪＲ雷鳥号・サンダーバード号になんども乗らねばならない。（余談だが、手元の辞書では雷鳥は、snow grouse とあり、thunder-bird は、かみなり鳥というワシに似た巨大な鳥のようである。）

上記次第で金沢へはずい分通っているのだが、駅から県庁か現場への直行ばかりで、肝心の金沢文化にゆっくり接するゆとりがない



配置・平面図　1/800



写真7　同上：夕景・右との中間的情景 *



写真8　同上：夜景・内外観が反転する *



写真9　同左：西側からアプローチと屋外斜路を望む．水面の倒立像が更にガラス面に映り込む．

ままである。それでもいくつかの仕事を通して、土地柄・気風のようなものはなんとなくわかってきた気がする。それらは一つは伝統文化に対する自信というか誇り（プライド）のようなもの、いま一つは普請好きというか普請ごとへのこだわり－なにごとにつけても本物志向－のようなものである。

先の展示館では、林業がテーマだから県木・椙（アテ）をはじめ木材を多用したが、関係者の木質へのこだわりは相当なものだった。木に節（ふし）がある、杉板に赤白のムラがあることなどは、ごく自然なことと思うのだが、そういう材を使うのは「恥」であるとまで言われた。そのつもりで見ると、確かにちょっとした店舗でも随分こっているし、安手のビルや塀なども他の都市に比べると少ない。ほとんどがしっかりした造りになっている。月並みな表現だが、加賀百万石の歴史や伝統が、目に見えないところで息づいている、ということになろうか。

以上、石川県で手がけた仕事について、紙数の範囲で記した。図面やデータについて関心をもたれる方は下記を参照していただければ幸いである。

石川県林業試験場・展示館	「新建築」誌	8401
石川県農業総合試験場ビジターセンター	同上	9303

（たき　みつお／瀧光夫建築・都市設計事務所）

＊撮影 松村芳治



写真10　同上：エントランスラウンジ内観　＊



写真11　同上：アトリウムラウンジ内観　＊



写真12　石川県昆虫館（仮称）：模型写真



写真13　同左

金沢・能登を考える
―二つの建築をめぐって―

内井　昭蔵

金沢港大野からくり記念館（1996）

大野は金沢港に面し、日本海からの強い風と雪の舞う厳しい土地である。しかし、古くから北前船の基地でもあり、加賀百万石の文化に加え、日本全国からの富や情報が海運を通し集まり、独自の文化が築かれた場所でもある。

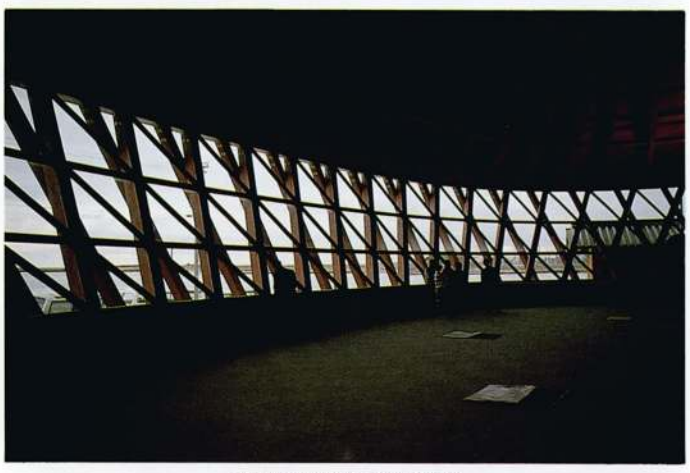
ここ大野は豪商銭屋五兵衛の活躍の場として有名だが、五兵衛のあつい被護のもとに大野弁吉という“からくり師”が育った街でもあった。大野弁吉は同時代の平賀源内と並び称される多芸の持ち主であり、当時、科学者として多くの業績を上げた。エレキテルから機械仕掛けのからくり人形、更に彫刻や細工物に到るまで、その器用さは当時の人を大いに驚かせたに違いない。大野の人々は郷土が生んだ“からくり師”、大野弁吉の業績を顕彰するために記念館（博物館）をつくりたいと考えた。この話が県で取り上げられ、設計を私共、事務所で行うこととなった。

私は大野のまちの中で河口の最先端部がこのからくり館設置の場所として最もふさわしいと考えた。敷地の候補は他にもあったのだが、あえてこの地を選んだのは、この土地独自の気候風土の厳しさに耐える技術を考えることが自然から離れてしまった近代建築に自然を回復させる契機となるのではないか、と考えたからであった。今や建築技術は不可能なことがないくらい進歩し、発展した。その代わり、人間のイメージや自然のイメージが建築から消えてしまった。どこでも同じ技術や形態の建築が増え、建築は一律なものになってしまった。これでよいのだろうか、といつも疑問を私は抱いていた。独自の気候風土、そして蓄積された歴史や人々の心の中の記憶など、それらを未来につなぐとすれば、建築はその土地の最も特徴ある場所に建てるのがよいと思う。私はこの厳しい条件の中で絶え得る架構は木造が最適であると考えた。この建築の完成を見ずして故人となられた発注者の中西前知事から木を使った博物館はどうか、という問い掛けがあった。また、地場の瓦を用いてほしいともいわれた。

私は最近、木に対する思いがことのほか強くなっていたので、知事の希望に応えたいと考えた。私は「木」と共に「土」「水」「火」といった自然材料、しかもそれ自体の中に循環といったシステムを内在している材料にこだわりを持っている。「木」や「土」は直接建築材料となるが、「水」や「火」は循環性はあっても直接建築材料にはならない。しかし「水」や「火」のもつ循環性やエネルギーの移動の制御は空間や形態を決める重要な要素である。つまり、空間の「インフラストラクチュアー」として考えることができるのではなかろうか。

「木」は成長し、年輪をつくる。木材としても全体の部分として空間を構成する。その流通性は古建築を見れば明らかである。また、樹形や林の形、森の形も有機的秩序のあり方を私達に示している。この自然の変化や循環性はこれからの建築のあるべき方向を示すものといえる。

「土」も同様である。左官など「土」の仕事は直接的であるが、



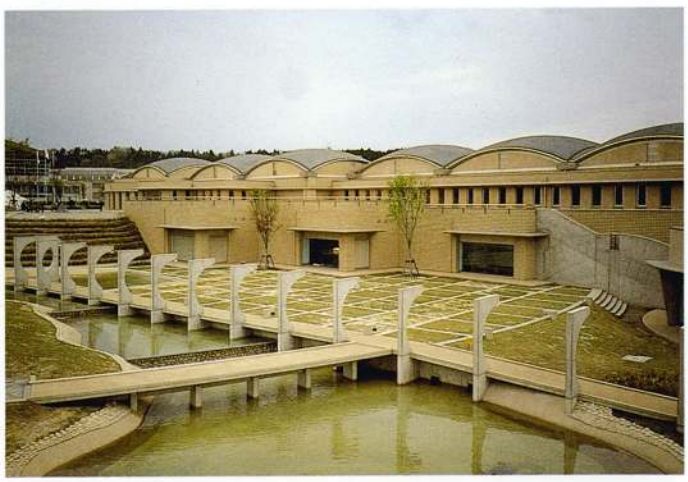
金沢港大野からくり記念館



同左

「土」はそれ自体、建築にとって示唆的な存在である。人間を含め生物は皆「土」から生まれ「土」の中で生き、「土」に戻る。この循環性を近代建築の中で活用することができないだろうか。山も平原も「土」のあり方であり、地層もまた歴史が重ねられた「土」なのである。私達はぬくもりのある母性的な「土」の造形、「土」のテクスチュアから離れることはできない。私は金沢能登にあって建築を考える時、この「木」「土」なしには発想が湧かなかった。からくり記念館は千石船をメタファーとしている。北前船として荒海を渡って活躍した千石船のような空間が「からくり」を表現するにはふさわしいと考えたからであった。船の構造は外力に対しある時は軸組とし、ある時は面として受け止める。伝統的軸組の木造とはまたひと味違うように思う。「水」の外圧を一体化された面が受け止めるという点を今回の構造に生かしたいと考えた。

平面形はスーパー楕円であるが、上部に向けてオーバーハングするような立体として計画している。斜材は集成材のヘビーティンバーをもって構成し、外側に転ぶ材に対し支えとなるように内側に倒した材も設け、構造的に安定させる工夫をした。室内は船室の如く外側に傾いた壁で構成し、広がりと流動感を与え、構造は全て表し、その力の配分を視覚的に明らかにすることを試みた。屋根は中央部に設けた金属リングより放射状に架け、全体が一つの完結した立体となるように考えてある。この構成は三次元ＣＡＤでなければ作図が困難であった。壁は透明ガラスで覆い、それに紙障子をつけて直射日光を避け、柔らかくコントロールされた外光が展示空間に充ちるように配慮した。この造形は港の先端にあって、あたかも船のように、又、夜は建物全体があんどんのような存在となる。



石川県七尾美術館

この「からくり記念館」そのものが一つの「からくり」的存在として大野町文化のモニュメントとなっている。更に現在、この近くに銭屋五兵衛の記念館も引き続き建設されている。やがてこの五兵衛記念館ともども文化のネットワークにより一体化され、金沢の歴史と文化のシンボルとなることを期待している。

石川県七尾美術館（1996）

七尾はその名の通り、七つの尾根によって構成されているまちである。石川県と七尾市では協力して七尾美術館をつくった。敷地もその尾根の一つであり、地形の持つ特性を建築に生かしたいと考えた。からくり記念館が「木」と「水」をモチーフにしているのに対し、七尾は「土」をこの建築の基本的なモチーフとしている。「土」の持つ感触や優しさ、を形態や空間で表現することを心掛け、土のもつ膨らみのある形態を全体と部分の中で取り上げた。

外観は土まんじゅうのようなドームの屋根が七つの尾根のように連なり、外壁は土の塗り壁を感じさせる仕上を選んだ。特に屋根に似せた形状のブロック状のタイルは、日乾煉瓦のような風合いを持たせるために工夫を凝らしている。使っている材料は「土」とは言い難いが、「土」の持つ感触や性質を生かすように考えることも「土」のデザインといってもよいのではないだろうか。この美術館は公園と一体となっていて、美術館と同一のコンセプトによってつくられている。ランドスケープ的手法により、建築と共に「土」を意識した造形となっている。

更にこの美術館の裏山には数軒の山寺があり、これらの山寺と美術館をつなぐルートの修景計画も進めている。

能登は周囲を海で固まれた半島であり、しかも最近までは交通の便も悪く、それだけに独自の文化を醸成してきた。この独自性をいかに守っていくかが、これからの課題であると思う。近代的な合理主義の共通性をもつデザインを求めることも大切であると思うが、現在、能登の自然と歴史の中で地についた独自性が一番求められているのではないかと思う。

（うちい　しょうぞう／建築家）

見聞記4題

遊びをせんとや生まれけむ、戯れせんとや生まれけん
―金沢港大野からくり記念館

尾崎　武寛
本町建築設計事務所

北陸自動車道金沢西インターを降りて、北へ15分ほどで漁師町であり、醤油の産地でもある金沢市大野町というところへ出る。町の東はずれ金沢港の入口にめざす建物はある。町から海岸に出て海岸道路の橋を越えるとその下に見えてきた。訪れた日は小雨であったが、それが周囲の珪そう土の塀にコントラストを付けている。

この町ゆかりの大野弁吉のからくりを解説、展示した「からくり記念館」である。

駐車場からの木道は途中橋になり、水の無い川を渡ってアプローチする、エントランスホールは天井を低く取り、正面中庭に視線を誘導する。中庭のむこうにリズミカルに柱が傾いた楕円の展示棟が見える、幾何学的な建物なのにじつに日本的にみえる。

中庭をめぐって右の本瓦葺きの回廊から展示室へと導かれ、展示室の入口はくどの中の様な形と土壁の様なテクスチャーで有機的な暖かさを示すと共に、幾何学的な展示室との対比を示している。展示室の中は楕円の歯車の中に入ったようである。まさにからくりの中に導かれたのである。みごとな構造美であるのだがなぜかそういうことより妙な暖かさが感じられる。緩やかにカーブした回廊をへて、エントランスホールに戻る。外へ出て外部を眺めると、廻りを珪そう土の低い塀に囲まれ冬の海風に身をかがめている様である。回廊に本瓦を使ったところに違和感を感じたが、全体のプランを見て気がついたことはエントランスホールと展示室の歯車を廻すためのベルト、チェーンなのだ。

「遊びをせんとや生まれけむ、戯れせんとや生まれけん」ここのパンフレットにある、からくりの紹介に引用した言葉であるが、この建物そのものを示す言葉でもある。

近頃、内井さんの作品は重厚な美術館、博物館が多いがこういうコンパクトな秀作にも一度足を向けられることをお勧めする。

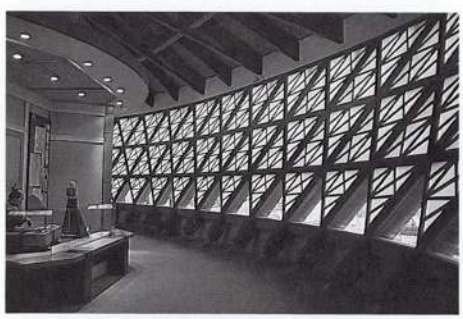
ビュー・サンセット
―のと門前ファミリーイン　ビュー・サンセット

小林　由佳
㈱新環設計

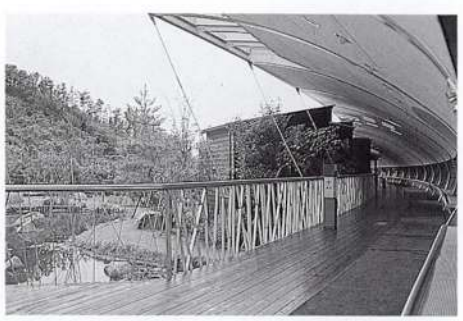
門前の海沿いの国道より、ほんの少しだけ坂を上がった所にあった。駐車場に車を止め振り向くと海が見える。こぢんまりした駐車場の左手にコテージ、正面には横に長く伸びる建物と塔、中央に小さなヘソの様な入口、中に入る。真赤な階段がドンとあるだけ。上る。上端を低目におさえた窓、ホールに続くレストランとカウンター。ここのフロントらしい。レストランにてお昼とする。横長の窓から海が見える。さすがビュー・サンセットと納得。沢山の客とキビキビ働く職員。活気がある。奥に目をやると別室があるらしい。食後に館内をみる。まずレストラン反対側の客室へ。〝フーン〟次の宴会場〝アレレ〟もう一度階段を上り廊下に出る。建物と建物にはさまれているが上も右も左も透明で明るい。もう一つの渡り廊下に出る。海を背に湾曲した壁に無双窓。日本海の風からか。ここに2階建のコテージがポンポン繋がる。階段を上り下りしながら1つ1つの部屋をみる。黒と朱の鏡面塗（ウルシ？）の下足入・鏡台。さび鉄板の床板、円窓、六角形の風呂、星や月形に貼り分けられた壁、これでもかという程形が迫って来る。ひとしきり楽しんだ後もう一度ペデストリアンデッキに出て展望塔に向かう。途中球体の建物を通る。音がよく響きちょっと異次元。出口が2つ。右に出る。前出のレストラン別室だった。不思議な動線だと思いつつ左に出る。事務室や便所の脇の階段を登る登る登る。クーリングタワーの上が展望室である。さすがに海が良く見える。又球体に戻る。壁の案内図にエントランスホールと表記されている？　ここはどこなんだ？

家に帰ってから毛綱作品の写真をみる。どれも形がドーンと主張している。ここまで形を造れるのかと思う程だ。（ちなみに私は普段マンションを造っている）今回実物をみて感じたのは、素材感があたたかである事、なつかしい気にさえなる。

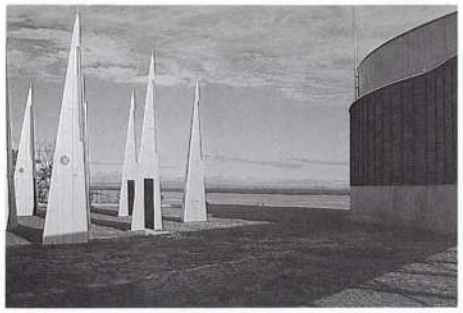
毛綱氏の理論は、自然・哲学・宗教・歴史のまざったいわば地球の遺伝子である。1991年この理論から生まれたビュー・サンセットは、前出の〝フーン〟〝アレレ〟・左手に見えるコテージ、これと右奥にある温泉を次々と目から増殖させ1996年しっかりと門前に生きづいている。ほんの少しだけ生まれた頃の球体に会いたかった気もする。―P.S. TERRAは日本海の荒風と対話するモアイ像だった。



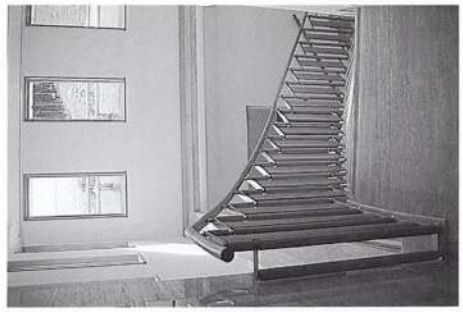
金沢港大野からくり記念館



のと門前ファミリーイン　ビュー・サンセット



能登島ガラス美術館



石川県七尾美術館

能登島ガラス美術館

田村　由紀
㈱神谷義夫建築設計事務所

前夜の大雨が嘘のように晴渡った朝、海を見ながら進む。大きいが見つけにくい〝ガラス美術館〟の看板を入り小高い丘へ登って行く。見上げる姿で建物が出てくる。想像より違和感のないものであった。インパクトの大きすぎるものを思っていたのであろうか。私にとって毛綱氏の作品を自分の目で見るのは初めてのことである。雑誌などの写真で見ている時は、形と言い、素材といい、良いとは思うのだが、回りとどうなのだろうかと思っていたのである。私のような〝まだまだの設計者〟は何かの間違いでバランスを崩してしまう虞はあるが〝著名な建築家〟の作品に決して無いということを忘れていた。

丘の上まで道があるので、車で登った。大失敗である。何もよいことはないと思う。〝楽しむこと〟を知らない人・建物の中に入ってもらえればよい人の考えることではないか。入口が目の前にあり、入り、車へすぐ返る。観光客で庭など周りを歩く人はどれくらいいるか。殆んどの人々に楽しんで当初の通りメインアプローチを歩いてもらうのが良い。ガラスロード・ガラス彫刻・海・建物とおもしろいものが多い。身体障害者の為と言われるかもしれないが、彼らにそれを味わうなと言っているようなものではないか。残念なことだ。〝残念〟はまだある。まわりに合っていないみやげもの屋・アプローチの真中にある品の無い看板・室外機・立入禁止看板。全て無造作に置いてある。全体の格を下げている。少し考えれば解決策はありそうである。又、何故屋外彫刻に触れてはいけないのか。触れて始めて感じることも多い。

楽しみながら美術館入口に着く。半屋外的で明るいエントランスと〝ふわっ〟と包まれ穏やかな感覚になる展示室とのコントラストが良い。洞窟風の中に図面の描かれた丸い窓からの柔らかな光が差し込むという感じである。入った瞬間立止まり、〝ほっ〟としていた。がその後すぐ顔の高さのみが暑くて我に帰ってしまった。空気の流れを考えるか、床暖房を考えるかしてほしいと思う。別棟に行くブリッジで再び外を感じる。ガラスのスリとトーメーから受ける感覚の違い、使い方による視覚的な差を再認識した。作品展示箱だが、大きすぎるように思う。箱はいるのだろうか。無しにして〝ボタン〟でも押すと１周して裏まで見えるようにしてほしい。作品は１方向からだけのものではないはずである。ラウンジと名の付く場所がありながら落ち着ける場所にならないのが少々残念である。流れのまま外に出されてしまう。

外に出て一番に目に入ってきたものはオブジェの間から見える民家。いきなり現実にもどされた。考えてほしい。目を逸らせば青い海と天高くそびえ立つオブジェと良い眺めである。光る海を背に水で光るガラスロードへ向い、全体が終わる。

私にとって外観から想像できなかった内部の暖さと海の壮大さが心に残るものであった。

ヒューマンで健康な建築の散策
―石川県七尾美術館

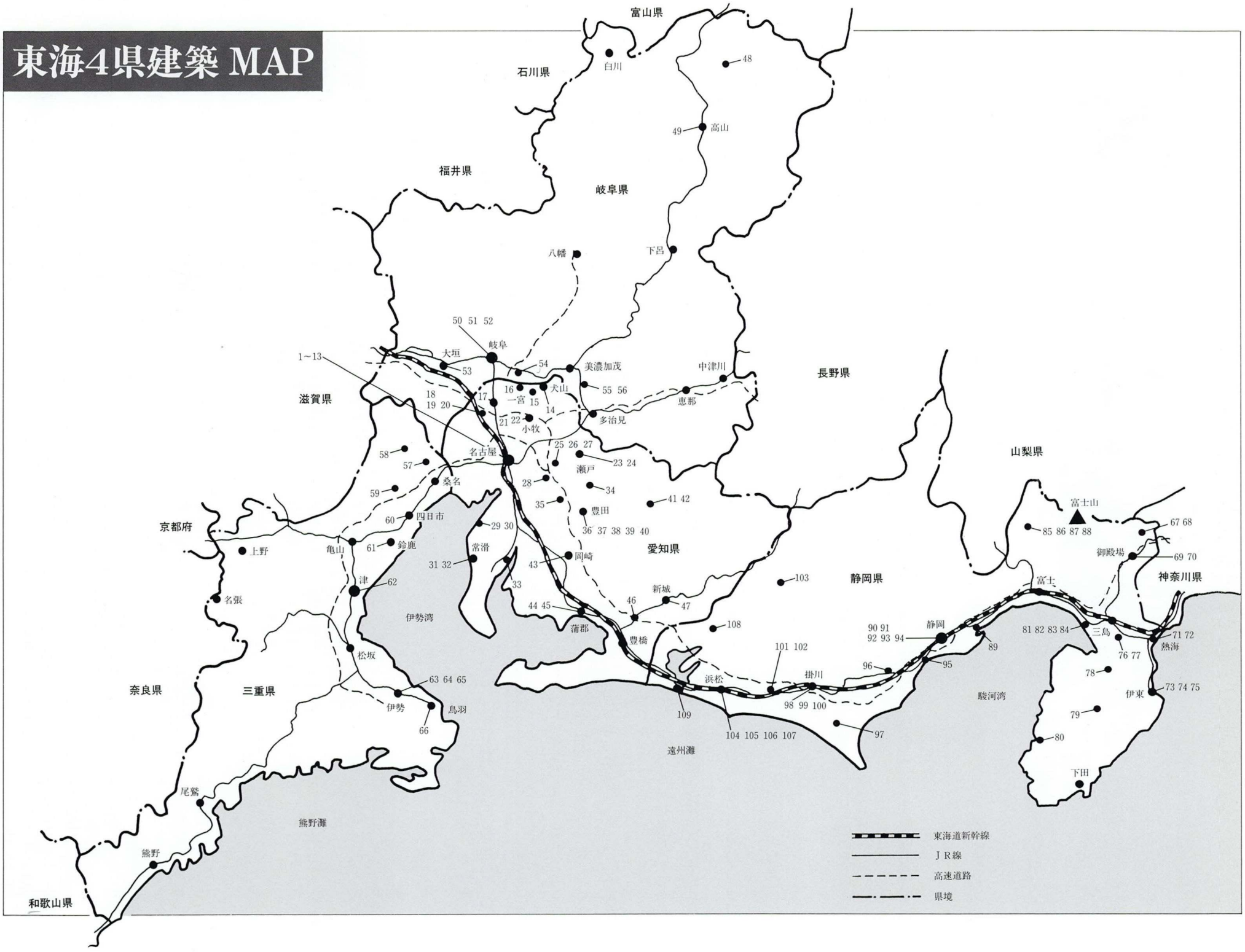
福田　泰造
福田泰造建築事務所

「ヒューマンで健康な建築」の復活を求め続ける建築家内井昭蔵氏の作品を能登半島の中間に位置する七尾市にて散策する機会を得た。七尾市はこの地域の文化・経済の中核を担う都市として発展をしてきた。

内井昭蔵氏の手による石川県七尾美術館は城山に連なる山並みに囲まれた丘の上に正統派の建築らしく威風堂々とした容姿が敷地内に盛られたシンボル「須弥山」により見え隠れする。これは、「須弥山」という高い山を七重に山が取り巻きその遙か下界に人が住むという古代インドの世界観をこの七尾の地に復興させようとした理論派建築家の企みかもしれない。七尾市の地名の由来は７つの尾根を持つ山並みに囲まれた地と言われている。美術館へのアクセスは敷地南東の駐車場側と北側の橋廊を巡って庭園を回遊する方法があるが、小高い丘の上という立地を考慮すると多くの車利用者が見込まれる駐車場側からが妥当であろう。入口のカルロ・スカルパを彷彿させるコンクリート打ち放しのゲートをくぐり右手の小高い芝生広場をまだかまだかと迂回すると、この美術館の重要なコンセプトである敷地周辺の山並みをイメージしたプレキャストコンクリートの曲面屋根と同じ曲面を持った特殊外装タイルの外壁が見えてくる。内井作品に共通の外壁の表現は時には大きな弧を描き、そしてこの美術館のように時にはテクスチャーを重視した独特の陰影のある建築である。

エントランスホールの空間や階段のディテールに見られる暖かみのあるヒューマンな意匠は内井氏がこれまで影響を受けたA・レーモンド、突き詰めればF・ライトの部位をほのめかす。エントランスホールの左手の地域住民の為のアートホールがこの街の芸術文化の振興を促し、エントランス右手の展示館と銘打った常設展示室や企画展示室へのギャラリー兼用のコリドールが外部展示テラスからの暖かい光を導いている。外部は回遊式の庭園と池に浮いた橋廊が建物と一体となり正に「ヒューマンで健康な建築」を提供している。内井氏の建築はオーソドックスであるが故に健康だ。師匠菊竹氏のダイナミックな構造やレーモンドの優しさが彼の肉体と精神を形成しているとすれば、今後望む事は歪んだ現代社会に「ヒューマンで健康な建築」の復活をもっと大声で提唱すべき点だ。あたかも、パラーディオが空想都市の実現の為、都市プランを必死に示したように。七尾を訪ねて正統派建築家の作品の中でヒューマニズムの復活をルネサンスにアリージョンさせるのは私だけだろうか。

東海4県建築 MAP


富山県
石川県
白川
48
高山
49
福井県
岐阜県
八幡
下呂
50 51 52
岐阜
大垣
1～13
53
54
美濃加茂
中津川
長野県
滋賀県
16
犬山
55 56
18
19 20
17
一宮
15
14
恵那
21 22
小牧
多治見
25 26 27
58
57
名古屋
瀬戸
23 24
山梨県
桑名
28
34
41 42
59
35
豊田
富士山
京都府
60
四日市
36 37 38 39 40
85 86 87 88
67 68
29 30
61
鈴鹿
亀山
上野
常滑
愛知県
御殿場
69 70
31 32
43
岡崎
103
静岡県
神奈川県
新城
富士
62
津
33
46
47
名張
44 45
伊勢湾
蒲郡
108
90 91
92 93 94
静岡
81 82 83 84
三島
71 72
豊橋
101 102
89
熱海
松坂
76 77
96
95
浜松
掛川
78
63 64 65
奈良県
三重県
駿河湾
伊東
73 74 75
98 99 100
伊勢
鳥羽
79
109
66
104 105 106 107
97
遠州灘
80
下田
尾鷲
熊野灘
熊野
和歌山県
東海道新幹線
ＪＲ線
高速道路
県境

東海4県 建築MAP作品リスト(1971—1985)

主要な建築関連雑誌に掲載された作品より独自に選出した。表中のNo.は地図中番号、掲載雑誌は発行年を示す西暦の下2桁と月の4桁の数値と略号で表示した。
略号「新」は新建築、「日」は日経アーキテクチュア、「文」は建築文化、「社」は建築と社会、「近」は近代建築、「建」は建築、「画」は建築画報を表す。
但し日経アーキテクチュアは発行月の表示までにとどめた。

愛知県

No.	建物名	設計者	用途	竣工	所在地	掲載雑誌
1	朝日麦酒名古屋工場	伊藤建築設計事務所・双星社他	工場	1973/4	名古屋市	7307文　7307近
2	ウェディング・パーク平安閣	山崎泰孝環境計画研究所	結婚式場	1973/8	名古屋市	7312新　7312文
3	タキヒョー丸の内ビル	竹中工務店	事務所	1973/8	名古屋市	7311近　7311建
4	大栄ビルヂング	山下司建築研究室	事務所	1973/9	名古屋市	7311新　7311文　7312近　7311建
5	日本生命笹島ビル	竹中工務店	事務所・ショールーム	1974/6	名古屋市	7505新　7410近
6	善光寺別院願王寺	AZ Institute 山崎泰孝	仏教寺院	1975/10	名古屋市	7601新　7602文
7	PMTビル	伊東豊雄+URBOT	事務所・ショールーム	1978/3	名古屋市	7806新　7806文
8	名古屋サンプラザ	石本建築事務所	集会施設・会館	1979/3	名古屋市	7907日　7908文
9	名古屋市芸術創造センター	安藤洋・田賀幸子　GRUPPE・KEN	劇場	1983/9	名古屋市	8401日
10	名古屋市中小企業振興会館	名古屋市建築局・黒川紀章建築・都市設計事務所	展示場・会館	1983/9	名古屋市	8404新
11	日泰寺聖堂	青島設計室	仏教寺院・納骨堂	1984/4	名古屋市	8407新　8407日
12	名古屋港ポートビル	村瀬知市+プロジェクトチーム	展望塔	1984/6	名古屋市	8510新
13	名古屋郵便集中局	郵政大臣官房建築部設計課	郵便局	1984/6	名古屋市	8410日　8702画　8508近
14	人間博物館リトルワールド	日建設計名古屋	博物館	1982/9	犬山市	8305新　8304日
15	江南地域文化広場	黒川建築事務所・大崎設計他	文化会館	1984/8	江南市	8505日
16	木曽川町庁舎・中央公民館	司設計事務所	庁舎・公民館	1976/6	葉栗郡	7612日　8106近
17	一宮市民会館	伊藤建築設計事務所	市民会館	1974/3	一宮市	7409新　7409文
18	稲沢市庁舎	設計事務所ゲンプラン	庁舎	1970/11	稲沢市	7103新　7103文　7103近
19	稲沢市荻須記念美術館	竹中工務店	美術館	1983/6	稲沢市	8310新　8310日　8310文
20	稲沢市保健センター	徳岡昌克建築設計事務所	保健センター	1985/3	稲沢市	8603新　8603文
21	小牧市立図書館	象設計集団	図書館	1978/1	小牧市	7805新　7805日　7805文
22	小牧市民病院	石本建築事務所・建築計画連合	病院	1985/2	小牧市	8707画　8604病
23	瀬戸市歴史民俗資料館	戸尾任宏建築研究所アーキヴィジョン	資料館	1978/4	瀬戸市	7903文
24	瀬戸市文化センター	瀬戸市文化センター設計室・安井建築設計事務所名古屋	文化会館・コンサートホール・美術館	1982/8	瀬戸市	8311新
25	愛知県立芸術大学	吉村順三・奥村昭雄	大学	1971	愛知郡	7106新　7106近
26	愛知青少年公園中央管理棟	安井建築設計事務所・愛知県建築部	公園・事務所	1971/2	愛知郡	7102新
27	愛知医科大学	鹿島建設建築設計本部	大学・病院	1974/5	愛知郡	7505新　7501病
28	A.H.I.アジア保健研修所・愛知国際病院	名古屋大学柳沢研究室・建築計画連合	病院・研修所	1982/5	日進市	8304近　8110病
29	知多市民俗資料館	戸尾任宏建築研究所アーキヴィジョン	資料館	1978/9	知多市	7903日　7903文
30	知多市民病院	石本建築事務所・建築計画連合	病院	1984/2	知多市	8405日　8407病
31	常滑市民俗資料館	戸尾任宏建築研究所アーキヴィジョン	資料館	1980/12	常滑市	8106新
32	常滑市民文化会館中央公民館	坂倉建築研究所	文化会館・公民館	1983/8	常滑市	8404新　8401日　9002画
33	東浦町立緒川小学校	田中・西野設計事務所	小学校	1978/10	知多郡	7909新　9212日
34	愛知県緑化センター	瀧光夫	植物園・事務所	1975	西加茂郡	7608新
35	番匠邸・増築	安藤忠雄建築研究所	住宅	1981/2	西加茂郡	8106新
36	トヨタ鞍ヶ池記念館	槇総合計画事務所	記念館・ゲストハウス	1974/8	豊田市	7501新　7501文
37	豊田市文化芸術センター	青島設計室	文化会館	1975/9	豊田市	7512新
38	松欅堂	原広司　アトリエ・ファイ	美術館	1979/6	豊田市	7912新　7912文
39	豊田地域文化広場	愛知県建築部・豊田市建設部・RIA建築綜合研究所	コミュニティーセンター	1981/2	豊田市	8109新
40	豊田市市民文化会館	青島設計室	文化会館	1981/6	豊田市	8109新
41	三州足助屋敷	浦辺建築事務所	資料館	1980/3	東加茂郡	8009新
42	足助文化センター	浦辺建築事務所・松村慶三	公民館・飲食店	1985/3	東加茂郡	8511新
43	岡崎市明大寺公園展望台	瀧光夫	展望台	1980/6	岡崎市	8010新
44	蒲郡市戦没者慰霊平和塔	黒川紀章建築・都市設計事務所	記念塔	1977/11	蒲郡市	7804新　7804文
45	蒲郡市郷土資料館	戸尾任宏建築研究所アーキヴィジョン	資料館	1979/10	蒲郡市	8004文　8004近
46	豊川地域文化広場	愛知県建築部・青島設計室	資料館・コミュニティーセンター	1983/8	豊川市	8404新
47	幻庵	ダム・ダン空間工作所	別荘	1975/2	新城市	7506新　8610文

岐阜県

No.	建物名	設計者	用途	竣工	所在地	掲載雑誌
48	神岡町役場	磯崎新アトリエ	庁舎	1978/5	吉城郡	7809新　7810日　7809文
49	高山市民文化会館	久米建築事務所	文化会館	1982/8	高山市	8212日　8308文
50	岐阜県口腔保健衛生センター	大名建築設計事務所	会館	1982/2	岐阜市	8211近
51	岐阜県美術館	岐阜県総務部・日建設計名古屋	美術館	1982/10	岐阜市	8301新　8301文
52	岐阜市文化センター	岐阜市建築部・坂倉建築研究所	文化会館	1984/9	岐阜市	8502新　8502日
53	大垣市総合体育館	岬建築事務所	体育館	1980/1	大垣市	8007日　8005近
54	各務原市少年自然の家	司設計事務所	青少年教育施設	1979/5	各務原市	8106近
55	西福寺	高松伸・匠設計・渡辺勝美	仏教寺院	1982/3	可児市	8211新　8212文
56	富士カントリー可児倶楽部美濃コースクラブハウス	岡設計	スポーツクラブハウス	1983/7	可児市	8712画　8704社

三重県

No.	建物名	設計者	用途	竣工	所在地	掲載雑誌
57	スリーレークスカントリークラブクラブハウス	前川国男建築設計事務所	スポーツクラブハウス	1977/11	員弁郡	7803新　7803文
58	北勢町役場	日本大学生産工学部宗研究室他	庁舎	1978/12	員弁郡	7904新　7903日
59	自閉症者施設あさけ学園	林章・丸山奈巳	心身障害者福祉施設	1981/5	三重郡	8107日　8205文
60	四日市市文化会館・四日市市公民館	石本建築事務所	文化化館・公民館	1983/8	四日市市	8210日　8308文
61	鈴鹿市勤労青少年ホーム	象設計集団	青少年教育施設	1973/3	鈴鹿市	7612文
62	三重県立美術館	富家建築事務所	美術館	1982/3	津市	8301新
63	伊勢神宮内宮神楽殿	大江宏建築事務所	神社	1978/11	伊勢市	7901文　7902近
64	三重厚生年金休暇センター	岡設計	休暇センター	1979/3	伊勢市	7909新　7905日
65	赤福本店　五十鈴茶屋	竹中工務店	独立店舗	1985/10	伊勢市	8606新
66	鳥羽グランドホテル　増築	土岐新建築総合計画事務所	ホテル	1985/12	鳥羽市	8512新　8511日

静岡県

No.	建物名	設計者	用途	竣工	所在地	掲載雑誌
67	三菱重工業富士研修所	三菱地所	研修所	1971/6	駿東郡	7203新　7210建
68	富士の納骨堂	保坂陽一郎建築研究所	納骨堂	1982/3	駿東郡	8206新　8206近
69	自動車労連教育センター	大高建築設計事務所	研修所	1972/7	御殿場市	7209新　7209文
70	日本電信電話公社御殿場経営研修所	日本電信電話公社建築局	研修所	1979/7	御殿場市	8003新　8003日
71	全日空伊豆山研修所	現代建築研究所	研修所	1981/3	熱海市	8107新　8107日　8811画
72	MOA 美術館	竹中工務店	美術館・伝統芸能場	1981/12	熱海市	8202日　8203文
73	計機健康保険組合伊豆保養所すこやか	宍道建築設計事務所	保養所	1973/7	伊東市	7312新　7312建
74	池田20世紀美術館	井上武吉研究所	美術館	1975/4	伊東市	7507新
75	ペガサスハウス	芦原建築設計研究所	研修所	1975/12	伊東市	7606新　7606文
76	パサディナハイツ	菊竹清訓建築設計事務所	共同住宅	1974/10	田方郡	7503新　7503文　7503近　7503建
77	ランド・シップ一Ⅰ＜イリス＞	石山修武・鈴木隆行（ダム・ダン空間工作所）	住宅	1983/9	田方郡	8312新　8312文　8610文
78	サイクル・スポーツセンター―レストスタンド	日建設計東京事務所	屋外競技場	1971/8	田方郡	7111新　7111文
79	昭和の森会館	レーモンド設計事務所・田辺博司	資料館	1980/7	田方郡	8204新
80	松崎町立伊豆の長八美術館	石山修武ダム・ダン空間工作所	美術館	1984/6	加茂郡	8409新　8409文
81	加藤学園初等学校	横総合計画事務所	小学校	1972/10	沼津市	7301新　9212日　7210文　7301文
82	伊豆三津シーパラダイス	清家清	水族館	1977/5	沼津市	7710新
83	愛鷹裾野の住宅	篠原一男	住宅	1977/10	沼津市	7807新　7807文　8810文
84	沼津市民文化センター	増沢建築設計事務所	市民会館	1982/2	沼津市	8210新　8210日　8210文　8308文
85	北山本門寺大客殿	内井昭蔵建築設計事務所	仏教寺院	1971/10	富士宮市	7112新　7207文　7207建
86	野中保育園	環境デザイン　仙田満　アトリエ MAN & SPACE	保育園	1972/8	富士宮市	7211新　7211文
87	大石寺正本堂	連合設計社　横山公男	仏教寺院	1972/10	富士宮市	7301新　7303文　7303近　7303建
88	富士美術館	連合設計社　横山公男	美術館	1973/4	富士宮市	7403文　7403建
89	清水の家	伊丹潤	住宅	1971/1	清水市	7104新　7108近
90	静岡市農協センター	大高建築設計事務所	農協	1970/12	静岡市	7102新　7102文　7102近　7102建
91	石水館(静岡市立芹沢銈介美術館)	白井晟一研究所	美術館	1981/3	静岡市	8110新　8109日　8110文　8110近
92	静岡産業館	日建設計東京	展示場・駐車場	1982/1	静岡市	8209日
93	静岡県立総合病院	内藤建築事務所	病院	1982/10	静岡市	8310病　9210近
94	静岡市安西小学校	田中謙次建築研究所・針谷建築事務所	小学校	1984/8	静岡市	8509新　8508日
95	焼津の文房具屋	長谷川逸子	独立店舗	1978/3	焼津市	7806新　7806文
96	藤枝市立図書館	前川建築設計事務所	図書館	1979/3	藤枝市	7907新　7907日　7907文　7907近
97	ねむの木こども美術館	山浦国昭建築事務所	美術館	1979/3	小笠郡	7908日
98	資生堂アート・ハウス	計画設計工房	展示場・美術館	1978/11	掛川市	7909新　7910日　7909文
99	掛川市生涯学習センター	ISS 総合計画事務所	コミュニティーセンター	1983/3	掛川市	8307新
100	掛川市立総合病院	公共施設研究所	病院	1984/2	掛川市	8405日　8404病　8407近
101	ポーラ袋井工場	日建設計東京・竹中工務店	工場	1976/12	袋井市	7705新　7702日　8410近
102	日本老化制御研究所	岩村和夫　都市デザイン	研究所	1985/10	袋井市	8601新　8601文
103	春野町川上緑地休養施設	入之内瑛　都市梱包工房	バンガロー	1982/11	周智郡	8303日
104	浜松市博物館	戸尾任宏建築研究所アーキヴィジョン	博物館	1978/8	浜松市	7910日　7906文
105	浜松の家	池原研究室	住宅	1980/10	浜松市	8202新　8202文
106	浜松市庁舎	久米建築事務所	庁舎	1980/12	浜松市	8111日　8201文
107	浜松まつり会館	戸尾任宏建築研究所アーキヴィジョン	資料館	1985/3	浜松市	8512新
108	浜松市かわな野外活動センター	坂倉建築研究所大阪事務所	青少年教育施設	1985/6	引佐郡	8510日
109	坂口産婦人科医院	野村東太	診療所	1980/4	浜名郡	8205文　9001病

REPORT

青年海外協力隊員活動体験記

エティオピア政府都市開発省での17ヵ月

大山昌宏
NKホーム㈱商品開発部

参加することに意義がある

協力隊参加は、オリンピックではないが、参加することに意義があると思う。動機や配属されてからの悩み、また帰国後のことなどは些細なことであり、とにかく参加してみることだ。なぜなら日本ではまず体験できないこと、そして多彩な思い出が出来るからだ。

さて1994年、私が配属されたのはエティオピア政府の都市開発省マスタープラン開発調査部開発課であった。このマスタープラン開発調査部は1993年6月に市街地計画開発部の中の住宅開発課と市街地開発課の一部を合併して設置された一番新しい部である。

都市開発省全体としては、協力隊員は私を含め5名配属されていた。ここの部長ソロモン氏は、10数年前に協力隊員の推薦する技術研修で10ヵ月間日本の設計事務所に働いていた経験のある技術者で、時折、日本語で声をかけてくれる親日的な上司であった。

配属先の状況

機械が絶対的に不足しているため、初めて職場を訪問したときの印象はとても殺風景で、これが首都アディス市の都市計画を行う中枢部であるのか？と疑うほどガランとした雰囲気であった。一人に1台の木製製図台が整然と配置されているだけで、ドラフター、トレース台、設計のための資料などは見当たらなかった。しかし、いったんプロジェクトの作業が開始されるとスタッフ各自、T定規と三角定規を巧みに使い、ドイツスタイルのインキングで図面を仕上げていく。ただし、どの図面にも面積に関する表示がされていない。私は、部長を通して今後面積の表示を行うように指示を出してもらったが、皆聞こえない素振りであった。その必要性が重要視されていないため、面倒な計算を行いたくないのが本音のようである。

技術者としての私の役割

業務は組織的に進行し、スタッフの技術レベルも高く、デザインのセンスも良い。彼らの設計した図面を見れば、それなりの経験が伺える。また、全員英語を堪能に話すので、“開発途上国の職場”という私の偏見？を大きく覆した。

私は、日本の建築屋であるという肩書きだけでは、彼らには通用しないと着任早々に感じた。そこで、上司と協議の結果、各スタッフと2ヵ月間ずつマンツーマンで共同作業を行っていくことにした。しかしながら日本で、住宅の設計だけにかかわってきた私は、全く経験のない都市計画の設計を、戸惑いながらスタッフの仕事振りを見ているだけであった。

そのうちに、彼らのプロジェクト計画上に配置されている建物は、その用途は決められているが、プラン、規模、意匠までは考慮にいれていないことが分かった。ここに“日本の建築屋”としての役割があると考え、プラン、意匠などの設計を行った。それにより協力隊員としての面目を保つことが出来たと思う。

様々な設計を手掛けて

配属先が抱えているプロジェクト計画は、5地区の都市計画、6地区の総合文化地域計画、28地区の市民地域計画と広範囲に渡っていた。日本で住宅の設計しか経験のない私にとっては、すべてゼロからのスタートであった。幸い、私のカウンターパート（同僚）が英国版設計資料集成のような本のコピーを所持していたので、それを参考書にして設計を進めていった。ここにイエメンには日本のような厳しい建築基準法がないため、法律上の神経を使わずに済む。しかし、すべてが公共建築物の設計のため、避難通路、階段規模などは日本の基準に合わせて注意しながら設計を行った。



JICパーティーにて。左端が私。右から2番目が日本語を少し話せる部長

共同作業を行った総合文化地域計画の建築物はすべて1／1000配置されている。形状は○△□を組み合わせようなもので、平面計画などは全く考慮されていないことが分かる。

「これが学校、これがホテル、それでマサ（私のこと）はどれを設計してくれるの？」という調子であった。各建築物のデザインイメージ、階高、面積、規模などの情報は一切ない、そこに表示された1／1000の配置図から私なりに建物のイメージを描き、規模を決めて、スケッチを共同作業のスタッフに見せながら設計を進めた。

特に、複合文化施設ビルの設計では、いろいろな用途を含まなければならない施設である上、スタッフが複雑な形状を配置図に表示していたため一番苦労した。スタッフ自身、複合文化施設ビルと表示はしたものの、施設の内容までは考えていないため、私の提案で、映画館、劇場、図書館、会議室、貸しホール、レストランの複合施設とした。そのほか、立体駐車場の設計基準の作成及び、その具体的な設計も行った。日本ではこれらの仕事にかかわることのない私にとって、とても良い勉強となった。

エティオピアでの生活

朝起きれば確かに日本とは空気のにおいが違う。街に出れば歩いている人々の肌の色が違う。言葉も違う。しかし、だだそれだけのことで、私がここで生きていく上では重大な問題ではない。人間どんな所でも生きていける、何とかなるという自信を持てたことが、協力隊参加を通して得ることの出来た最高の財産ではないだろうか。そして、どこの国の人々でも人間としての本質は変わることなく、最後は個人と個人の人柄が、付き合いや仕事を進める上で大きく影響すると感じた。

阪神大震災のニュースは、エティオピアでもすぐに伝わり、翌日スタッフが私の家族の安否を気遣ってくれた。電話で安全を確認したと言うと、一緒に喜んでくれてとても元気づけられた。

最後に、妻子ある私にとって現職参加*は少々困難な目標であったが、家族と職場の深い理解により任期を無事に終了できたことに心より感謝している。（おおやま　まさひろ）

＊現職参加制度とは

活動期間が2年間の青年海外協力隊には、退職することなく休職の形で勤務先に在籍したまま協力隊に参加する現職参加制度がある。詳しい問い合わせは、TEL03-5352-7261へ。

［建築家おすすめデートスポット］

Walking

仕組まれた意匠
―京都「石塀小路」を尋ねて―



登場者　川﨑　清氏（建築家）
と　き　1996年12月2日
ところ　石塀小路、高台寺
最寄駅　京阪電車"四条"駅

マンションと「石塀小路」

「祇園さん」という愛称で親しまれている八坂神社。大晦日の夜から元旦の朝にかけて、京都の人はここで「をけら火」をもらって帰り、その火で元日の朝の食事を用意し、一年の無病息災を祈念するという。年越しまであとわずかに迫った歳末の祇園を訪ねた。

八坂神社の境内には、「をけら火」の張り紙が出ており、巫女姿の神社の方も、師走にふさわしく、足早に通りすぎていく。八坂神社の境内から、南へと続く道に出る。ここは下河原通りという名が示すように、かつては「菊渓川」の河原であったところである。今では川の面影は感じられず、低層の木造住宅やお店が建ち並んでいる。いかにも場違いなマンションが一棟申し訳なさそうに建っている。実はこのマンションが、この辺の景観論争の発端になったのだと、後で川﨑先生に教えていただいた。

このマンションの建設が計画された当時、この辺りには美観地区の規制はあったが、それでは15mの高さまで、マンションなら4～5階のものが建てられ、建設を阻止するすべがなかったらしい。反対派の住民の方々の努力もむなしく、マンションは建設されてしまうのだが、このマンションが周辺の住民やお店の方々の一致団結をもたらし、現在は石塀小路（いしべこうじ）保存会という住民組織が結成され、伝統的建築物群保存地区に指定されて、これ以上景観をこわす心配はなくなったとのことである。

「石塀小路」散策

下河原通りをしばらくいくと、左手に「石塀小路」という名を冠した小さな鳥居があった。ここが川﨑先生おすすめのデートスポットである。今日は午前中にこの辺りの散策を楽しんだ後、午後から川﨑先生にいろいろとお話を伺う予定になっている。「石塀小路」は京都には珍しい石畳の道沿いに石塀の住宅が続いている所である。道幅は2メートル足らずで、車が入ってくる気遣いはない。一目で奥まで見通せるのではなく、突き当たりかなと思うと右に道が続いていたり、二手に分かれているのかなと思うと、一方はすぐに行き止まりになったり、試行錯誤しながら、道をたどっていくという感じである。

左右の表札は祇園らしく御茶屋さんのものであったり、女名前のものであったり。表札や小さな看板から、飲み屋さんや、喫茶店などが、何軒かあることもわかる。祇園祭りでは、かならず先頭をつとめる「長刀鉾」がまちがいなくここ祇園から出されていることも、表札に添えてあった長刀鉾の文字から読み取れて楽しい。小路を抜けたところに、土産物屋さんがあった。清水焼きの焼き物や、和紙を使った細工物、和の感性を生かした髪留めなどがあり、思わず見入ってしまった。

私たちが石塀小路を抜けた時、ちょうど目の前にタクシーが止まって、中から2人連れのご婦人が降りてきた。その方たちに、タクシーの運転手さんが、「道はくねくねしていますが、ここから入っていってください。出たところにタクシーをまわしておきます。」と伝えていた。京都の観光タクシーの方にも知られた観光スポットとなっていることをこの時始めて知った。と同時に、タクシーが入っていけない道幅の狭さが、この石畳と石塀のいい雰囲気をこわさずにすむ一因となっているのではとも思った。

石塀小路をぬけた所の道は、右手に行くと二年坂、産寧坂と続き、清水通りへ出る。もちろん、清水坂を経て、清水寺へ歩いて行くこともできるのだが、今日は石塀小路の昔の姿をしのぶために、左へ折れてすぐのところにある高台寺への参道を上る。

「高台寺」と「石塀小路」

鷲峰山「高台寺」は臨済宗建仁寺派の寺で、正式名称は高台聖寿禅寺といい、豊臣秀吉没後、その菩提を弔うために秀吉夫人の北政所（ねね、出家して高台院湖月尼と号す）が1605年に開創した寺だそうである。昨年はNHKの大河ドラマ「秀吉」が放映されたこともあって、ここを訪れる観光客は多い。ねね自身の亡骸もこの高台寺の霊屋（おたまや・重要文化財）に葬られているそうだ。庭園は小堀遠州作と伝えられており、もちろん国の史跡・名勝に指定されている。3年前に改修が終わったという霊屋だけでも、金の茶室に代表される桃山文化の豪華絢爛さを今に伝えるものとして、一見の

石塀小路







右は池田委員、左は同行の佐々木氏

高台寺





価値はある。霊屋を竜の頭に見立て、開山堂（重要文化財）を竜の腹に見立て、両者を竜の背中に見立てた臥龍廊でつなぐ建物配置に、当時の浄土観が伺える。更に奥には、伏見城の遺構と言われる傘亭（かさてい）と時雨亭（しぐれてい）の二つの茶室がある。

石塀小路は、江戸時代には高台寺の塔頭（たっちゅう）が並ぶ境内であった。明治の初頭までは、禅寺にふさわしく、この辺り一帯がうっそうと茂る竹藪であったのである。江戸時代からこの地で両替屋を商っていた商人が、両替屋に見切りをつけて、この辺りの土地を買い取った。買い取った当初は、しばらくの間、北側一帯を畑にして使っていたらしい。現在の石塀小路は、大正時代になってから、京都初の新興住宅地として、開発されたものなのである。北陸から出てきた大工と、施主が相談して、とにかく高級なものをつくろうということで、最高級の借家として建てられ、大学の教授や絵描きなど、アカデミックな香りがする人々が入居したらしい。あの石畳と石塀は、宅地の地盤をそのままにして、切り土で道を作り、そこに石を敷いて、石垣を組んだ非常に丁寧な仕事でできあがったものだったのである。まさしく「仕組まれた意匠」（川崎清，小林正美，大森正夫著　1991年）である。

石塀小路が現在のようなお茶屋さんや芸妓さんの住処となったのは、昭和の戦前に、住宅がたくさん立ち並ぶようになってから。京都の古い旦那衆の別宅が多くあり、祇園の芸妓が芸者をやめて、この別宅に移り住み、一時はこのあたり全部が席貸し（お茶屋）になっていたそうだ。しかし、もともと高台寺は、秀吉夫人のねねが舞芸の達者な「山猫」と呼ばれる見識の高い女たちを招いていたところで、下河原には「山猫」たちの住まいがあったらしい。そういう意味では、芸妓たちに縁の深い土地柄なのである。

川崎先生と「石塀小路」

川崎先生が、この石塀小路を今回デートスポットとして紹介して下さったのは、この地が先生の研究の出発点といってもいいような思い出の地だからということである。当時京都大学の増田研究室にいらした川崎先生は、助教授になったのを期に、京都のフィールドワークを開始された。最初にその対象となったのが、この石塀小路であったとのこと。その研究の成果が、先述の「仕組まれた意匠」という本に著されている。石塀小路は、この本のなかでも「プロローグ・石塀小路物語」として、最初に登場する。川崎先生が設計された近代的な建物と、この石塀小路の古びたたたずまいとが、はじめはしっくりこなかったのであるが、いろいろとお話をお伺いしているうちに、おぼろげながら共通点がわかったような気がしてきた。美しい町並みの一部として、観光スポットとなっているこの石塀小路は、実は大正時代の建造物群であり、そのデザインは意図され、仕組まれたものである。私たちが、普段、伝統を感じさせる趣があって素晴らしいと思っている寺社仏閣も、建てられた当時は時代の先端をいく、モダンなデザインのものであったはずである。それが、時を経るにつれ、周囲の景観になじみ、景観の一部となり、いつしか歴史を感じさせてくれるものとなっていく。ご自分の設計された建物が、時を経るにつれ、周囲の景観にとけこみ、景観の一部となって、その場所に根づいていってほしいという気持ちが、川崎先生を、京都の町のフィールドワークに駆り立てたのではないだろうか。柔らかい口調と穏やかな語り口の奥に、川崎先生の建築に携わるものとしての深い情熱をみたような気がした。

別れ際に、先生にお尋ねしてみた。先生は石塀小路をデートスポットに使われたことがおありですかと。先生は笑って、「石塀小路の研究を始めた頃は、僕はもう結婚していたので、そんなチャンスはなかったよ。」とお答えになった。その後、「東京からお客様が来ると、いつも石塀小路にあるバーに連れていくことにしているんだ。僕が紹介してやった連中が、デートスポットに利用しているようだよ。」と付け加えて下さった。石塀小路を見出し、その保存に力を貸し、その存在を周囲にアピールしていく。そのすべてのプロセスに川崎清という建築家が関わっているといっても過言ではないだろう。

企画／会員企画小委員会　文：池田聡実

京都市屋外広告物等に関する条例

上田博司
京都市都市計画局都市景観部都市景観課屋外広告物係長

屋外広告物条例全面改正の背景

京都市の市街地における近年の急激な中高層ビルの増加等により、特色のある都市景観が悪化することに対し、平成３年11月及び４年４月に「京都市土地利用及び景観対策についてのまちづくり審議会」から「伝統と創造の調和したまちづくり推進のための土地利用及び景観対策についての答申」が二次にわたって出された。

この答申を受けて、制定あるいは変更した市街地景観整備条例、自然風景保全条例、風致地区条例、用途地域、高度地区等の各種制度を平成８年５月に施行した。景観整備制度の締めくくりとして屋外広告物条例を全面的に改正し、平成８年８月に「京都市屋外広告物等に関する条例」として公布し、平成９年３月に施行する。

改正のおもな内容

京都市では、昭和31年の条例制定以来、屋外広告物の規制を景観制度の一分野であると位置付けてきたが、今回、目的を「美観風致の維持及び公衆に対する危害防止」から「美観風致の維持及び向上並びに公衆に対する危害の防止」に改め、より積極的に景観に資する広告物をつくり出すことに取り組むこととした。

1　特定屋内広告物の規制の対象化（届出制）

屋外広告物法に基づく条例では規制ができなかった特定屋内広告物（建築物の窓ガラス等の内側に直接描かれているものや貼られているものまたは、窓に近接した位置に固定して、常時または一定の期間継続して屋外の公衆に表示されるもの）を地方自治法第14条第２項に基づき規制の対象とし、表示率等の制限をすることとした。条例により規制対象とするのは、全国でも初めてのことである。

2　景観の特性に応じた地域地区の指定

市内全域を５種類の屋外広告物規制区域に基本的に分け、そのうち幹線道路に接する区域については３種類の沿道型地区に指定し、それぞれの地域地区の景観の特性に応じて、高さ、面積、形態及び意匠を段階的に制限することとした。

3　町並みのスカイラインを守るための規制強化等

屋外広告物が建築物の上に突出して表示されることにより、町並みのスカイラインが害されることを防ぐために、屋外広告物の高さを31メートル以下で、かつ、高度地区の高さ以下とすることとした。

しかしながら、建築物の壁面に切文字で取り付けられるビルの名称などについては、景観に与える影響も少ないことから、一定の基準を満たすものについて、高さの制限を超えて表示できることとしている。

4　屋外広告物の総量規制の見直し

建築物の壁面や屋上に取り付けられる建築物に定着する屋外広告物の立面面積に対する割合の見直しや土地に独立して設置される屋外広告物の総量の見直しを行った。

5　屋外広告物等特別規制地区制度の創設

伝統的建造物群保存地区その他のまとまりのある景観を示している地域については、その景観の特性に応じて、屋外広告物や特定屋外広告物の位置、規模、形態及び意匠について、特別の規制を行うことができる制度を創設し、伝統的建造物群保存地区や木屋町地区を指定する。

6　京都市にふさわしい屋外広告物を守り育てるための見直し

京都市に数多く見られる歴史的な意匠を有し、かつ、位置、規模及び形態が都市の景観の維持及び向上に寄与している看板を保全するために、これを歴史的意匠屋外広告物として指定し、その面積を許可の対象面積に算入しないこと等の一定の特例を設けることとした。

また、屋外広告物の許可対象面積を見直し、一つの区画内での屋外広告物の合計面積が２平方メートルを超える場合は、あらかじめ市長の許可を得なければならないこととした。これは、小さなものであっても京都市にふさわしい屋外広告物を表示していただきたいためのものである。

7　手続きの簡素化のための見直し

屋外広告物の素材の堅牢化や施工技術の進歩にも対応し、許可申請手続きの簡素化を図るため、許可の有効期間を３年以内に延長した。（軽易なものは除く。）

景観の向上のための屋外広告物

京都市内では、優れた屋外広告物は商売繁盛の決め手である。

①「建築物、町並み及び借景となる山並みなどをいろいろな角度から見つめてください。それから、素材、意匠、大きさを考えてください。その地域の特性にあったものが必ずあるはずです。」

②「派手な色彩、大きな規模、奇抜なデザインで目立てばいいだけでは屋外広告物としては、失格です。優れた建築物を台無しにしていませんか、建築物や町並みとの調和も十分に考えてください。」

③「そのためには、建築物等の設計の段階から屋外広告物のことを十分に考えておいてください。」

④「屋外広告物の集まりは、地域らしさ、その場所らしさをつくります。そして、まちを歩く楽しみも生まれます。」

⑤「みち往く人と建築物を結びつける、歩く人の視点や感覚に配慮した分かりやすく親しみのもてる大きさ、意匠が基本です。情報の伝達により、まちの分かりやすさにつながる目印、案内板として役立っていますか。人に優しい、屋外広告物でありたいものです。」

⑥「町並みに調和した人に優しい屋外広告物、このような看板を表示するお店の気持ちがお客さんにも伝わります。行ってみたくなるお店、覗いてみたくなるお店になってください。」

今後の課題

都市の景観を考えると、屋外広告物は少ないほうがいいだろう。しかしながら、人が生活する町として、情報の伝達は必要である。

京都は山紫水明といわれる風趣に富んだ独特の美しい景観をもつまちとして、人々から愛されてきた。このような「魅力ある京都のまち」の景観を守り育てるためには、京都にかかわるすべての方の力が必要である。

都市の景観を構成する重要な要素の一つである屋外広告物等について、皆さんと一緒に知恵を絞って考えていきたい。

（うえだ　ひろし）

Y型ブレースダンパーを用いた制震設計

田中耕太郎
㈱大林組本店建築設計第６部課長

阪神・淡路大震災で多くの被害が生じた反省から、今後の建物の設計には、建物の重要度に応じて現行法規で規定されている以上の地震力に対する耐震安全性を確保することと、震災時に容易に修復が行えることが求められると考えられる。

以上を満足させるため、建物の構面内に**図１**に示すY型ブレースダンパーと称するエネルギー吸収装置を組み込み、その減衰効果により、建物の柱・梁の損傷を低減することを計った。

建物の概要

建築場所／岡山市、建物用途／事務所
階数／地上14階、延べ面積／約15000m²

建物の平面および軸組の概要を**図２**および**図３**に示す。柱を充填鋼管コンクリート、梁を鉄骨とした構造で、Y型ブレースダンパーをX方向に３カ所、Y方向に４カ所配置した。

設計クライテリア

従来の設計に比べ、応力・変形を抑える設計を行う。地震時の設計クライテリアを次に示す。

・レベル１地震時（20cm/s、中規模地震に相当）
　層間変形角≦１/200　ラーメン架構耐力≦弾性限強度
・レベル２地震時（40cm/s、大規模地震に相当）
　層間変形角≦１/150　ラーメン架構耐力≦弾性限強度
　ダンパーの最大変形角≦４/100　最大塑性率≦24
・過大入力地震時（63cm/s、現行の想定地震以上の地震に相当）
　層間変形角≦1/100　ラーメン架構耐力≦保有水平耐力
　ダンパーの最大変形角≦８/100　最大塑性率≦48

解析結果

固有値解析の結果、建物の固有周期は、**表１**の通りである。

表１　建物の固有周期　（単位：秒）

	ラーメン架構+ダンパー		ラーメン架構のみ(参考)	
（秒）	X方向	Y方向	X方向	Y方向
１次	1.66	1.60	2.12	2.07
２次	0.61	0.60	0.76	0.74

応答解析の結果は**図４**に示すように、レベル２の層間変形角は最大で１/150である。また、**図５**に示すように梁の降伏ヒンジの発生も１カ所のみであり、いずれも設計の目標を満足した。

図６に示すように減衰効果は入力レベルに比例して大きくなり、レベル２でおよそ減衰定数４％と建物の粘性減衰の約２倍の効果が見られた。

図７に示すように過大入力時のリンク材の部材角は最大2.5/100であり、目標値（８/100）の１/３程度であり、十分健全であるといえる。

まとめ

Y型ブレースダンパーの採用により、ダンパーが地震時に塑性化し、エネルギーを吸収し、建物の架構部分の損傷がかなり小さく抑えられた。ダンパーは変形能が大きく、履歴エネルギーにより減衰効果を生じるため、地震レベルが大きくなるほど効果が大きい。

また、従来の設計による建物に比べ、制震効果が高まったにもかかわらず、構造数量は同規模建物に比べ低減されており、経済性の向上も計られた。

以上のように、Y型ブレースダンパーを用いた設計は、今後の耐震設計の一つの方向を示すものと考えられる。

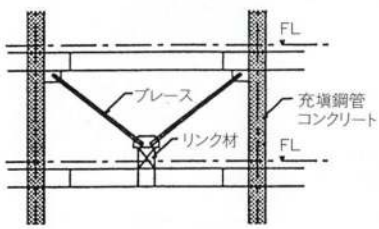


図１　Y型ブレースダンパー

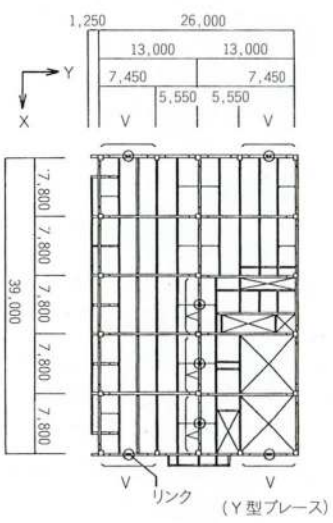


図２　基準階伏図

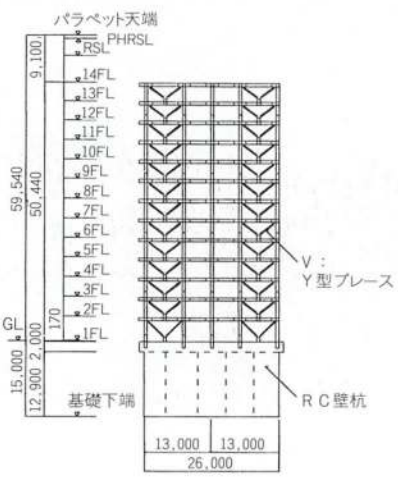


図３　軸組図

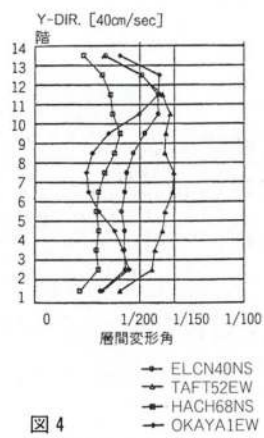


図４
レベル２
最大応答層間変形角

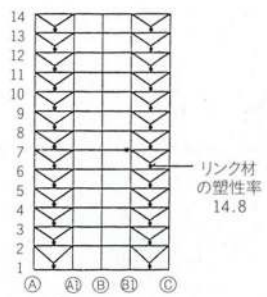


図５
レベル２
降伏ヒンジ発生状況

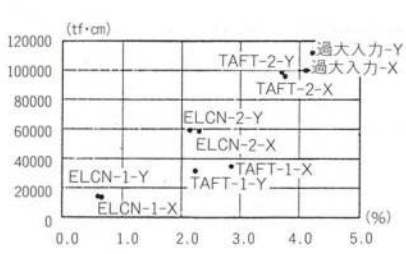


図６　等価減衰定数

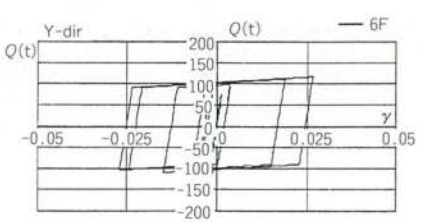


図７　過大入力時リンク材の荷重－変形履歴

抗菌とトイレ

福原宏一郎
東陶機器㈱商品技術部商品技術第一課

清潔指向が大きく広がる中で、より高度な衛生環境づくりが社会全般で求められている。また、昨年の夏話題となった「O-157」禍が拍車をかけ、抗菌について関心が従来にも増して高まっている。

そうした社会の流れに沿って、トイレ水回りの器具類でも、「大便器・小便器自動洗浄システム」「自動水栓」などの清潔指向に合わせたノンタッチで衛生的な商品が発売されてきたが、TOTOでは、さらに一歩進めて、医療機関などで問題になっている院内感染MRSA対策から、パブリック施設、一般住宅などの汚れ、雑菌の繁殖防止まで考えた抗菌商品群を、95年4月から発売している。

汚れ抑制効果と抗菌性を持つ「抗菌衛生陶器・樹脂」と、汚れ抑制効果はもとより、高度な抗菌性とトータルな抗菌空間を提供する「光触媒抗菌衛生陶器・タイル」の2タイプで、それぞれの空間の目的に適確にマッチする抗菌商品を、必要に応じて選定できるようにしている。

抗菌衛生陶器・樹脂

衛生陶器の釉薬中に銀含有抗菌セラミックス（抗菌剤）を混入して焼成した抗菌衛生陶器と、樹脂自体に抗菌剤粒子を混入（またはコーティングした）抗菌便座、インテリア・バーなどがある。これらは、抗菌セラミックスや抗菌剤の粒子が菌の活動を抑え、繁殖や汚れの付着を抑制する。

光触媒抗菌衛生陶器・タイル

現在、主流となっている抗菌商品は、銀系抗菌剤を練り込んだものであるが、それに加えてTOTOでは、新しい「光触媒抗菌技術」の開発に成功した。これは、優れた抗菌機能を持つ光触媒薄膜（素材：酸化チタン）と抗菌金属を、タイルや大便器などの衛生陶器に焼成・固定化する世界初の新技術である。

光触媒薄膜は、光に当たると光化学反応によって、空気中の水分と酸素から活性酸素（水酸ラジカル・OH、スーパーオキサイドイオン O_2^-）を作り出す。この活性酸素には、有機物を分解する性質があるため、雑菌を殺す抗菌効果だけでなく、汚れと悪臭そのものを分解する防汚、防臭の効果もある。

光触媒抗菌技術を採用した衛生陶器は、従来の銀系抗菌剤を練り込んだ抗菌製品に比べ、次のような特長を持つ。

①有機物分解作用により、尿中の有機物が分解されるため、幅広い防汚・防臭効果を発揮する。

②実際のトイレ空間における自然汚染速度を上回る抗菌速度（銀系抗菌製品の約20倍）があるため、トイレを清潔に保てる。たとえば、光触媒抗菌タイルは、蛍光灯レベルの光があるときは1時間で99.9%、暗時でも3時間で99.9%殺菌することができる（図1）。

③銀イオンでは殺せないカビや雑菌などの抑制効果がある。

④酸化チタンは触媒として使われているだけで、それ自体が減ることはないため、効果は半永久的である。

このように、光触媒抗菌製品は、抗菌効果により汚れにくくなるだけでなく、有機物分解作用により黄ばみ汚れが拭き取りやすくなるため、掃除の負担が軽くなるという大きなメリットがある。

表1　衛生陶器の抗菌仕様比較表

	光触媒抗菌衛生陶器	抗菌衛生陶器
構造	・釉薬上に酸化チタン(TiO_2)光触媒層を焼成し、さらに暗時でも抗菌力を発揮するように銀(Ag)化合物を光還元めっきした衛生陶器 Ag化合物 / TiO_2光触媒層 / 釉薬 / 素地	・釉薬中に銀担持耐熱性セラミックスを混入した衛生陶器 銀担持耐熱性セラミックス / 釉薬 / 素地
抗菌作用の原理	・光触媒による抗菌＋抗菌性金属(Ag)による抗菌 〈光照射時〉 CO_2 光 細菌 死滅 光触媒による強い抗菌 / 抗菌金属による抗菌 〈暗時〉 死滅 抗菌金属による抗菌	・抗菌剤混入耐熱セラミックスに含まれる抗菌性金属(Ag)による抗菌 〈光照射時及び暗時〉 死滅 抗菌金属による抗菌 (注)光触媒タイプに比べて抗菌剤の密度が低い。
抗菌の効果	・高度な抗菌作用と汚れ抑制効果	・抗菌作用と汚れ抑制効果
	・清潔指向に対応した衛生的トイレ環境の実現 ・汚れ抑制効果による清掃性の向上	

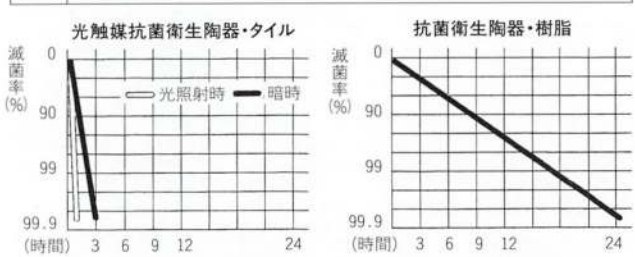


図1　菌に対する抗菌効果（当社試験及び㈱日本食品分析センター試験）

身体にもやさしい技術の開発

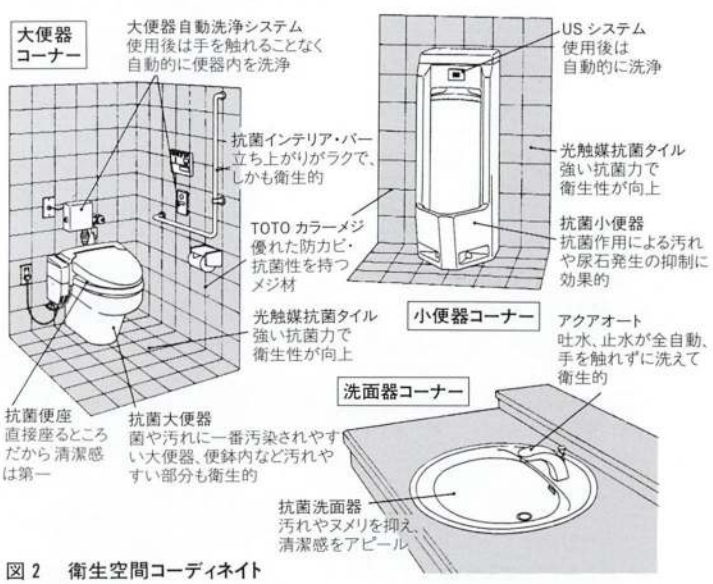


図2　衛生空間コーディネイト

光触媒抗菌製品の性能のベースとなる光触媒反応は、植物の葉で行われる光合成のようなもので、薬剤などは全く使用していない。また、光触媒薄膜の素材となる酸化チタンは、口紅などの化粧品や食品に広く使われ、人体への安全性が確認されている物質である。

これからのトイレ空間に求められているのは、トイレの悪臭や汚れを断ち、トイレを清潔に保つという基本機能を満たすだけでなく、人にも地球にもやさしい製品の開発でなければならないことは言うまでもない。

（ふくはら　こういちろう）

GBRCニュース
GENERAL BUILDING RESEARCH CORPORATION OF JAPAN

財団法人 日本建築総合試験所
〒565 吹田市藤白台5-8-1
TEL.06-872-0391 FAX.06-872-0784
業務時間 9：00～17：15

新規購入機器紹介

材料万能試験機用荷重コントロールシステム

材料試験室では、平成８年度施設整備事業の一環として、材料万能試験機用荷重コントロールシステムを導入しましたので、その概要を紹介致します。

本システムは、当試験室が所有する材料万能試験機（インストロン・ジャパン社製、model 4206）専用の荷重コントロールシステムであり、これまでクロスヘッドの変位量制御での載荷方法だけであったものが、本システムの導入により、荷重制御の載荷が可能となりました。装置外観、主な機能およびシステム概要を以下に示します。

装置外観（写真１参照）

主な機能

荷重制御範囲：クロスヘッドの移動スピード範囲内（0.01～500㎜/min）で任意設定可能。
この機能により、各種規格試験で採用されている荷重速度制御の試験が可能となりました。速度制御は単に１分間での荷重設定のほか、断面積入力などによる１分間の単位荷重制御も可能です。また、任意の荷重または変形時から、載荷速度を自動変更する機能も有しているため、試験の迅速化にも有効です（**図１**に荷重制御による引張試験結果例を示す）。

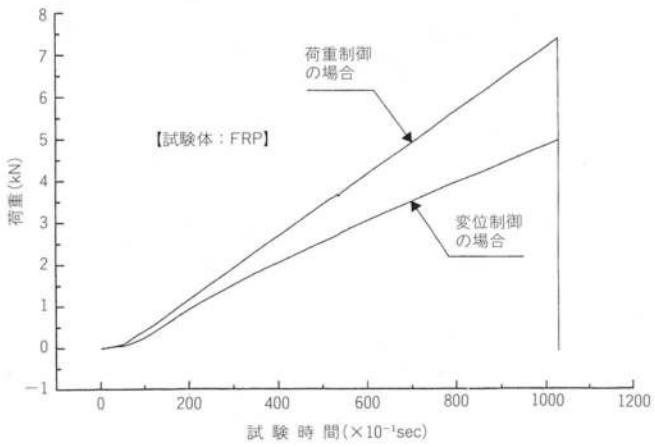


図１　荷重制御による試験結果例

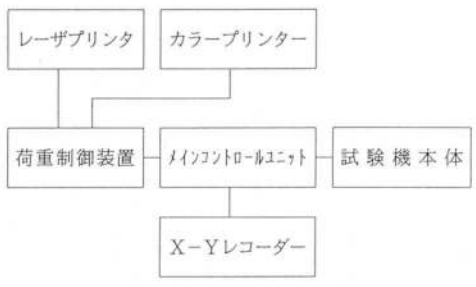


図２　システムの概要

解析機能：降伏伸び計算、ポアソン比計算、伸び計補正など。
断面積、標線間距離の入力を行い、降伏応力度や最大応力度を自動的に表示します。
グラフ機能：各種X-Yグラフ、降伏部の拡大機能など。
降伏部や連続するピーク部分のX-Yグラフを拡大し、解析時の資料として使用できます。またグラフの設定値および結果はファイルとして保存し、必要な場合は迅速に確認作業が行えるとともに、同様の試験時には既設定のファイルを呼び出して使用できます。
報告書機能：各種強度等の計算の後、報告書の表形式で出力。
各試験に適したレポートの出力形式を作成し、試験終了と同時に結果表が出力されます。

システム概要（図２参照）

本システムにより、荷重制御による各種規格試験が可能になったことはもとより、データ整理および報告書の作成までの時間短縮が可能となりました。また、同時に導入した幅50㎜の上下機械式チャックの他に、油圧式チャック（幅25㎜、50㎜）、伸び計（標線間距離：50㎜、精度：1/1000㎜）、恒温試験槽（−20℃～＋200℃）等の附属機器も取り揃えております。
なお、本装置に関するお問い合わせは、材料試験室　河津　または西守までお願いいたします。

（TEL. 06-834-0271、06-834-0316）

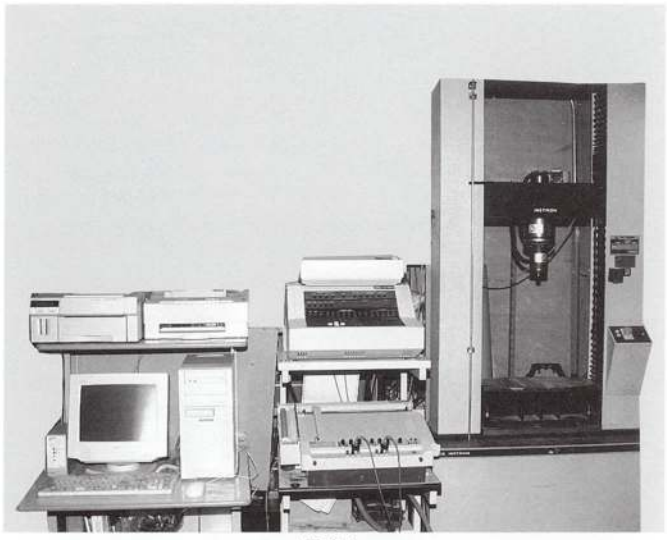


写真１

語意のあいまいな言葉は使わない

山田　修
修　建築事務所

1）技術文はイラスト・写真に特徴をだす

技術文章は，言葉の正確さが身上である．筆者は正しい専門用語を使い，読者にあいまいな解釈をさせないようにする．

例を示そう．ここでは「1点に作用する3力の釣合い（工業高校の教科書による．釣合・釣り合いでも可）の記述をとりあげた．

① 1点に作用する3力の釣合いは，示力図が閉じることが，必要かつじゅうぶんな条件である．

② 1点に作用する力が釣合うためには，3力の示力図は閉じなければならない．

③ 1点に作用する3力の釣合いは，示力図が閉じなければならない．

④ 1点に作用する3力の釣合いは，示力図が閉じることだ．

以上は，いずれも正確な記述である．が，そのなかでも④が一番よい．だの一言で必要かつじゅうぶんな条件は述べているからだ．そのうえ，力づよく文章が決まり，現在形の多い技術文の中では輝いて見える．文章は一番短い．簡潔である．

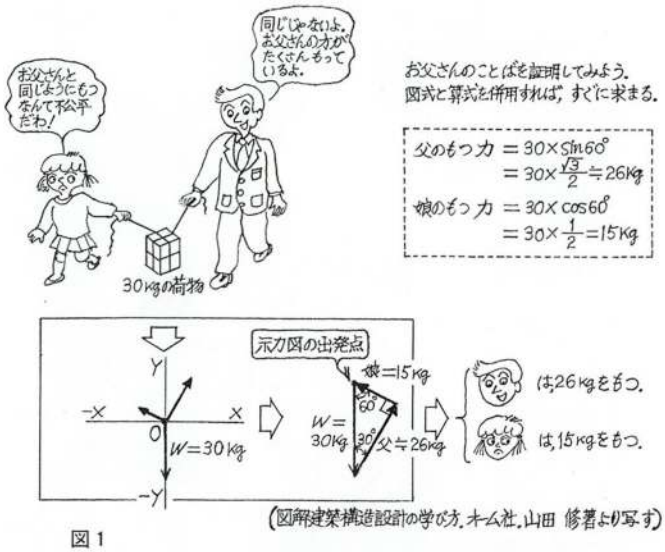
しかし，「1点に作用する3力の釣合い」は共通用語（主語）として使ったが，これを「1点に働く3力の釣合い」とすれば2字は削れる．一般人用には「働く」がよいし，建築人用には「作用する（作用線が関連して出てくる）」がよい，と思う．

わたしは，いままで自著の本では「作用する」と記してきたが，これからは「働く」を使おう，と判断した．その理由を次に示す．

① 国語辞典では「働く work：作用する」「作用する action：働きを及ぼす」で，働くの方が示す範囲は大きい．

② 「科学の事典・岩波書店刊：剛体に多くの力がはたらく場合……」「図詳エリア教科事典・学習研究社刊：1点にはたらく力のつりあい……」「小学生用理科の説明文：物のしくみやはたらきをまとめる……」となっている．

③ ひら仮名で記述したとき「はたらく」の方が「さようする」より，気持ちよく目に映る．



（図解建築構造設計の学び方，オーム社，山田 修著より写す）

図1

④の文章に，図1のようなイラストが加われば，技術文の記述は満点に近い．このイラストを描くのにアイディア・手間・時間がかかる．

ほんとうは力の三角形の図示（図1の長方形の実線で囲んだ部分）だけで簡潔な表現となる．が，イラストだけは簡潔でない方がよい．イラストを漫画化して物語風に展開すれば，一目瞭然に分かる．

わたしは，イラスト・写真・図表などの描写に特徴を出してきた．写真はキャプションの下に，必ず150字程度の説明文を記した．150字は，長年のわたしの経験からあみ出した技術写真用数値である．

2）正確な言葉を書く悩み

ここで，小説家立原正秋（1926～1980年）の「正確な言葉を書く悩み（わたしが勝手につけた）」を紹介する．はましぎ（恋人たち続編，昭和48年，新潮社刊）のなかに出てくる一文である．

『彼は息子をつれて浴槽に入り，今日もまた言葉は見つからなかった，と午後の海岸の散歩を振りかえった．彼が海岸を歩きながらさがし求めた言葉には，役に立たないものがかなりあった．

それは，普段つかいなれている言葉なのに，文章にしてみると，語意曖昧なものがあった．これは，あきらかに，言葉を論証せずにつかっている証拠であった．また，ある言葉を文章に入れてみると，その言葉を入れたがために文章が曖昧になることがあった．

これは，その言葉はきちんとしているのに，前後をつなぐ文脈が明確でないためであった．また，なるべく上手な表現をしようと思って書いた文章が，強調しすぎたがために嘘に見えることもあった．

また，いくら言葉で騙せても，言葉の裏に嘘がある，そんな言葉もあった．

また，ひどいのになると，これから論証しなければならない問題があるのに，すでに論証されたものとしてその前提のもとに論証する言葉があった．批評家の文章にこういうものが多かった．

（中　略）

こうなると正確な言葉はなかなか見つからなかった．とにかく海岸の砂から，もっとも正確な言葉をひとつだけ見つけださねばならなかった．ここ当分は海岸を歩かねばならないだろう……．

それは，無数の砂のなかから一粒のダイヤを見つけだすより困難な気がした』

「はましぎ」のなかの一文は，ひとつの正確なことばを見つけだす困難さと，そこに至る小説家の悩みを表現している．

直截かつ明晰な文章を書く立原正秋のことだから，曖昧なことばを使うのを嫌っていたのだろう．ことばの曖昧さにきびしい自戒の念をこめた文章は「モノを書く人」の端正な姿とプロの自負がにじみ出ている．

わたしは，この文章を見つけたときは「モノ書きにはこの姿勢が大切だ」と納得した．そして厚かましくも「技術文章を小説のように面白くしたい」と念じている次第．

すぐれた小説からは，みずみずしい読書感と新しい発見がえられ「次には，もっといいモノを書こう」という気になる．その気が技術文章を作るときの特徴を出す記述に生きてくる．

（やまだ　おさむ）

設計図書の理解

河津隆之
河津隆之事務所

建築設備共通仕様書

設計図書の理解には、まず共通的工事の仕様を記した共通仕様書を、建築における共通仕様書と同様に日頃から読んで理解しておかねばなりませんが、建築のそれと同じく表と文章だけの頁が多いようです。悪く言えば無味乾燥で、読みづらく、あまり肩がこらずに読み進められる書籍ではないようです。

しかし、設計図書には“何々”とその工事に用いられる共通仕様書を指定する字句があるはずですから、これは絶対に見落とさず、指定された仕様書は入念に読む必要があります。意外な個所に重要な仕様の記事が載っていることもあります。これにより、一般的な設備工事の管材・機器の使われ方、施工方法などがつかめます。

特記仕様書

前回、特記仕様書の一例を部分的に載せ、ふれておきましたが、特記仕様書ではその工事に使用される材料の種類、その工事にのみ適用する機器類（したがって特別な仕様のものもあります）が示されていますから、ここに示された材料・機器の種類を読みとり、仕様その他を共通仕様書の中の該当項目で再確認することが必要です。

例えば、特記仕様書の一例（第2回に掲載）では給水工事の項で単に“ゲート弁 JIS 10kgf/㎠”としか記載されていませんが、総則の項では“本特記仕様書並びに設計図面に記載なき事項はすべて下記の標準仕様書による”として㈳営繕協会の機械設備工事共通仕様書―平成5年版を指定しています。

そこで、この指定された共通仕様書を読み直すわけですが、その際、この仕様書の作成年（例では平成5年版）は必ずチェックするようにします。仕様書は改訂を重ねるのが普通だからです。ここで、呼び径50以下では JIS B 2011青銅弁、呼び径65以上では JIS B 2031ねずみ鋳鉄弁で外ねじ仕切弁であることがわかります。また給水管が VLP すなわち塩ビライニング鋼管ですから、防食上、仕様は鋳鉄製の弁はライニング弁、ねじ込み式の弁は給水用管端防食ねじ込み形弁を使わねばならないこともわかります。

このように、一つひとつ特記仕様書を読みながら共通仕様書と照らし合わせて読み直すことによって、次第に該当工事の輪郭がはっきりしてくるのです。

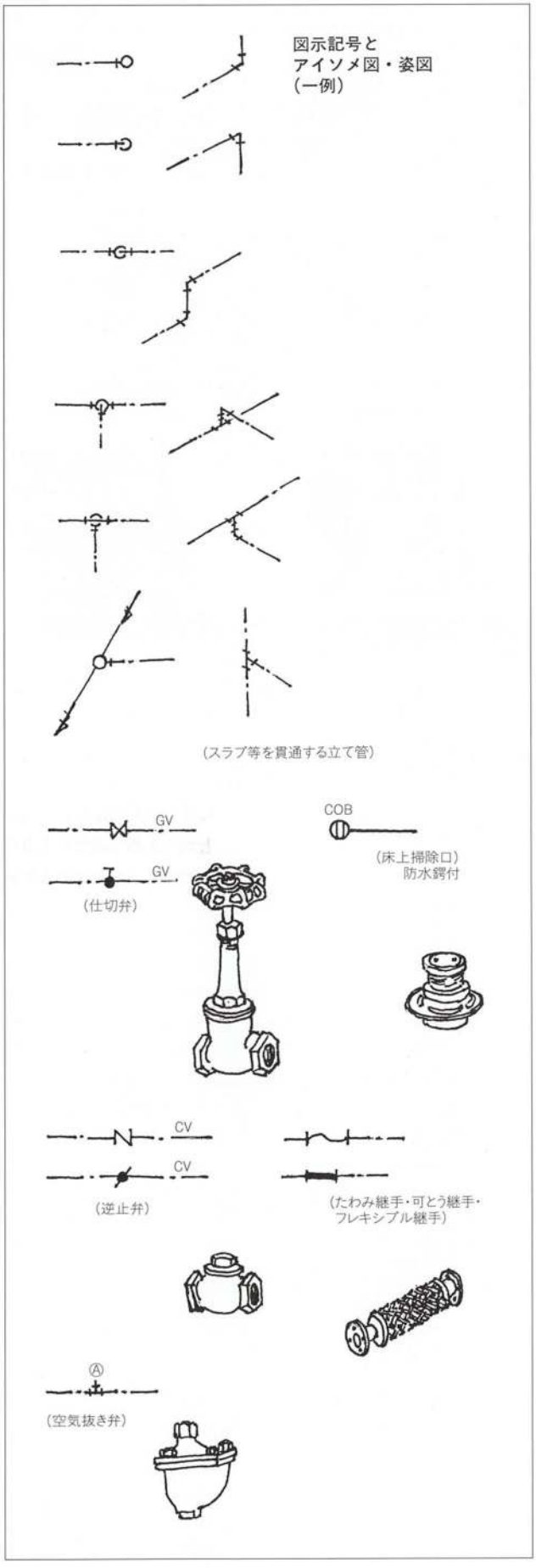
図示記号（凡例・シンボル）

設備設計図は図示記号を用いて、配管の種類（給水管であるか排水管であるかなど）、配管の経路（管が立て管であるとか、その階でいったん立ち上がって天井を横走りしていく、または床下に立ち下がってその階の床下を横引きされていくなど、建築平面上ではどこを通っているか）等を表現するとともに、それに付随する弁、特殊継手、器具などの取り付け位置を示したものです。

しかし、建築技術者の方々にはわかりにくいようです。これは、建築関係の JIS による平面表示記号はかなり実物に近い表示方法が多いので、それに見なれておられるからかも知れません。

なお、設備の図示記号は HASS-001-1991を基本にしているものが多いようですから、ぜひこの図示記号だけでも覚えてほしいとおもいます。

（かわづ　たかゆき）



BOOK STATION
ブックステーション

東京デザイナーズレストラン 1、2

日経ＢＰ社 編集

日経ＢＰ社
1995.4.15・1996.6.15刊
Ａ５版　213頁　1,800円



本来は建築関係の本というより、レストランガイドブック。その紹介されているレストランは、グルメ志向にのった選択ではなく、専門家によってデザインされたスペースに重点がおかれている。本書の帯書きによれば、“空間三つ星、美食空間”の紹介ということになる。構成もきちんとまとめられており、レストランの業種別（居酒屋からカフェまで）、デザイナー別、デザインの形態別（伝説の店、仮想現実の店、現実の店）、地域別、客単価、営業時間まで（ガイドブックだから当然か）、バブル期以降の作品を中心に掲載されている。しかし、大阪もカニやエビが動く店があって引けを取らないが、東京のお店のおしゃれなこと。素材の使い方や、空間の発想・遊び心が心憎い。ぜひ、大阪版も出版されることを願いたい。

（Ｙ．Ｉ）

コンフォルト・ライブラリィ…3

原色インテリア木材ブック

宮本茂紀 著
大槻武志編集事務所 企画・編集

建築資料研究社
1996.9.25刊
Ａ５版　156頁　2,400円



本書は、インテリア雑誌「コンフォルト」のライブラリーシリーズの１冊である。“原色”とあるように、早い話、木の質感が写真でわかる本である。木材の写真は、重要頻度に沿って、大（原寸の約1/2および板目・柾目も掲載）、中（原寸の約1/3）、小（原寸の約1/4）の鮮明カラー写真に、簡潔な解説をつけて、家具材・建築材170種以上を紹介している。また、木材の基礎知識の解説が巻末に、木に関するコラムが随所に挟み込まれているのも楽しい。名前は知っていたが見たことのない木、よく使うがもひとつ特徴がわかってなかった木が、ズバリよくわかる。インテリア・建築で木を使う際のハンドブックとして、活躍してくれそうな本である。

（Ｙ．Ｉ）

品格（ひんかく）なくして地域（ちいき）なし

関川夏央・日下公人・奥本大三郎・森まゆみ・津野海太郎 著

晶文社
1996.11.25刊
四六版　288頁　2,163円



1970年代、高度成長を遂げた日本では、全国の生活環境がほぼ同じレベルとなり、また交通・通信手段の整備による時間・距離の極端な短縮により、「地方」というハンディがなくなった。そのため、職住両面でのＵターン現象、地域文化の見直し、町おこしのブームが各地で大々的に起こったが、結果は日本全国一様の姿となり、自然を破壊し、文化を生むことのない文化施設を量産することとなった。バブル崩壊と共にハード優先の「町づくり」ブームが終わった今、本当の「町おこし」・中央に頼らない活動・その地方にしか出来ないこと、を命がけでしかし楽しく実践している人達がいるという、地に着いた地域文化活動が一方で見えてきた。「地域文化研究小組」という５人組の著者が、「品格ある地域」と呼ぶその活動の芽を求め、熱く語った書である。

（Ｉ．Ｉ）

磯崎新の革命遊戯

磯崎　新 監修
田中　純 編

TOTO 出版
1996.12.10刊
Ａ５版　326頁　2,000円



昨年東京で開かれた展覧会、「アーキテクチュア・オブ・ザ・イヤー」に合わせて出版された本書は、展覧会同様磯崎新を監修に、最近雑誌等でよく名前を見かける４人の若手（60～70年生まれ）が中心となっていて、彼らと同世代の僕としては、やはり無視できない一冊。「カメラ・オブスキュラあるいは革命の建築博物館」というテーマに４人各様の問題設定が施され、磯崎との対談を軸にその他様々な論考が載せられているが、それらはまた「共同体」の問題としても読むことができる。〈建築〉〈日本〉〈建築史〉、そして〈日本語の建築〉とでも呼びたくなる状況、もちろん〈イソザキ〉も。「遊戯（ゲーム）」は常に共同体でのみ成立するもので、「革命」がそこから出ることだとすれば、本書のタイトルにある「磯崎新」「革命」「遊戯」、この３語のウェイトのかけ方でその読み方は変わってくるだろう。本文を真似て言えば、この本は誰が何処に署名するのか？そんな下世話な読み方もまた楽しい。

（Ｓ・Ｔ）

担当：会員企画小委員会／伊藤郁郎・稲木裕子・高岡伸一

書評

建築空間への接近

本多友常

日本の建築空間

安原 盛彦



新風書房

日本の建築空間
安原盛彦 著
新風書房
1996年9月20日刊
B6判 277頁 1,500円

『日本の建築空間』。……なんと正当な題名であろうか。

現代は、正面からものを見ることの不可能性に傷めつけられて、斜めからの物言いに溢れている時代だ。正面からの取組は、ややもすれば時代錯誤の揶揄をこうむりかねない。それを承知で、鈍重な大なたを降り下ろすように命名された書名。

そしてまた、目次の最初に現われる『奥』という文字。ジャーナリズムに少しでも関心のある人々の目には、かつて槇文彦が捉えた日本の空間概念を連想させてしまう。ここでもまた著者は、それを承知で正面から持論を展開する。しかしその挑戦とも愚直とも思える取組の態度に、この書の真骨頂がある。それは、すでに確立されている価値を留保して、自分の目に映しだされるものを見ようとする建築家の姿が、研究の上に二重露光されているからだ。

観察とは基本的には、見たいものの発見の旅にほかならない。この書もまた著者の直感力が捉えた新しい視点を補強するための、物証の豊富さによって構成されている。逆の見方をすれば、その反証もまた、理屈としては収集可能だろう。それを承知で著者は論理性を底固めとしたイメージの開拓を試みており、緻密な分析と大胆な『和』に対する言説が、読者を引き込んでいく。この点においては、強い意志をもった空間論であると言える。

著者はこの出版にさきだって、『「ペーパーバック読み」考』という本を出版している。これはアメリカのミステリー小説や、文学作品のなかに浮かび上がる空間や都市の様相を、独特の眼をもって描いた作品で、かなりマニアックな、ペーパーバック愛好者による都市の風景描写となっている。この書名のため、あるいはペーパーバックを読む楽しみを述べているために、一見趣味の書に思われそうだが、著者の目は、遠く小説の背後にある人間の空間意識に向けられている。つまり二つの書の題材は、まったくかけ離れた和・洋の両極端ではあっても、同根の意識によって記された双生の書といえるのだ。そうしてみると、この2冊は著者の視線を測定するうえでの、三角測量における離れた二点の位置を提供してくれていることになる。

さて『日本の建築空間』にもどろう。一般的に建築の世界においては、「日本の建築」という言葉が連想させるものは数寄屋であり、弥生的な精神構造を対象として語られるのが通例だ。そして多くの場合、様式の洗練度を問題とすることによって、既に概念設定された感性の世界で論が進められやすい。この書は、その道を避けながら、直裁に「建築空間の原理」に切り込もうとする。そのため、かたくなに「数寄」の言葉を避けつつ、建築家的な観察者として現場に立ち、そこに見えてくるものを語ろうとする。

たとえ現存しない空間でも、図面の上に降り、あるいは古文書の中に身を投じて、そこにたち現れる現象を記述していく。いわば、空間体験について専門的な感度を備えたスポークスマンとでも言うべきか。そこにたち現れる風景は、重層的な結界や軸の交差として、あるいは螺旋的な旋回構造や、中心性の虚実の存在に対する思弁として描かれている。

また人の移動にともなって屋根が見えなくなり、軒裏が現れる領域の劇的な空間性の変節点を、「軒内包空間」という概念で捉えることによって、スポークスマンは発見と解釈を緻密に重ねながら記事を送り出してくる。

アイディアに満ちた視点のおき方は、建築家の興味をそそり、研究者にたいしては議論の意欲をかきたてるだろう。おそらく、学術的な反論の余地はいくらでも残っているに違いない。しかしそれこそが学問の発端であり、同時に設計の想像力を強化してくれる根拠となる。大胆な解釈と、そこに盛り込まれた豊富な実証性は、建築評論と研究論文の中間に位置して、改めて「日本の建築」を「考える」ことを迫っている。

(ほんだ ともつね／竹中工務店)

高齢者ケア施設設計競技

㈳日本医療福祉建築協会は、平成7年度に「保健文化賞」を受賞した。その記念事業として高齢者ケア施設のあり方について提案を求めるコンペを行う。

この設計競技は、"団塊の世代"が後期高齢期を迎える2020年を想定し、ケアサービスを必要とする高齢者のための施設像のあり方を追求した提案を求めるもので、実際に建設されるものではないが、入選作品集の刊行や展示会を通して公開される。

設計条件　入所型高齢者ケア施設を主体とし、通所型施設や在宅訪問機能を併設する。入所定員30〜50人程度。現状の法制度や補助基準にはこだわらない。敷地は実在のものを選定。敷地内に既存建物はないものと想定してもよい。敷地の選定にも提案性を求められる。

応募資格　不問。ただし審査員が主宰する組織に所属するものは応募できない。応募は個人（協同含む）、法人でも可。

応募登録　1997年3月15日までに、㈳日本医療福祉建築協会（〒108 東京都港区芝5-26-20、TEL03-3453-9904、FAX03-3453-7573）へ郵送で応募登録をする。登録料は会員外は10,000円。

提出図面　A1サイズ1枚に、設計趣旨、配置図、平面・断面・立面図、生活空間の図面、透視図または模型写真、各階面積表・定員数ほかをまとめる。図面の仕上げは自由。使用言語は日本語か英語。提出は5月9日まで。

審査委員　小滝一正（横浜国立大学教授）－委員長－伊東弘泰（日本アビリティーズ）／香山壽夫（東京大学）／外山　義（東北大学）／長島孝一（AUR建築・都市・研究コンサルタント）／山崎　敏（ライフエイドネクサスデザイン）／山谷えり子（サンケイリビング新聞社）の各氏。

賞　最優秀賞1点100万円、優秀賞5点各30万円、佳作若干各5万円

建築道具館オープン

㈳全日本建築士会は、"匠の心"を受け継いだ木造建築のプロフェッショナルの育成に乗り出すのに併せて、平成2年に開設した建築道具館を3月4日にリニューアルオープンさせた。

栃木県の建具職人（宮師）赤穂新太郎氏から寄贈された128種類586丁の道具を中心に、質量ともに充実し、手に触れてみることができる道具館として運営される。

所在地　㈳全日本建築士会内
東京都新宿区高田馬場3-23-2 内藤ビル301

開　館　10：00〜16：00　土日祝日・年末年始休館

入場料　無料

浪速消防署公開設計競技

大阪市浪速区に建つ浪速消防署は昭和12年に南消防署として建設されたものであるが、施設の老朽化や阪神淡路大震災を契機とした消防署機能強化のために、大阪市では建て替えを計画している。

そこで、浪速消防署が関西国際空港への玄関口・湊町再開発地区に隣接していることから、大阪市はそれにふさわしい建築デザインを公募することとした。

●計画概要

計　画　地　大阪市浪速区元町1-14-1（現消防署）

地域地区　商業地域（基準容積率600%、基準建ぺい率80%）、防火地域

敷地面積　約970㎡

計画延床面積　約3,500㎡

●審査員

三輪雅久氏（大阪市立大学名誉教授）－委員長－

舟橋國男氏（大阪大学教授）

室崎益輝氏（神戸大学教授）

●設計競技日程

要項配布・応募登録／3月3日〜14日

作品提出／5月12日〜14日

入選者決定／6月中旬予定

問い合わせは、大阪市都市整備局営繕部企画課（TEL 06-208-9324）へ。要項配布場所も同所。

東孝光教授退官記念フォーラム

大阪大学・東孝光教授の退官を記念して、大阪大学環境計画講座と関西設計者会議の主催でフォーラムが、建築家・安藤忠雄氏、詩人・ねじめ正一氏の参加を得て開催される。

阪神・淡路大震災の復旧過程で明らかになった"住民と建築家との間には接点がないのに、住民とプレハブ住宅には接点があった"ことをとらえて、「出会いを語る」と題し、市民が建築とどう出合い学んだらよいのか、市民が建築家とどうかかわっていったらよいのかを問い直す場とするべく、建築に関心のある一般市民の参加を呼びかけている。

日　時　1997年3月26日(水)　18：00〜20：30

会　場　大阪市中央公会堂・3階中集会室
（大阪市北区中之島1-1-27）

定　員　300名（当日先着順）
建築に関心のある人々のより多くの参加を！

会　費　1,000円

構　成　第1部／安藤忠雄氏基調講演
第2部／ねじめ正一氏（詩人・小説家）と、東孝光氏の対談およびディスカッション

なお、ねじめ正一邸（阿佐谷の家）は東孝光氏が設計したもの。

フォーラムの問い合わせは、大阪大学環境計画講座（TEL 06-879-7656）へ。

関西建築学生企画［da］イベント

「できちゃったかもしんない－春の選抜甲子園－」と題して、大阪の大学に在籍する学生をメンバーとする関西建築学生企画［da］が、ATCのITM棟で選抜対抗設計競技を行う。㈳日本建築協会後援。

これは、関西圏の建築系の学部4年生を中心とする6〜10チームが、共通の設計課題に6時間の制限時間内で取り組み、一般参加者とのディスカッションによって評価を得ようというもの。

日　時　1997年3月23日(日)
10：00〜16：00　制作時間
16：00〜　ディスカッション

場　所　ATC-ITM棟2Fハーバーアトリウム
大阪市住之江区南港北2-1-10

参加者　6〜10チームと観衆

入　場　無料

詳細問い合わせは、ATCITM事業部（TEL06-615-5002）へ。

ATC関西学生卒業作品展

デザイン文化の向上と未来を担う若きクリエイターの育成を目的として、昨年に引き続き開催される。

日　時　1997年3月22日(土)〜3月29日(土)　10時から

会　場　大阪南港ATC—ITM棟12階
大阪市住之江区南港北2-1-10

参加校　大阪大学／大阪工業大学／大阪産業大学／大阪芸術大学／近畿大学／京都大学／京都市立芸術大学／奈良女子大学／神戸芸術工科大学／兵庫科学技術専門学校ほか

主　催　アジア太平洋トレードセンター㈱

後　援　大阪府、大阪市、㈳日本建築協会ほか

■記念シンポジウム（併催）

日　時　1997年3月22日(土)　14：00〜16：00

会　場　ATC—ITM棟12階

講　師　東　孝光氏（建築家）
妹島和世氏（建築家）
小坂　淳氏（デザイナー）
佐々木葉二氏（ランドスケープArc.）

内　容　ものを作る立場から、これからの都市デザインのあり方、建築物のあり方などを考える。

「'97韓国建築資材商談会」

日　時　1997年3月6日(木)　10：00〜17：00

会　場　都ホテル大阪　3階・三笠の間
大阪市天王寺区上本町6-1-56

参加企業　韓国有望メーカー20社

商談品目　建築資材（住宅内外装材、管材、ボルト類、工具等）－参加費無料－

当日は通訳付き。詳しくは、韓国貿易センター（〒541 大阪市中央区安土町2-5-5 TEL 06-262-3831）へ。

『ル・コルビュジエ:黄金尺一創造者の道具』

ル・コルビュジエは、1948年に「モデュロール」を発表した。身長6フィートの人間を規準にした人体の寸法と、黄金比、フィボナチ級数とを組み合わせて導き出されたモデュロールの数列は、人体に馴染み、見た目にも美しい比例を生み出す数値の組み合わせであり、人間の暮らしに根づいた、詩的で美しく調和のとれた空間を創り出すための尺度（＝道具）である。

ギャルリー・タイセイ主催の本展では、古い建築の比例の研究に始まり、ル・コルビュジエがモデュロールを発明し、それを応用していく過程を追っている。

会　期　1997年 1 月27日(月)～ 3 月28日(金)
10：00～17：00　土日祝日は休み

会　場　ギャルリー・タイセイ（新宿センタービル17F）
東京都新宿区西新宿1-25-1
TEL03-5381-5510

入場料　無料

●展示内容

(1) ウィトルウィウス、レオナルド・ダ・ヴィンチからル・コルビュジエまで、比例の美しさを追求した建築家たち。

(2) ル・コルビュジエの初期研究。

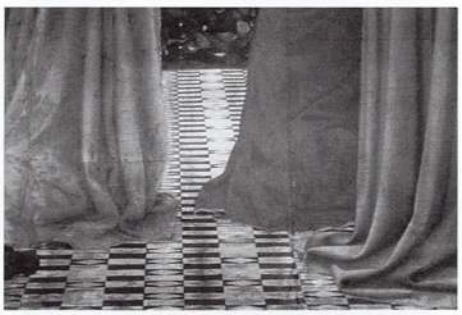
(3) モデュロールの具体的な説明、日本の畳との比較。

(4) モデュロールの実践。ル・コルビュジエがモデュロールの寸法で手作りし、晩年毎夏を過ごしたカプ・マルタンの小屋の原寸模型。マルセイユのユニテ、ラ・トゥーレットの修道院やチャンディガールの高等裁判所の窓割り。絵画への反映。

「絵画の中の床模様」展

INAXギャラリー大阪企画展では、ルネサンス期のヨーロッパ絵画に描かれた床のデザイン・パターンが大理石やタイル、れんがによって再現され、また、スペインやイギリスや日本の床タイルの実物約50点も併せて展示される。入場無料。

15世紀のフランドルの画家ヤン・ファン・エイク「宰相ロランの聖母子」、フラ・アンジェリコ「聖母戴冠」、カルロ・ブラッチェスコとファン・デル・ウェイデンの「受胎告知」など、また17～18世紀のフェルメール、ドラクロワ、マチス、P．デルヴォーの床模様、さらにイスラーム絵画、唐代の壁画、桃山時代の障壁画に描かれた床も登場する。



フラ・アンジェリコ「聖母戴冠」（絵画の中の一部分）
1430年代後半　ルーブル美術館所蔵

会期　1997年 3 月10日(月)～ 5 月24日(土)
10：00～18：00　毎週水曜日休館

会場　INAX大阪ショールーム2F
大阪市西区新町1-7-1　TEL06-539-3518

●投稿

明治建築研究会版［平成8年・大阪の近代建築10大ニュース］

明治建築研究会作成

昨年1年間の大阪の近代建築の流れを見るために、新聞、専門雑誌、テレビなどから集めたニュースをもとに、明治建築研究会が大切だと思うものを10件選んでみた。

＊

①大阪市中央公会堂保全・再生のための公募型プロポーザル方式の選定（2月）
歴史建築の再生が待たれていたが、保全・再生させながらよみがえらせる坂倉建築研究所らの案が選ばれた。免震構法も導入され、9年度には実施設計、平成13年の完成予定である（大阪市北区中之島、大正7年竣工）。

②堺の大正期の潮湯が改築のために取り壊される（2月）
海水をわかす潮湯として関西に残る数少ない銭湯が姿を消した。昔の木造の銭湯は取り壊されたが、11月からRC造の新しい銭湯がオープンした（堺市出島海岸通り、大正12年竣工）。

③大正期の煉瓦造倉庫がギャラリーとして保存される動きが出る（2月）
取り壊しが心配されていた古い倉庫群が、大阪市のウォーターフロントの整備計画の中で活用される。古い煉瓦工場を再生したサンフランシスコのキャナリー・マーケットのようになれば素晴らしい（大阪市港区海岸通り）。

④明治中期の洋館・旧芝川邸が取り壊される（2月）
阪神大震災で被害が出ていたので心配されていたが、突然取り壊されてしまった。大阪の文化史の上からも重要な建築であっただけに、惜しまれる。船場地区に現存する最古の煉瓦造建築であった。明治23年竣工、煉瓦造2階建、典型的な洋館スタイル。

⑤旧琉球政府立法院議事堂の保存の声が大阪から出る（8月）
那覇市に現存するこの建築は、一度取り壊しが決定した建築であるが、沖縄県の戦後の歴史の生き証人として保存を求める声が沖縄県を中心に広がっている。それに答えるために大阪でも講演会、ハガキ作戦などで保存を呼びかけている。
昭和29年竣工　設計；大城龍太郎。

⑥御堂筋に新しい50mのビルの計画が予定される（10月）
日本を代表する都市景観・御堂筋の歴史景観に大きな影響をおよぼす新しい規制によるビル（淀屋橋の明治生命館、昭和35年竣工）の建て替え計画が出ている。これによってせっかくの美しい都市景観が大きく変化する心配があり、市民の中には反対する声もある（大阪市中央区伏見町）。

⑦大阪刑務所の新築落成記念式典開催（11月）
大正期の歴史建築を一部保存してほしいという市民の声が長い間続いてきたが、構内の煉瓦造の建築はすべて取り壊された。新しい刑務所建築の建設も大切であるが、歴史建築の保存も公共建築は考えるべきである。新しい建設と歴史建築の保存をどのように調和させるかが、今後の課題であると思われる（堺市）。

⑧大阪市立工芸高校本館の改修工事完了の記念式典の開催（10月）
ドイツ・ワイマールの工芸学校を手本にしたアール・ヌーボー様式の美しい学校建築が保存・補強された。その記念式典が開催された。大正時代のすぐれた歴史建築が保存された意義は大きく、各地の学校建築保存の手本になればと思う（大阪市阿倍野区文の里）。大正13年竣工、RC造3階建。

⑨登録文化財制度の導入で近代建築が文化財に指定される（11月）
旧小西儀助商店、大阪教会、旧谷口邸が大阪府下で登録文化財に指定される。時代の新しい近代建築が文化財として指定されるという意義は大きく、今後、危機にみまわれている近代建築を救済していく上に期待が持たれるものと思われる。

⑩旧大阪砲兵工廠化学分析所の保存の声が高まる（12月）
今までにも各方面から保存の声が上がっていた、現存する唯一の砲兵工廠の遺構である。この建築に再び保存の声が出始める。阪神大震災後、煉瓦造建築が地震に危ないということで破壊されている例が多いので、関係者の心配は大きい。

川建空間構造デバイス

耐震制振部材（KT-FLD）
自動張力導入テンション材（KT-T）

鉄を語る

川鉄建材株式会社
〒651 神戸市中央区北本町1丁目1番28号
TEL078-232-5879　FAX078-232-5878

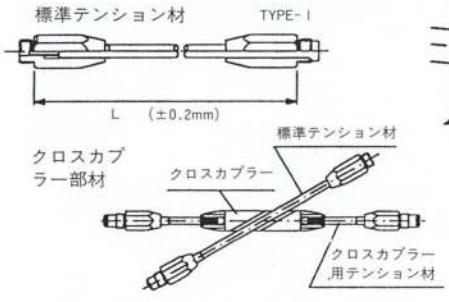


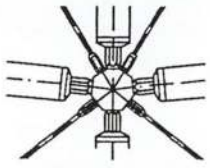
大阪ドームスーパーリング

テンション材システム範囲

PC棒呼び	接合ネジ										
	M10	M12	M16	M20	M24	M30	M36	M42	M48	M56	M65
φ7.1	●		○								
φ9.2		●		○							
φ11			●		○						
φ13			●		○						
φ15				●		○					
φ17				●		○					
φ19					●		○				
φ21						●	○				
φ23						●		○			
φ26							●	○			
φ29								●	○		
φ32									●	○	
φ40									●		○

○ TYPE-1
● TYPE-2

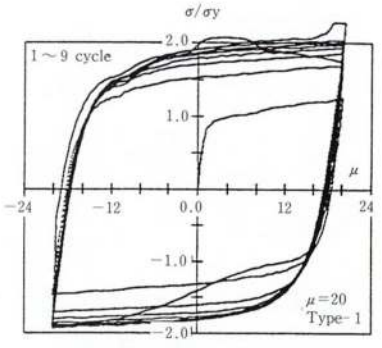




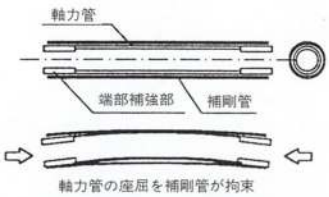
接合部ディテール

●PC鋼棒テンション部材
自動張力・形状コントロール形、シンプルで軽快な納まり。

川建の新しい構造材

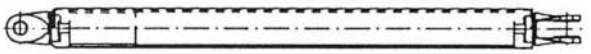


部材の履歴特性（λ=80、塑性率20）



二重管FLD部材の原理

●二重管FLD部材
座屈することなく塑性変形、地震時のエネルギー吸収の大きな画期的耐震補強材。既存不適格構造物、新築物件の補強材に最適。



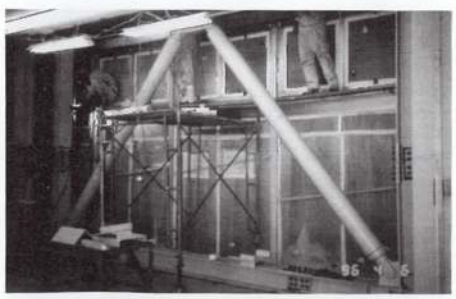
FLD部材姿図　FLD：Force Limiting Device（応力制限機構）

極低降伏点鋼軸力管システム範囲

クレビス呼び	φ40	φ55	φ70	φ90
ピン径 / 軸力管	φ44	φ54	φ69	φ94
φ190.7×5.0	○			
φ190.7×9.0		○		
φ190.7×9.0		○		
φ190.7×9.0		○		
φ241.8×7.0		○		
φ190.7×14.0			○	
φ241.8×10.5			○	
φ241.8×10.5			○	
φ241.8×14.0			○	
φ241.8×14.0			○	
φ298.5×11.0			○	
φ298.5×11.0			○	
φ273.0×12.0			○	
φ298.5×14.0				○
φ298.5×14.0				○
φ273.0×16.0				○
φ298.5×18.0				○
φ298.5×18.0				○
φ273.0×19.0				○

軟鋼軸力管システム範囲

クレビス呼び	φ40	φ55	φ70	φ90
ピン径 / 軸力管	φ44	φ54	φ69	φ94
φ146.4×5.0	○			
φ144.0×5.0	○			
φ131.2×5.7	○			
φ149.0×6.3	○			
φ143.2×6.6	○			
φ133.8×7.0	○			
φ164.5×6.1		○		
φ164.5×6.1		○		
φ147.9×7.0		○		
φ197.8×7.4		○		
φ197.8×7.4		○		
φ189.4×7.9		○		
φ188.3×9.3			○	
φ180.1×9.7			○	
φ223.4×7.7			○	
φ238.7×9.1			○	
φ238.7×9.1			○	
φ291.5×8.5				○
φ290.5×11.0				○
φ285.1×13.3				○



耐震補強例（横浜某事務所）



耐震、制振部材例（川鉄木社ビル）

日本建築協会

月間の動き

【平成8年12月分】

理事会

第5回定例理事会
13日・4時半～5時半・於本会会議室
出席者　市川会長ほか30名
議　事　(1)　創立80周年記念事業に関する件
(2)　入退会者承認の件
(3)　後援・協賛名義使用承認の件
(4)　報告事項その他

企画委員会

第3回企画委員会
10日・3時半～4時半・於本会会議室
出席者　片倉委員長ほか5名
オブザーバー　市川会長・三品副会長
議　事　協会80年史編纂に関する件

編集委員会

第6回計画系―インテリア・住宅―分科会
3日・7時～8時半・於本会会議室
出席者　角方幹事ほか5名
議　事　平成9年7月号「インテリア・住宅」特集企画
第9回会員企画小委員会
3日・7時～9時・於「LIVING：BAR堂島」
出席者　稲木副委員長ほか6名
議　事　(1)　「建築と社会」(シリーズもの)の報告と掲載予定
(2)　新しい企画案について
第9回構造分科会
4日・6時～7時15分・於本会会議室
出席者　長瀬幹事ほか3名
議　事　(1)　シリーズ頁のレイアウト改定案
(2)　2月号「鉄ものがたり」特集報告
(3)　「構造の頁」の企画
(4)　来年度の分科会委員交代
第9回編集委員会
12日・6時～8時・於本会会議室
出席者　與謝野委員長ほか5名
議　事　(1)　8年12月号「第43回青年技術者」特集・「近畿地方建設局営繕部」特集経過報告
(2)　9年1月号「建築のロングライフ化をめざして」特集案検討
(3)　9年2月号「鉄ものがたり」特集経過報告
(4)　9年3月号「東海―風土・文化とまちなみ・建築―金沢・能登」特集経過報告
(5)　9年4月号創立80周年記念「80人の眼―建築と私と社会―」特集案検討
(6)　9年5月号「木造建築物の伝統技術とその将来」特集案検討
(7)　平成9年1月号からの会誌体裁の検討
(8)　その他
(9)　収支状況報告
第5回80周年記念特集編集幹事会
16日・7時～10時10分・於本会会議室
出席者　吉村幹事ほか2名
議　事　(1)　編集委員会の報告
(2)　80周年記念特集「80人の眼―建築と私と社会―」の具体化―編集方法の検討―
第7回法令分科会
18日・2時～3時半・於本会会議室
出席者　城戸幹事ほか1人
議　事　(1)　「法令コーナー」の企画
(2)　来年6月号「住む空間の復興」特集の企画
第9回作品作風小委員会
19日・6時半～9時・於本会会議室
出席者　富田副委員長ほか6名
議　事　(1)　前回編集委員会の報告
(2)　作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
(3)　作品の選定
(4)　「Gallery」掲載報告・予定
(5)　「SKETCH BOOK 欄」の掲載予定

事業委員会

第2回広報第1分科会
5日・6時半～8時45分・於本会会議室
出席者　原見副委員長ほか5名
議　事　今後の企画の検討
第8回若い会員の集い小委員会
10日・7時～10時・於本会会議室
出席者　廻幹事ほか3名
議　事　(1)　実施報告
(2)　今後の予定について
(3)　委員の時間

出版委員会

第1回出版委員会編集会議
5日・6時～8時・於本会会議室
出席者　山田委員長ほか4名
議　事　創立80周年記念出版の編集について
第8回出版委員会
19日・5時半～6時15分・於本会会議室
出席者　山田委員長ほか13人
議　事　(1)　＜プロのノウハウ＞と特装本の経過報告
(2)　今後のテーマと執筆者選定
(3)　創立80周年記念出版の経過報告と予定
第2回出版委員会
26日・6時～8時半・於本会会議室
出席者　山田委員長ほか4人
議　事　創立80周年記念出版の編集について

教育委員会

第2回工高生教育小委員会
18日・6時～7時・於本会会議室
出席者　和田副委員長ほか7人
議　事　(1)　平成8年度・第42回工高生デザインコンクール実施報告
(2)　次年度・第43回工高生デザインコンクール募集規定の件

創立80周年記念事業

第3回実行委員会
3日・4時～5時半・於本会会議室
出席者　三品委員長ほか7名
議　事　創立80周年記念事業の企画

見学会

茶室見学会（第7回）
建仁寺・東陽坊と両足院の茶室
7日・2時～4時半・参加者52名

'96年建築関係団体合同忘年懇親会

13日・6時～7時半・於太閤園迎賓館ダイヤモンドホール
参加者　360名

建築クラブ

第296回朝食会
10日・8時半～10時・於大阪グランドホテル
演　題　「自然環境と人工的色彩の共生は失敗のない色選びから」
講　師　平川　麗美氏（ザ・カラーワークス）
参加者　43名

入会者（敬称略）

〔団体会員2社〕
ケイロン産業㈱　ダイハツ建設㈱
〔個人会員18名〕

荒木　正晴（錺高組）	井上　克三（錺高組）	片山　勉（錺高組）
北野　明男（錺高組）	佐々木悠爾（錺高組）	冨森弥寿弘（錺高組）
橋本　信行（錺高組）	日置　豊（錺高組）	渡部　英巳（錺高組）
岩戸　利男（竹中工務店）	新實　伸（竹中工務店）	能勢　浩三（竹中工務店）
倉柳　陽弘（倉柳鉄筋）	黒田　勲（ゆい設計室）	常見伊都子
福本　和弘（シード）	峯　勝彦（大林組）	吉田　賢一（鴻池組）

〔準会員1名〕
灘本邦博（修成建設専門学校）

◀会員の訃報
名誉会員　川谷　勇氏　平成8年12月14日逝去
名誉会員　佐々木　保氏　平成9年1月15日逝去
名誉会員　宮崎　辰敬氏　平成8年12月15日逝去
名誉会員　竹中　錬一氏　平成8年12月31日逝去
個人会員　脇本　啓一氏（共栄都市コンサルタント）　平成8年12月27日逝去

お詫びと訂正
本誌2月号「特集：鉄ものがたり」記事広告中、川鉄建材㈱様（P-72）のタイトルにて“川鉄空間構造デバイス”とあるのは“川建空間構造デバイス”の誤りでした。お詫びして訂正いたします。(今号P-108に再掲載)

「東海支部」特集協賛広告目次

INAX

エービーシー商会

岡村製作所

くろがね工作所

ゴール

三協アルミニウム工業

サンゲツ

三晃金属工業

立山アルミニウム工業

東芝エレベーター販売

東陶機器

東洋シャッター

東リ

ニチベイ

日立製作所

不二サッシ

松下電器産業

松下電工

三菱電機

美和ロック

ユニオン

（50音順）

INAX

K I L A M I C

公共トイレは、抗菌トイレ。

INAXの抗菌商品キラミック、価格据置きで大好評発売中!



INAXなら、『トイレ空間をまるごと抗菌化』できます。

現代人は清潔好き。臭いや汚れに敏感です。そこでINAXのキラミック。便器をはじめタイル、目地や洗面器も抗菌化しました。便器の汚れや臭いは、バイキンが主な原因。99%以上の滅菌率を誇るキラミックならバイキンが原因で起きる汚れの付着や臭いの発生を抑えます。このためお手入れやお掃除も簡単になりました。そのうえ、INAXはトイレ空間をまるごと抗菌キラミックに。価格は据置き、安全で耐久性に優れ、ユーザーの志向に応えるキラミックのトイレ空間は、多くの方が利用する公衆施設のトイレにピッタリです。

1. 抗菌で清潔

キラミックはオリゴジナミー効果で99%を越える高い滅菌率。バイキン汚れの付着を抑え清潔です。そのうえ、効果もながつづきします。釉薬面に損傷がないかぎり抗菌性は持続します。

■ 小便器用脱着トラップの汚れ付着比較試験

公共トイレの並列する2つの小便器で、掃除を行わずに約3週間使用。汚れのつき方にはっきりとした差が確認できます。



2. メンテナンスも簡単!

バイキン汚れが付きにくく、便器のぬめりや排水口汚れなどの清掃がカンタン。清潔感だけでなくメンテナンス作業の低減にも威力を発揮します。

■ 洗面器排水口まわりの汚れ付着比較試験

オフィストイレの並列する2つの洗面器で、掃除を行わずに約1ヵ月間使用。キラミック抗菌仕様と従来仕様とで汚れのつき方に差が現れました。





★お問い合わせはこちらへ★

株式会社INAX　名古屋支社

〒460 名古屋市中区錦1丁目16番20号

グリーンビル TEL052-201-1717

※一部商品は抗菌ではない場合もあります。
詳しくはカタログにてご確認ください。

ひとのいる場所に、
夢をひろげる
建材でありたい。



エービーシー商会は、本当に価値ある建材を
納得価格でお届けし、新鮮な発想と総合力で、
空間づくりの「満足、納得、安心」をご提案します。

㈱エービーシー商会
名古屋営業所　〒460 名古屋市中区栄4-3-26昭和ビル4F　TEL052(251)4411
本社　〒100　東京都千代田区永田町 2-12-14　TEL 03-3507-7111(代表)
大阪営業所　〒540　大阪市中区央大手前1-7-31　OMMビル8F　TEL06-944-4900

● 札幌011−231−7904 ● 大宮048−433−7777 ● 静岡054−273−5670 ● 神戸078−271−2851
● 盛岡019−652−5077 ● 千葉043−241−6125 ● 新潟025−228−8867 ● 高松0878−31−6966
● 仙台022−371−8040 ● 東京03−3507−7132 ● 金沢0762−60−5288 ● 広島082−256−1700
● 宇都宮0286−37−5071 ● 立川0425−25−2331 ● 名古屋052−251−4411 ● 福岡092−413−9050
● 水戸0292−26−5315 ● 横浜045−681−8603 ● 大阪06−944−4900 ● 沖縄098−853−3722

ビル・工場から住宅まで建材の総合メーカー
ABC shokai

okamura



CS43GR(リング肘タイプ)



CS85GR(アジャストアームタイプ)

オフィス・スタンダード

SX Chair

エルゴノミクスチェアSXシリーズ

これがオフィスの新快適、新基準。

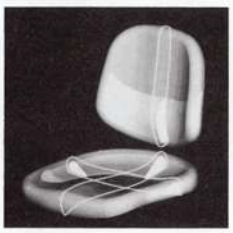
●［ホールドクッション］中央はソフトで周辺は硬めのクッションを使用する(部分ごとにクッションの硬さを変える)ことによって身体をしっかりと包み込む絶妙のホールド感を実現しました。

●［アンクルチルト®リクライニング］座った時の人体の動きは、くるぶし(アンクル)を支点に行われます。その自然な動きから創出されたアンクルチルト®リクライニング。背もたれと座面が連動しながらリクライニングし安定感のある自然な座り心地が得られます。

●［アジャストアーム］キーボードやマウスのオペレーションがしやすいように、肘の位置を自由に調整できるアジャストアームをラインアップ。身体への負担を軽減、作業効率をUPさせます。



「アジャストアーム」がPCワークを快適にサポートします。



「ホールドクッション」が身体をしっかりと包み込みます。



身体の動きにスムーズにフィットする「アンクルチルト®リクライニング」

よい品は結局おトクです

オカムラ

株式会社 岡村製作所

オフィス環境事業本部 名古屋支店　〒460 名古屋市中区栄2-11-30セントラルビル TEL052(221)6291
建材事業本部 名古屋南支店　〒460 名古屋市中区栄2-11-30セントラルビル TEL052(221)6773

お客様サービスセンター フリーダイヤル 0120-81-9060 月曜～金曜(祝祭日を除く)AM9:00～PM6:00

◎インターネットでオカムラの最新情報をご覧下さい。［OKAMURA TODAY］http://www.toppan.co.jp/okamura/

KUROGANE

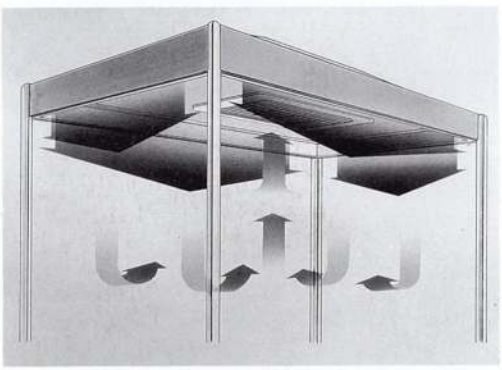
くろがね 分煙システム PONT(ポンテ)

時代のニーズに合わせて新登場
禁煙派と喫煙派が仲良く共存!!

ミーティングルーム、商談コーナー、リフレッシュコーナー、食堂、控室、展示場、待合室に



- 清浄器でクリーンエア化。エアーカーテンが煙を外に逃しません。
- 設置場所を自由に選べる自立型で組立、移動が簡単。
- メンテナンス回数は2〜3ヶ月に1回。
- 防災オプション(スプリンクラー、消火器、熱感知器)もあります。



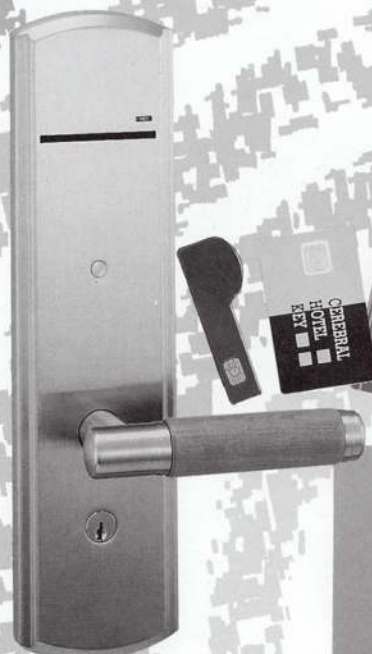
株式会社 くろがね工作所

本　社　〒550 大阪市西区新町1丁目4-26(四ッ橋中央ビル)
TEL(06)538-1010

名古屋　〒460 名古屋市中区栄5丁目27-14(朝日生命栄ビル)
TEL(052)251-6221

セキュリティ&アメニティライフをめざす…GOAL®

住宅からビルまで、あらゆるセキュリティニーズにお応えします。



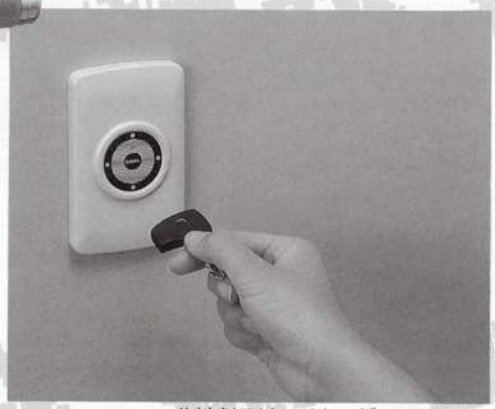
ICキー・ICカード・
磁気カードロック



テンキーシステム



カードロック
(用心錠)



非接触型キーリーダーシステム



プッシュ・プル錠



電気錠・出入管理システム機器



レバーハンドル錠
など各種錠前

株式会社ゴール

本　　社：〒532 大阪市淀川区三津屋北2-16-6 ☎06-309-1271(代)
東京支店：☎03-3452-6341(代)
大阪支店：☎06-308-5441(代)　　富山支店：☎0764-34-3971(代)
営 業 所：札幌・仙台・名古屋・広島・高松・福岡・米子



ALLIED BANK TOWER

better to BEST

暮らしにいちばんの快適さをお届けしたい。
住宅用建材からビル用建材まで。
三協アルミの技術です。

三協アルミニウム工業株式会社
本社: 〒933 富山県高岡市早川70 TEL 0766-20-2332
名古屋統括支店: 〒460 名古屋市中区新栄町1-5＜日石栄ビル＞5F TEL 052-961-5651



It's New

店舗用
耐久性アップ

S.FLOOR
H.FLOOR

住宅用
抗菌加工

新発売
長尺フロア見本帳

サンゲツのインテリア
壁装材・カーテン・カーペット・
カーペットタイル・クッションフ
ロア・フロアタイル・椅子張地

株式会社サンゲツ
名古屋市西区幅下1-4-1
TEL.052-564-3111 FAX.052-564-3191
●東京ショールーム TEL.03-3505-3300
●名古屋ショールーム TEL.052-564-3225
●大阪ショールーム TEL.06-440-5011
●岡山ショールーム TEL.086-292-3300
●広島ショールーム TEL.082-233-3551
●福岡ショールーム TEL.092-441-5181

人と部屋の間に。
サンゲツ

三晃金属工業株式会社
Sanko

屋根を創る
屋根を守る
屋根を活かす



「アコヤ貝」の大屋根が輝く講堂全景

金属屋根工事・防水工事・塗装工事・建材
全国に広がる販売網と施工体制

三晃金属工業株式会社

本　　社　東京都中央区京橋2—9—2 第1ぬり彦ビル　〒104 ☎03(3567)3557

名古屋支店　名古屋市中村区名駅3-25-9堀内ビル4F　〒450 ☎052(582)0311(代表)
静岡営業所　静岡市追手町9-22 読売ビル5F　〒420 ☎054(253)2175～6
浜松営業所　浜松市向宿2-1-7 PURE IIビル3F　〒430 ☎053(462)4330
三重営業所　津市桜橋2-114-1 丸山ビル2F　〒514 ☎0592(26)1011
三河営業所　岡崎市宇頭北町1-4-7　〒444 ☎0564(32)0891～2
岐阜営業所　岐阜市清766-1 飛鳥93ビル1F　〒500 ☎0582(74)9031～2

立山アルミ



人間にやさしい

快適空間をめざして

人が暮らす、遊ぶ、働く、思う、といった空間を考えるとき、
そこは人に優しいかどうか、自然や環境に調和しているかどうか、ということをいつも忘れません。
「快適」と感じる空間づくりには、そんな視点が大切だと思います。
人がいるから、技術があるから、夢があるから、
いつでもどこでも、「人間にやさしい快適空間をめざす」立山アルミです。

立山アルミニウム工業株式会社

本　　社/〒933 富山県高岡市早川550番地〈ビル建材事業部〉 TEL(0766)20-3321
名古屋支店/〒461 愛知県名古屋市東区葵1-26-14 シノダビル4F TEL(052)933-3302

TOSHIBA

E&Eの東芝

エレメイトニュールミナス 2

NEW LUMINOUS



- ●人と環境の美しい調和をモチーフに設計された、ゆとり感覚あふれるニューデザイン
- ●快適な移動のために情報システムで制御された数々のインテリジェント機能を搭載
- ●ヘリカルギヤを新採用し、大幅な省エネルギー化とランニングコストの低減化を実現
- ● IGBT の採用と制御回路のデジタル化により、より静粛で滑らかな走行性能を発揮

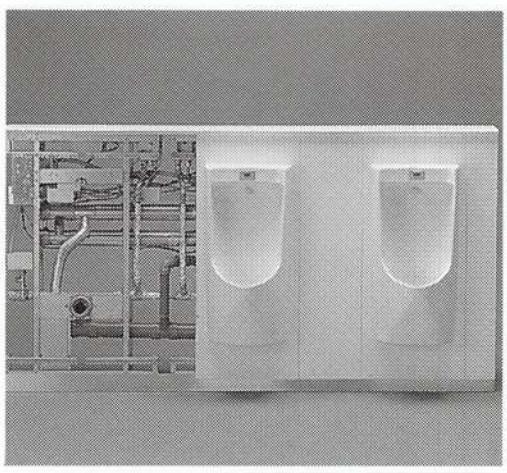
●お問い合わせは…**東芝エレベータ販売株式会社** 名 古 屋 支 店

名古屋市中村区名駅南 1 —24—30（名古屋三井ビル本館）☎ (052)564—8517



トイレのことは全てお任せ下さい。
システム工法のTOTOライニングユニット

器具だけでなく、トイレ造りに必要な部材を一括してユニット化したシステム工法のトイレ。
工期の短縮、工事管理の省力化、さらに高品質、高性能で在来工法と同等のコストを実現。
大規模建築から中低層建築、リモデルまで最適なトイレ空間を演出。
自立壁システムトイレは独立構造で耐震性も万全。



■**ビル寿命50年時代**：メンテナンス・改修まで含めて、ライフサイクルコストでは、ライニングユニットが圧倒的に有利です。
■**工期の短縮**：13職種におよぶ従来工事の設計・工事段階の作業を簡素化、各工程での施工養生期間が大幅に短縮、工事管理の手間も大幅に軽減されます。
■**現場の汚れ・騒音の大幅削減**：ブロック積みや、躯体工事、現場加工も不要。日中の改修工事も容易です。
■**施工の省力化**：床上配管方式のユニットを組立てるだけで、手配や段取りの手間を軽減します。

■**簡単なメンテナンス**：分割・着脱式の前面板(ライニングユニット)など、TOTO独自の構造で点検が容易に行なえます。
■**脱臭機能**：オゾン脱臭と排気脱臭の2つの方式で、トイレ全体のニオイを追放します。
■**清掃性の向上**：お手入れしやすい凹凸の少ないデザインです。
■**耐震構造のシステムトイレ**：自立構造で、建築躯体の層間変位の影響を受けにくく、1Gの耐震強度設計になっています。

TOTO
名古屋支社／〒460 名古屋市中区錦2-19-25
日本生命広小路ビル ☎(052)232-1010

快適な明日を提案する
TOYO Shutter

ビルに居たまま、
耐震補強と
外装リニューアル。



日本のビルを生まれ変わらせる新工法『ビルファイン・マーク2』。

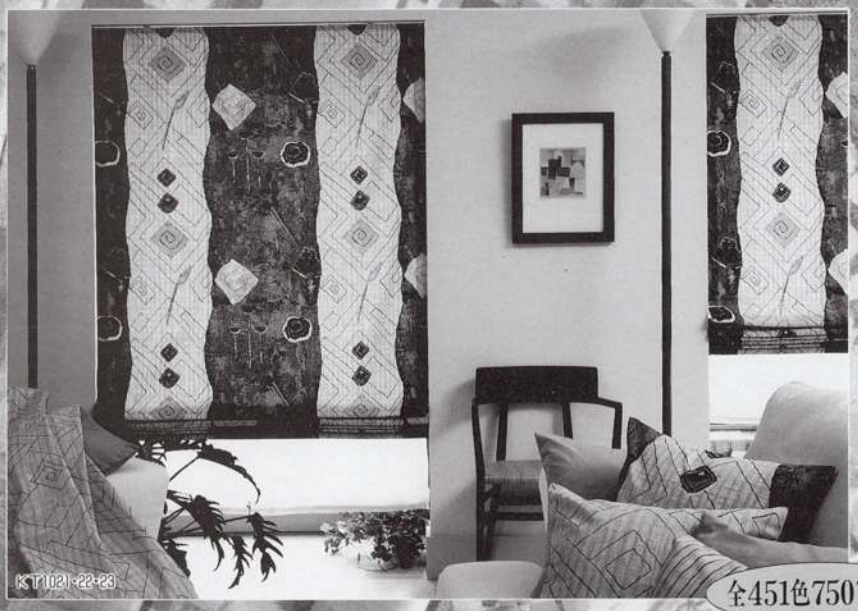
外装改修システム『ビルファイン』をさらに発展させて、既存建物の外側構面に補強ブレースやその他の装置を配置することで、耐震補強と外装リニューアルを同時に行う新工法『ビルファイン・マーク2』。工事中も、建物内部はそのまま使用できます。(鹿島建設株式会社との共同開発)

耐震補強・省エネ外装改修システム
BUILFINE®

東洋シヤッター株式会社

本　社〒540 大阪市中央区南新町1-2-10 TSビル ☎06(943)6571
東京本社〒106 東京都港区六本木6-3-18 第一地所麻布ビル ☎03(3479)2911

お届けしたいのは、気持ちいい暮らしです。



全451色750アイテム

東リ カーテン '96~'98

新発売
新発想
パネルカーペット
だから、
こんなに便利。
40cm
40cm


●パネルカーペット アタック200

ならべて
はずせて
あらえる

アタック100
■パイル：ポリプロピレン100%
■価格：5,000円/㎡

アタック200
■パイル：ナイロンフィラメント100%
■価格：8,500円/㎡

- ●40cm角だからカンタンにならべられる。
- ●家具を動かさなくても敷きつめられる。
- ●箱に簡単収納。引っ越しだって、もうあわてない。
- ●ドレッシングなどの油汚れも、そこだけはずして洗えます。
- ●洗濯機でも洗えるすぐれもの。
- ●くりかえし洗えて、いつも清潔。洗濯機で脱水すればすぐ乾く。
- ●表も裏もやわらかだから、転んだって痛くない。
- ●裏がソフトバックだから、防音設計がうれしい。
- ●足元があたたかく防ダニ加工もあたりまえ。

※フローリングの上にならべるだけの簡単施工が可能。そのための副資材も用意しています。



■名古屋ショールーム　〒460 名古屋市中央区栄2-6-1 白川ビル別館1F TEL.052(202)1691
■東　京ショールーム　〒141 東京都品川区東五反田5-25-19 東京デザインセンター4F TEL.03(5421)3711
■大　阪ショールーム　〒559 大阪市住之江区南港北2-1-10 アジア太平洋トレードセンターITM棟12F TEL.06(615)5408
■札　幌ショールーム　〒060 札幌市中央区南2条西10 アラゼンビル1F TEL.011(271)2561

東リ株式会社



東京国際展示場　商品名/ソフィー電動 F.T.S.タイプ

ニチベイは、
快適な光空間の創造を目ざします。

窓装飾と間仕切りの専門メーカーとして、
つねにマーケットニーズを見つめ、ホームユースからコントラクトユースまで、
幅広い商品づくりを心がけてきました。
これからも、ニチベイは、機能性とデザイン性に富んだ、
さまざまな商品を通じて快適空間の創造を目ざします。

株式会社ニチベイ
本　社 / 〒103 東京都中央区日本橋3-15-4
ビル事業部 営業推進室 / 〒454名古屋市中川区露橋1-16-19 TEL052(354)7611

HITACHI



それは乗る人への優しさを追求した操作性。
それはゆとりとくつろぎを生み出す美しさ。
それはあくまで実質を追求した基本性能。
それはビルの環境に対応する多彩なデザイン。

優(ゆう)・美(び)・実(じっ)・環(かん)

デザインに、機能に、さらに磨きをかけて新登場。
標準型エレベーターの新シリーズ、ビルエースNEWプリード。

ビルエースNEWプリードのコンセプトは、〈優・美・実・環〉。福祉社会への対応などこれからの移動空間に求められる優しさと美しさを、ますます魅力的になるビルにふさわしい性能と個性を、より高い次元で実現しています。
乗用、住宅用、寝台用それぞれのロープ式、油圧式を合わせたラインアップは合計40機種。
建物の用途、イメージに応じて、乗る人の心を満たすひとときを提供します。

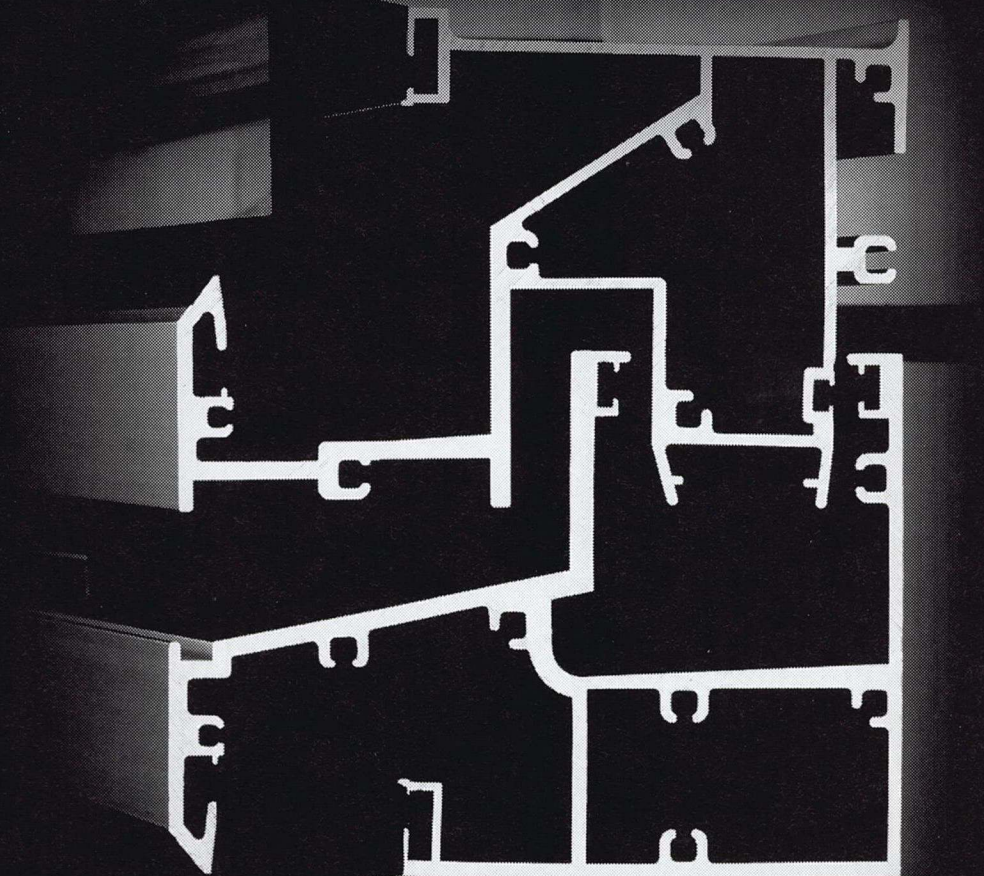
日立標準型エレベーター
ビルエース NEW プリード PULIDO

天井デザイン
EX-403

株式会社 日立製作所
お問い合わせは＝電機システム事業本部 昇降機事業部/電機システム統括営業本部 〒101-10 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地
電話/東京(03)3258-1111〈大代〉または最寄りの支社へ 北海道(011)261-3131・東北(022)223-0121・横浜(045)451-5000
北陸(0764)33-8511・中部(052)243-3111・関西(06)616-1111・中国(082)223-4111・四国(0878)31-2111・九州(092)852-1111

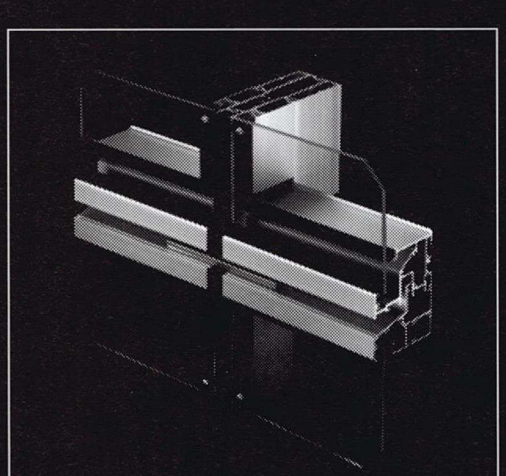
資料請求券
建築と社会
1997. 3

FUJI SASH



技術が広げる新しい標準品の世界

インターロック式カーテンウォール SR-IL



SR-IL

特許出願中

建築工法の合理化や施工の自動化に対応するための、外壁のユニット化への要求が高まっています。不二サッシでは、部材同士の嵌合によるインターロック方式を採用したユニットカーテンウォール「SR-IL」の標準化により、これからのトータルな建築ニーズに対応していきます。「SR-IL」は、現場シールを不要にする乾式化、ガラス・耐火ボードを工場で組み込んだユニタイズド化を目指しており、品質の安定に加え、施工現場における安全性の向上、生産管理の合理化に大きく貢献します。そして、ノンシーリング、メンテナンスフリーといった技術の完成に向けて、新たな建築の工業化を推進します。

- ●工場生産方式による、安定した品質。
- ●ユニタイズド化による、現場施工の簡略化・省力化の実現。
- ●乾式ジョイント方式による、メンテナンス性の向上。
- ●等気圧工法の採用による、安定した高い水密性。
- ●耐候性・耐震性への配慮(シール損傷の心配をなくした、内外ガスケット方式)。
- ●躯体とユニットの固定をゲルバー梁として設計しており、部材のスリム化が可能。

ユニタイズド……ガラス・耐火ボードをセットした工場完成品。

インターロック機構……カーテンウォールユニット間を、アルミ押し出し形材の連続したかみ合わせ断面と、オープンジョイント方式によりジョイントするシステム。

窓から夢をひろげていきます
不二サッシ
東京本部
〒150 東京都渋谷区渋谷3-26-18 TEL.03-3797-1134(代表)
名古屋支店
〒450 名古屋市中村区名駅4-2-25 TEL.052-582-7511(代表)

National

公共空間を抗菌空間に



微生物の発生・育成・増殖を抑制する
抗菌材（アメニトップ）の利用で、
健康で清潔な空調環境をつくります。
ぜひ、アメニトップの抗菌作用を、病院や介護施設、
福祉施設の空調設備抗菌化にお役立て下さい。

（抗菌化処理は空調機器の部材に、アメニトップその他の抗菌材、防カビ材を塗布する処理です。）

●空調機内部の通風路を形成する主要部品に対して、抗菌化処理を施したものです。
●抗菌化処理は、処理を施した部品表面に付着した菌・カビの増殖を抑制する目的のものです。



ナショナル 抗菌仕様空調機器

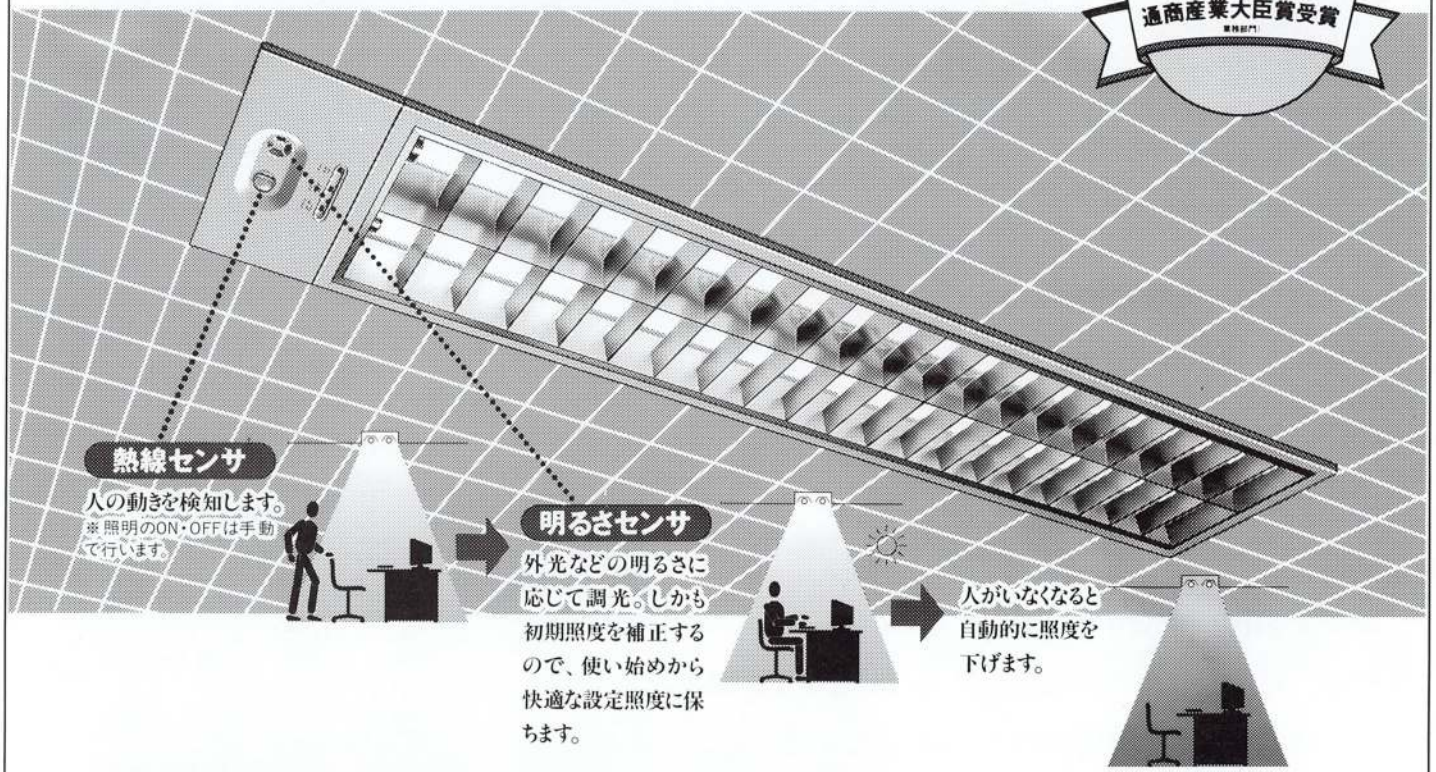
●お問い合わせは……松下電器産業株式会社〈官公需営業本部〉中部支店　TEL(052)962-5345
松下電器産業株式会〈建設システム営業本部〉中部支店　TEL(052)951-6010

熱線センサ　明るさセンサ

人や光を感じて明るさをコントロールする省エネ照明。

National
松下電工

照明器具とセンサ・制御システムを一体化した全く新しいタイプのオフィス照明。器具単独で明るさをコントロールできるため、省エネが可能なほか、制御システムが不要で設計・施工も容易です。



器具単独で明るさコントロール。だから、約42%※も省エネです。



HfフリーコンフォートOA CLASSⅡ Hf蛍光灯32W2灯
フリーF4256HDY標準価格74,500円(税・工事費別)
●セルフコントロール器具1台で、同タイプセンサなし器具(フリーF425HDY)を3台まで制御できます。

※セルフコントロールAN(明るさセンサ・熱線センサ付連続調光タイプ)と当社従来器具(フリーF426CY)との比較の場合
明るさセンサ
●初期光出力の調整による省エネ:約15%
●外光利用による省エネ:約10%
熱線センサ
●不在時調光による省エネ:約15%
(当社シミュレーション条件による比較)

快適照明空間づくりを
松下電工が
お手伝いします

■テクニカル(EC)とデザイニング(D&C)のプロフェッショナル集団をご活用ください。

ナショナル Hf セルフコントロール照明器具

※セルフコントロール照明器具は、効果的な省エネを行うため、用途に合わせて4タイプがあります。
詳しくはHf照明専用カタログをご覧ください。

―お問い合わせは ―松下電工株式会社 中部特機営業部　TEL.052-586-2616　FAX.052-561-1688

MITSUBISHI
SOCIO-TECHの三菱電機

空調自在化宣言
ソフト・ハード・サービス。3つの視点から、
三菱電機は空調の自在化を推進していきます。



快適性と効率性のベストバランス。

直膨式のメリット"個別分散化"を初めて水方式でかなえた、
エアハンドリングユニットシリーズ。空調の自在化を推進する三菱の技術が生きています。

エアハンは三菱電機、という3つの理由です。

多彩な制御

コントローラ、アクチュエータ、センサ、リモコンを使うことにより、自己完結の空調制御が可能になりました。

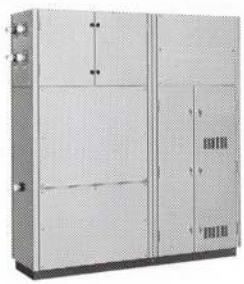
高耐久性

外装に高耐蝕・高耐久性を誇るアルミ・亜鉛合金鋼板を採用。またドレンパンをステンレス鋼板とすることで、耐久性と保全性を大幅に向上しています。

省工事性

配線工事は、無極性2線と電源配線だけのシンプルさです。

NEW コンパクトエアハン



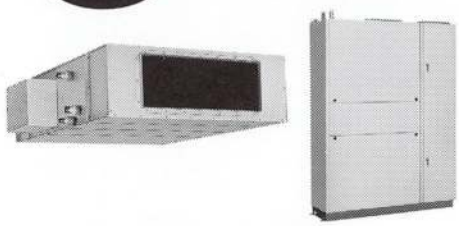
業界No.1の静音性

独自構造により、低騒音・低振動化を達成。6シリーズ42機種を標準ラインアップし、要求される空調グレードに最適な空気調和を実現します。

■外気混合形ACX-MXシリーズ
風量(㎥/min)40・50・60・80・100・150・200

その他のラインアップ
■全外気形ACX-AFシリーズ
■全還気形ACX-ARシリーズ
■ダンパ水平形ACX-DHシリーズ
■ダンパ垂直形ACX-DVシリーズ
■ロスナイ内蔵形ACX-HEシリーズ

NEW ターミナルエアハン



トップクラスの省スペース化

業界トップクラスのコンパクトなボディに、多彩な制御機能を凝縮。スペースの有効利用を実現しながら、求められる空調グレードに的確に対応します。

■天井埋込型ATH-SA
■床置型ATV-SA
風量(㎥/min)20・30・40・60・80・100

ビル空調 フリープランシステム 水方式空調システム

三菱電機エアハンドリングユニット

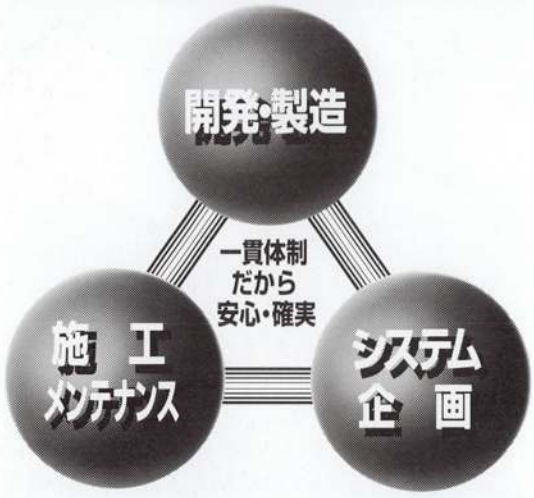
三菱電機中部支社 冷熱住設部
〒450 名古屋市中村区名駅3-28-12(大名古屋ビル) TEL.(052)565-3212

三菱電機株式会社

●世界のロックメーカー

MIWAのセキュリティシステム

永年のロック技術と経験が、
ユーザーインターフェイスに
生かされています。







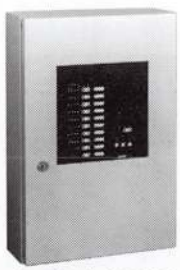
バーコードカードリーダー
BAC-001・DS



電気錠操作表示器
SWP-C2DE



指紋照合ユニット
FPU-002・D



多回線電気錠操作盤
BAN-LS10

MIWAは、つねにお客様のご要望やご意見を大切にし、確かな性能・品質でご満足いただける製品をお届けしています。

ビル、マンション、住宅のセキュリティシステムでは、使う人や管理者の立場にたった安全性、操作性などキメ細かなユーザーインターフェイスが求められます。たとえば、離れた部屋にいながら玄関や門扉ロックの施・解錠と戸締り確認ができ、お年寄りやお子さまにも、使い易い電気錠操作表示器、管理室の操作盤から共通玄関や非常階段扉の電気錠を一括監視・操作できる多回線電気錠操作盤などもその一つです。また、MIWAオリジナルのバーコードカードを用いたビル出入管理システムでは、アクセス部のカードやカードリーダーが磁気や水・油・ホコリなどに強く、日常気兼なくお使い頂けるというのが最大の特長です。システムの中枢となるパソコンの操作は、アイコンをクリックするだけ。どなたにも高度で確実な出入管理が実現できるWindows®対応のソフトです。MIWAは、永年の経験と技術を生かし、人にやさしく使い勝手のよい各種機器を開発し、システムの自動化、省力化をすすめています。

MIWAは、システムのプランニングから施工、メンテナンスまで一貫体制でお受けしています。

大規模・複雑なキーシステムが構築できる「U9」シリンダーを初め各種シリンダー。パーソナルカードとしては磁気やバーコード、非接触式、ハイブリッドなどの各種カードとそれに伴う識別装置・操作盤。そして各種テンキーや指紋照合、リモート・キーなど豊富に取り揃えています。MIWAはロック一筋50年の経験に基づきラインナップされた各種機器を軸に、お客様のご要望を承り〈コンサルティング〉、各種システムを具体的に構築し〈プランニング＆デザイン〉、機器の据付け・施工から立上げ調整まで一貫した体制でお引き受けしています。さらにメンテナンスでは、MIWAが認定した全国ネットワークの美和ロックサービス代行店SDが、キメ細かなサービスを行っていますので運用面でも安心です。

Windows® 米国Microsoft社の登録商標です。

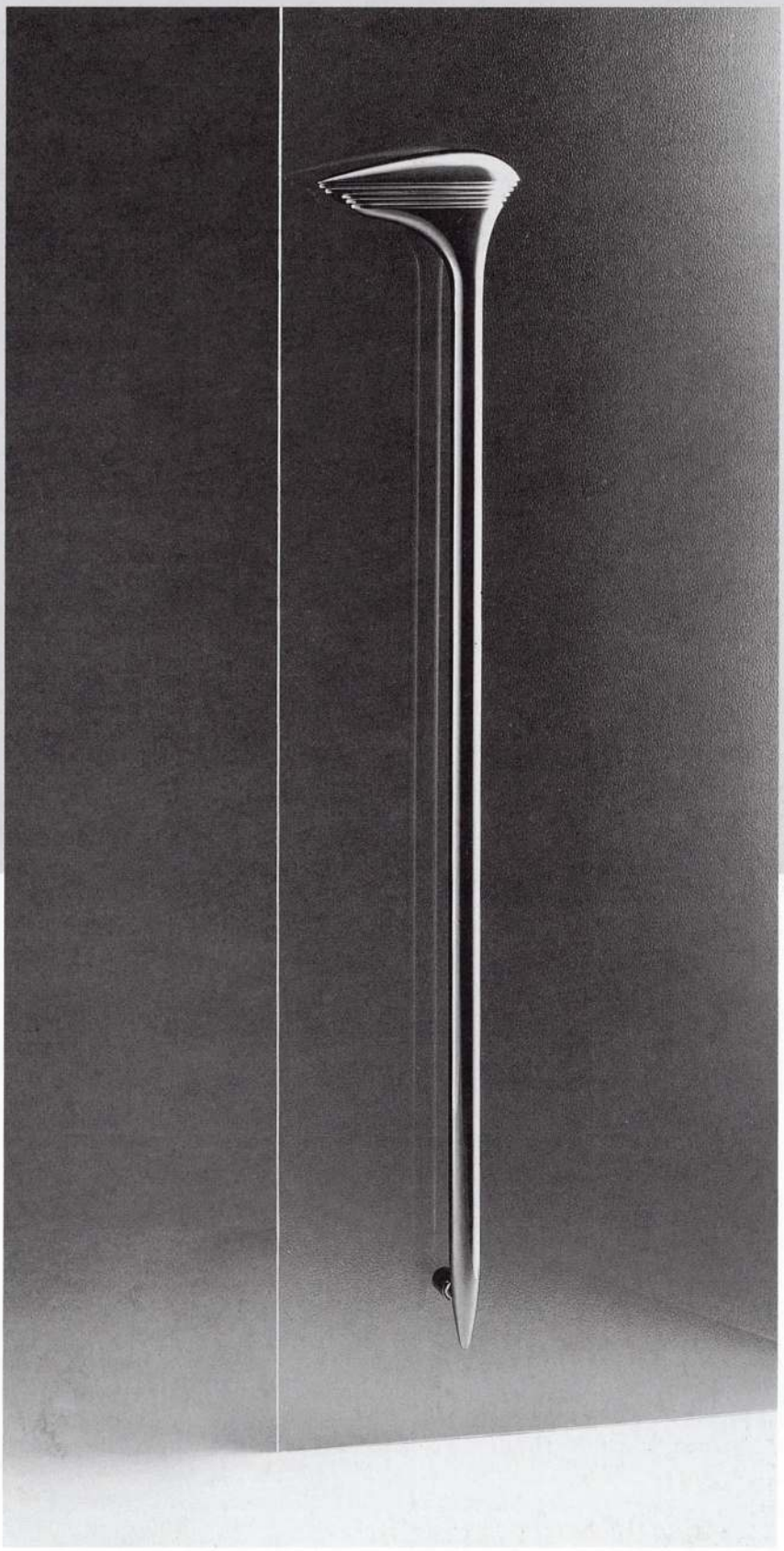
MIWA

● お問い合わせ、ご相談は下記へどうぞ
美和ロック株式会社
〒105 東京都港区芝3丁目1番12号 TEL03-3452-5551(代) FAX03-3454-6547

DOOR-HANDLE

ユニオン「ドアハンドル」

豊かな空間文化づくりをめざします。



●建物用ドアハンドル

●レバーハンドル

●ドアストップ―エッセ

●空間用備品―フロアシステム

●消火器ケース―アルジャン

●サインシステム―ピクト

●収納扉―クロセットドア

●補助手すり―ハンドバー

●ホーム手すり―つかまっ手

●車止・防護柵―エキスポール

●キャスタル+メタルアート

●その他ハードウェア――アーキパーツ

建築のこころ伝わる確かな製品を

UNION
建設環境金属製品の
株式会社ユニオン
UNION CORPORATION

■本社
大阪市西区南堀江2-13-22 〒550

■東京支店
東京都江東区白河2-9-5 〒135
㊅03(3630)2811
㊃03(3630)2816

■東京ショールーム
東京都港区虎ノ門2-3-22 〒105
㊅03(3506)1717
㊃03(3506)1718

■大阪支店・ショールーム
大阪市西区南堀江2-13-22 〒550
㊅06(532)3731
㊃06(532)0568

■名古屋営業所・ショールーム
名古屋市中川区舟戸町3-20 〒454
㊅052(363)5221
㊃052(363)5255

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59 電話 06(302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－3344－1851(大代)　大阪本社☎06－448－3603(代)
大阪支社 ☎06－448－5851(代)　名古屋支店 ☎052－211－1535(代)　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号 電 06－466－2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3 電0720－49－2128

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　大島　剛
取締役大阪支店長　琴浦　健

大阪支店　大阪市中央区北浜2－2－21　電話 06(202) 3071（代表）
本社・東京本店　東京都千代田区有楽町1－4－1　電話 03(3502)6111（大代）
支　　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・横浜・東関東・北関東・神戸・四国

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131(代)
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

OKUJU
スペース クリエイター

建築に革命をもたらした技術がある
「大規模天井無足場工法」

内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社 オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530
TEL(06)312-4131　FAX(06)312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・仙台・宮崎・京都

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06-949-1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06-363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡
営業所　札幌・茨城・大宮・千葉・山梨・静岡・福井・滋賀・和歌山・松江・長崎・沖縄
出張所　青森・秋田・盛岡・川崎・富山・岐阜・三重・鳥取・岡山・高松・下関・大分・熊本・宮崎・鹿児島

Digital Pri-Press

AOBA PRINTING CO.,LTD.,

代表取締役社長 依藤孝行

青葉印刷株式会社

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-351-5428 Fax.06-351-5299

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
郵便番号542 電話 大阪（06）768－5031 代表
メンテナンス部　電　話　大阪（06）768－1651 代表
東京支店　東京都文京区小石川1丁目12番14号（日本生命小石川ビル7階）
郵便番号112　電話（03）5689－2351 代表

夢×技=∞ 無限大

何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術



電気・計装・空調・土木
栗原工業株式会社
本社/〒530 大阪市北区角田町1-1（東阪急ビル）
TEL 06(313)1101
創業1919

Carrier 冷暖房は CARRIER キャリア

東洋キャリア工業㈱デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所 吹田市豊津町40番38号
電話 大阪（384）1201～7

電気工事設計施工
株式会社 三興社
代表取締役社長 上田正雄
本社 大阪市北区西天満2丁目6－8（堂ビル5階）
電話 06（361）3671（代）
支店 東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電話 03（3666）1478（代）
営業所 堺・泉州・泉南・滋賀

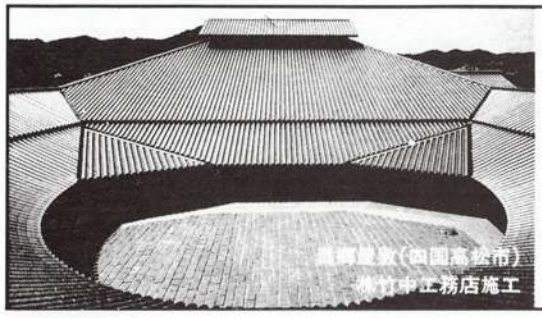
電気設備 設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役 山本貴士
本社 〒530 大阪市北区中之島三丁目2－4（朝日ビル）電話06（385）1361代
大阪営業所 〒564 吹田市垂水町3丁目34－6 電話06（385）1361代
京都営業所 〒615 京都市右京区西京極葛野町21 電話075（311）1185代
神戸営業所 〒650 神戸市中央区浪花町59（神戸朝日ビル）電話078（333）7756代

人と都市の快適な環境をつくります
営業種目 設計・施工・監理
●電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
●空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
●プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
●情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
●電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電
住友電設株式会社
大阪本社 〒550 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06) 537-3400
東京本社 〒105 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
常務取締役支社長 馬田栄
大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号 電話 大阪（202）0325～9番
本社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支社 北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・中部・九州

＊奉仕感謝の店
タイル及び規格石一式施工
株式会社 川岸窯業商店
本社 大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06－532－0461（代表）
FAX.06－535－5181
天理営業所 天理市丹波市新町49

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工
SANPO
三宝電機株式会社
取締役社長 嘉納秀一
本社 〒530 大阪市北区西天満2-6-8（堂ビル） TEL.06(364)1471・FAX.06(364)5533
東京支社 〒105 東京都区西新橋3-8-3ランティック新橋ビル TEL.03(5472)3311・FAX.03(5472)0085
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城3-12-14 TEL.052(991)5131・FAX.052(914)7535
神戸支店 〒657 神戸市灘区友田町3-6-11K・Tビル TEL.078(842)6411・FAX.078(842)6416
堺研究所 〒590 大阪府堺市三宝町七丁369 TEL.0722(27)8408・FAX.0722(27)1424



〒556 大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
ファックス 五六一～七四五四
☎ 五六一～七四一六
ナニワ瓦株式会社
あらゆる屋根工事の相談は、
施工中工務店施工

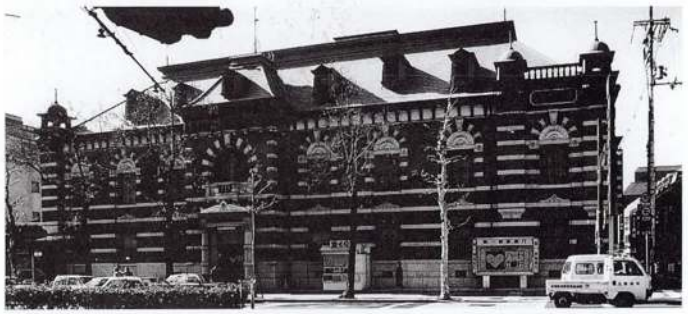
学校建築のトータルアドバイザー
二葉工業株式会社
黒板・掲示板・家具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547 大阪市平野区加美北3－4－5
TEL.06(792)5858 FAX.06(792)2810

新鮮
情報処理／編集・企画／印刷・製本
ハード&ソフト…プリンティングの先端を拓きます。
ND
日本電植株式会社
〒530 大阪市北区天満2丁目5番15号 TEL.06(352)7502(代)
FAX.2F事務所 06(355)2714 3F制作 06(357)7250

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉8－173－1
TEL(0729)39－3610
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二　〒597　大阪府貝塚市王子501

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
株式会社エヌエムビー
株式会社ポゾリス物産
本　社：東京都港区六本木3－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-202-3294

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)



デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充塡モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート軀体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

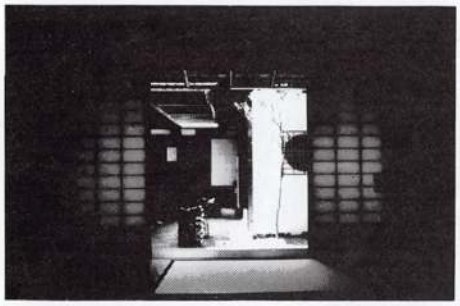
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133

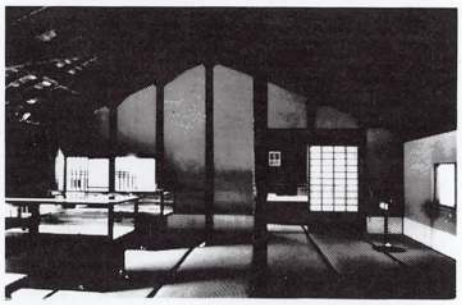
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）332－6861
TEL 東京（03）3272－8501

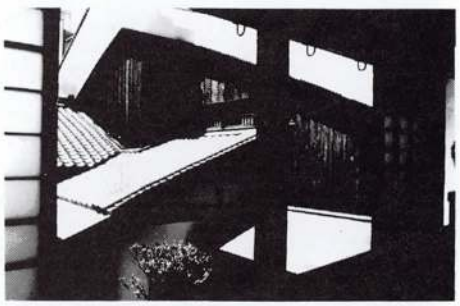
小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）443－6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）252－6000

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83－2381
TEL 大阪（06）877－1581







テトカッパー防水層

カッパー防水帯 ――― コーパータイト／オクロン防水帯

資料をご請求下さい。

奥山化工業株式会社

本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル　TEL03(3571)2703㈹ FAX03(3571)0264

大阪事務所 TEL06(391)1081－2 FAX 06(395)2109　名古屋出張所 TEL052(811)3660

横浜営業所 TEL045(320)4832　FAX045(320)4765　厚木出張所 TEL0462(21)1761 FAX0462(23)1341

埼玉営業所 TEL048(774)2845　茨城出張所 TEL0292(28)0878 FAX0292(28)2614

新しい時代の、新しい扉をひらきたい。

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社

本　社　〒540 大阪市中央区南新町1－2－10(TSビル)

TEL(06)943－6571(代)

■東京/横浜/盛岡/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/大津/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市

TOF フッ素樹脂積層被覆鋼板 & COM 耐酸被覆鋼板



中部電力川越火力発電所

「耐酸被覆鋼板」のパイオニアとして約半世紀の経験を生かし、新たに「フッ素樹脂積層被覆鋼板」を製品群に加えました。
建築物の耐久性と、独創的な色彩と外観をクリエイトします。

■ フッ素樹脂積層被覆鋼板
　ＴＯＦ（タフフロール）
■ 耐酸被覆鋼板
　ＣＯＭ（ケミカラーオーシマメタル）
　ＥＢＭ（エバーブライトメタル）

大島応用化学工業株式会社

本社　大阪市旭区太子橋1-15-22　Tel.06(954)6521　Fax.06(954)6480

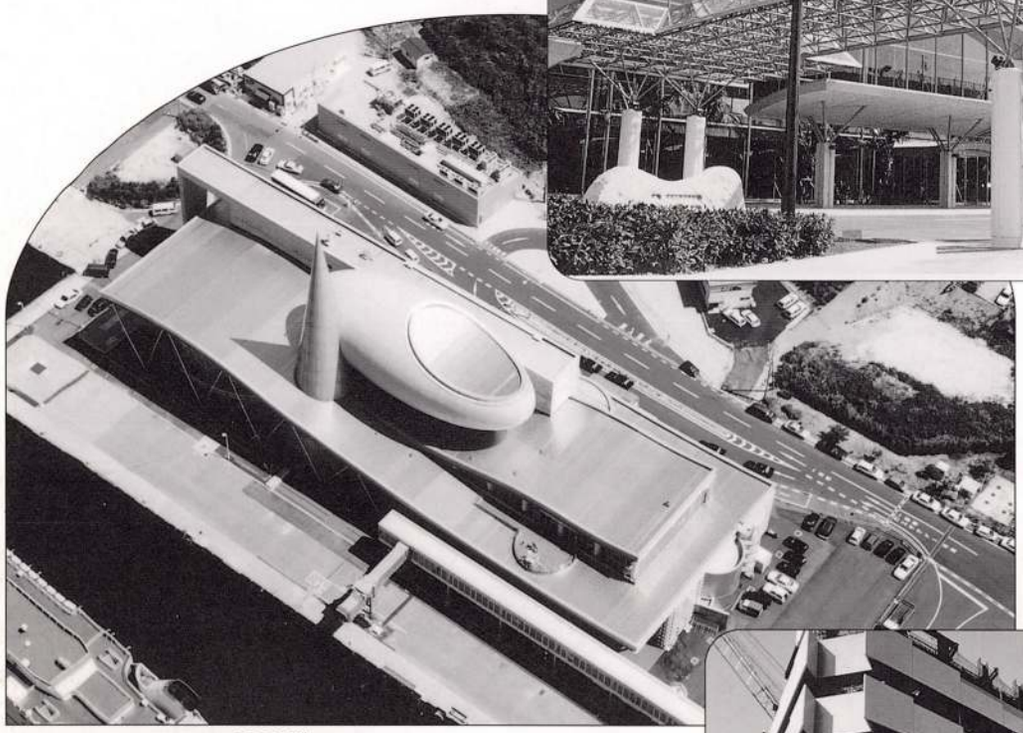
●支店 東京、名古屋、新居浜 ●工場 新居浜、寝屋川 ●営業所 四日市、岡山、広島、宇部、福岡

テクノハート・カンパニー
住友金属

住友金属の
建築用鋼材と建築エンジニアリング
―設計の自由度を大きく広げます



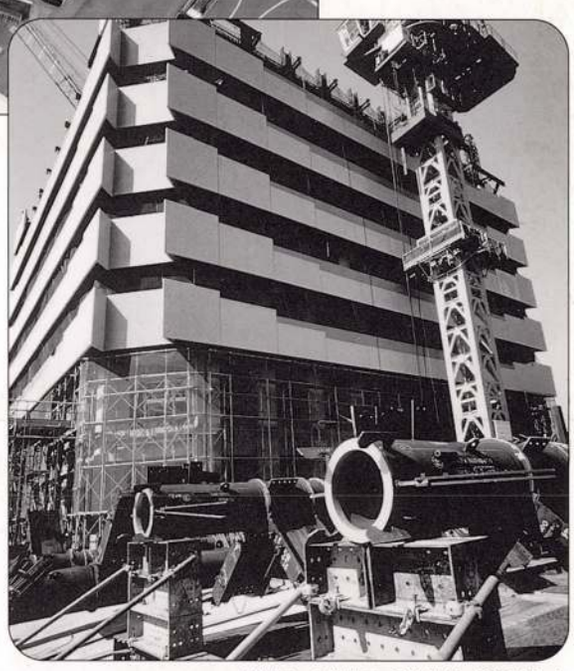
空間美を創造する
立体トラスシステム・
SSトラス



ステンレスシーム溶接屋根・P&P工法



建築構造用耐火鋼材・FR鋼



鍛造リング採用の円形鋼管柱・STコラム

住友金属工業株式会社 建設エンジニアリング事業部

建材部	東京建築建材室	03-3282-6632	システム建築部	東京システム建築営業室	03-3282-9110
	大阪建築建材室	06-220-5600		大阪システム建築営業室	06-220-5167
建築鉄構部	(東京)特殊建築鉄構室	03-3282-6244	ステンレス・チタン建築部	(東京)	03-3282-6566
	(大阪)特殊建築鉄構室	06-220-5607		(大阪)	06-220-5597

雑誌 03379-3

社団法人 日本建築協会 〒530 大阪市北区梅田1-10-3-2100 電話大阪06(345)0835 FAX06(345)0834 振替口座〇〇カ一〇〇カ三九六七五
定価1,200円(本体1,165円・消費税35円・送料社)正会員の購読料は会費に含めて徴収